禁電

CZ
473
13
80W01222

鐵道法規類抄

電氣

鐵道院總裁官房文書課編纂

シ223ム71
大正
1.12.24.
内交

凡例

一、本書ハ鐵道ノ通信及電力ニ關スル規定ヲ纂輯セルモノナリ

一、本書ニ對シテハ將來追加編ヲ發行シ法令ノ新規發布又ハ改廢等ヲ補正ス

CZ
473
13

國立國會
書
55.1.17
圖書館藏書

80W01222

鐵道法規類抄追錄加除一覽

追錄號數	內容現在	加除者檢印	加除年月日
第　號	大正　年　月　日現在		年　月　日
第　號	大正　年　月　日現在		年　月　日
第　號	大正　年　月　日現在		年　月　日
第　號	大正　年　月　日現在		年　月　日
第　號	大正　年　月　日現在		年　月　日
第　號	大正　年　月　日現在		年　月　日
第　號	大正　年　月　日現在		年　月　日
第　號	大正　年　月　日現在		年　月　日
第　號	大正　年　月　日現在		年　月　日
第　號	大正　年　月　日現在		年　月　日
第　號	大正　年　月　日現在		年　月　日
第　號	大正　年　月　日現在		年　月　日
第　號	大正　年　月　日現在		年　月　日

○本紙ヲ鐵道法規類抄ノ首ニ挿入シ所定欄ニ各事項ヲ記入シ以テ參考ニ供セラレタシ

鐵道法規類抄追錄加除一覽

追錄號數	內容現在	加除者檢印	加除年月日
第　　號	大正　年　月　日現在		年　月　日
第　　號	大正　年　月　日現在		年　月　日
第　　號	大正　年　月　日現在		年　月　日
第　　號	大正　年　月　日現在		年　月　日
第　　號	大正　年　月　日現在		年　月　日
第　　號	大正　年　月　日現在		年　月　日
第　　號	大正　年　月　日現在		年　月　日
第　　號	大正　年　月　日現在		年　月　日
第　　號	大正　年　月　日現在		年　月　日
第　　號	大正　年　月　日現在		年　月　日
第　　號	大正　年　月　日現在		年　月　日
第　　號	大正　年　月　日現在		年　月　日

○本紙ヲ鐵道法規類抄ノ首ニ挿入シ所定欄ニ各事項ヲ記入シ以テ參考ニ供セラレタシ

鐵道法規類抄目次

第一章　通信

○電信法（明治三十三年三月十三日　法律第五九號）……一
○電報規則（明治三十三年九月一日　遞信省令第四六號）……七
○官廳用電信電話ニ關スル件（明治三十三年八月三十一日　勅令第三五六號）……三三
○官廳用電信電話規程（明治三十三年九月一日　遞信省令第五一號）……三四
○私設電信規則（明治三十三年九月一日　遞信省令第四八號）……三五
○私設電信ニ依ル公衆通信取扱規則（明治三十三年九月一日　遞信省令第五〇號）……四〇
○官廳用及私設電信電話ニ依ル公衆通信取扱事務規程（明治三十四年一月十一日　遞信省通第七二三七號）……四二
○停車場構內電信取扱所ニ於ケル汽車中ニ在ル者ニ宛テタル電報取扱ニ關スル件（明治四十五年四月十二日　遞信省告示第三八七號）……四六
○列車乘客ノ發信電報取扱方ノ件（明治四十五年四月十九日　公報注意）……四六
○停車場掲示電報ヲ掲示スル停車場名（明治四十五年四月三十日　遞信省告示第四三八號）……四七
○汽車乘客ノ發スル新聞電報仲介ノ件（大正元年九月二日　公報注意）……五六
○鐵道電報規程（明治三十九年六月二十八日　達第九五號）……五六
○鐵道電報取扱細則（明治四十一年十二月二十八日　達第一〇〇號）……五九
○出張員等ニ宛タル電報宛所記載方ノ件（明治四十五年五月十四日　公報注意）……八〇

○鐵道電報ノ受信證送出方ノ件　明治四十一年九月五日　公報注意……八〇
○鐵道電報發受者略名　明治四十一年十二月十二日　達第三二號……八〇
○鐵道電報用略號　明治四十二年一月二十八日　達第五三號……八〇
○各驛所名電信電話符號設定方ノ件　明治四十年四月六日　達第七號……八一
○鐵道電報略號北海道線ニ限リ特例ノ件　明治四十二年三月三十日　運第一〇六五號……八一
○鐵道電報用紙雛形　明治三十九年十月三十一日　鐵運乙第一四七二號……八一
○鐵道電報原書整理保管方ノ件　明治四十三年四月十五日　達第三二二號……八二
○鐵道電報原書整理方ノ件　明治四十二年六月八日　鐵運丙第一一八五號……八三
○公衆通信取扱事務規程ニ依ル電報原書處理方ノ件　明治三十九年八月十五日　鐵運乙第一二三三號……八三
○鐵道電報通信數整理方ノ件　明治四十二年七月二日　公報注意……八四
○鐵道電報發信番號ニ關スル件　明治四十二年九月二十二日　公報注意……八四
○公衆電報附帶ノ各局所宛局報處理方ノ件　明治四十一年二月十九日　公報注意……八四
○鐵道電報著驛指定方ノ件　明治四十四年二月二十日　公報注意……八五
○正午報傳送手續　明治四十二年二月二日　達第六三號……八五
○廳内電信所設置ノ件　明治四十一年四月十五日　達第一八九號……八六
○院内電話交換及同電信所管理方ノ件　明治四十三年八月十六日　達第七〇二號……八七
○鐵道電報繼送規程　明治四十三年四月九日　達第二八三號……八七
○電報繼送規程施行後電報處理方ノ件　明治四十三年四月九日　公報注意……八九
○電報ノ臨時中繼竝其發出注意方ノ件　明治四十三年九月七日　鐵電第一五三九號……八九
○日附點檢簿ニ關スル件　明治四十三年十二月十二日　公報注意……八九
○官廳用電信電話規程ニ依ル事務處理方ノ件　明治四十一年十二月二十一日　通規甲第五五六號通牒……九〇
○官廳用電信電話規程其他ニ基キ申請又ハ屆出ヲ要シ若クハ鐵道電報中繼順路ノ設定開廢公衆電信取扱所ノ開廢等ニ關スル事務處理方ノ件　明治四十二年一月六日　鐵運丙第二號通牒……九〇
○公衆電信取扱所ニ關スル事務處理方ノ件　明治四十一年十二月十二日　鐵運丙第二三號……九一
○電信線電話線建設條例　明治二十三年八月六日　法律第五八號……九一
○電氣通信線路施設心得　明治四十四年十一月二日　達第八五七號……九三
○電信及電話施設工事直營施行ノ件　明治三十三年十一月七日　鐵作第八八九號……一三六
○電信電話工事施行方ノ件　明治四十三年四月二十九日　公報注意……一三六
○電氣通信回線試驗規程　明治四十四年六月三日　達第四二二號……一三六
○電信電話回線名竝其接續驛所名ノ件　明治四十二年五月二十八日　達第四四一號……一四〇
○電氣通信回線圖符標凡例　明治四十二年五月四日　公報注意……一四一
○電信機械室許入ニ關スル件　明治四十三年四月二十七日　達第三六一號……一四一
○電信機械室許入室證及電報原書查閲章ニ關スル件　明治四十三年四月二十七日　公報注意……一四二

第二章　電力

○電氣事業法　明治四十四年三月二十九日　法律第五五號……一四三

○電氣事業法施行期日ノ件……一四六
明治四十四年八月二十九日　勅令第二三五號

○電氣事業法施行規則……一四六
明治四十四年九月五日　遞信省令第二五號

○電氣事業法ニ依ル電氣工事規程……一八九
明治四十四年九月五日　遞信省令第二六號

○電氣事業法第九條ニ依ル使用許可竝使用料決定申請規則……二二四
明治四十四年九月二十八日　遞信省令第二九號

○電氣事業法施行規則第六十五條ニ依ル電氣事故届出規程……二二四
明治四十四年九月二十八日　遞信省令第三二號

○電氣事業法ヲ準用スル事業ニ關スル件……二二六
明治四十四年八月二十九日　勅令第二三七號

○電氣事業法ヲ準用スル事業ニ關スル手續……二二六
明治四十四年九月二十八日　遞信省令第三〇號

○官廳ニ於テ電氣事業ヲ營ム場合ニ關スル件……二二七
明治四十四年八月二十九日　勅令第二三六號

○官廳施設電氣事業規則……二二七
明治四十四年十月十六日　遞信省令第三六號

○官廳施設電氣事業規則ニ依ル事務處理方ノ件……二二八
明治四十四年十一月二十八日　鐵電第二五七六號

○自家用電氣工作物施設規則……二二九
明治四十四年九月二十八日　遞信省令第三一號

○電氣測定法……二三三
明治四十三年三月二十五日　法律第二六號

○電氣測定法第七條及第八條施行期日竝附則第三項ノ期間ニ關スル件……二三四
明治四十四年十二月二十七日　勅令第二九五號

○電氣計器試驗規則……二三四
明治四十三年十二月二十七日　遞信省令第一一六號

○電氣計器ノ公差、檢定及檢定手數料ニ關スル件……二三八
明治四十四年十二月二十七日　勅令第二九六號

○電氣計器檢定規則……二四〇
明治四十四年十二月二十八日　遞信省令第五〇號

○電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱其他ニ關スル件……二四七
明治四十三年十二月二十七日　遞信省令第一一七號

○電氣事業法施行規則ニ依リ使用スル標旗及標燈……二四八
明治四十四年九月二十八日　遞信省告示第一〇五〇號

○遞信省管理ニ屬スル通信事業用工作物ニ關シ承諾又ハ立會請求方ノ件……二五〇
明治四十四年九月二十八日　遞信省告示第一〇五一號

○電氣事業者カ其架空電線路ヲ當院鐵道線路ト交叉シテ施設スル場合ノ條件ニ關スル件……二五〇
大正元年十月九日　鐵電第二〇一一號通牒

○臨時電燈施設ニ關スル件……二五一
明治四十一年九月十五日　遞信省通電甲第四四二三號

○應急工事ニ際シ臨時電燈點火ニ關スル件……二五四
明治四十二年六月二十一日　遞信省通電甲第二七三一號

○列車內電燈燭力標準制定ノ件……二五六
明治四十四年五月十五日　鐵電第一〇六〇號

第三章　雜則

○遞信省所管電線路ヲ當院用地又ハ造營物ニ建設スルニ付協定ノ件……二五七
明治四十二年二月二十四日　鐵運丙第四一二號

○鐵道用電柱敷地使用方ノ件……二五八
明治三十四年二月十六日　鐵作第一〇六號

○鐵道電信柱敷地手當支給ノ件……二五九
明治三十年五月二十日　鐵第六一四號

○電線路亘長計算方ノ件……二五九
明治四十三年二月九日　公報注意

○電氣報告例……二六〇
明治四十一年十二月二十二日　達第六一號

○電氣報告例ニ依ル報告調製方ノ件……二七九
明治四十三年一月十日　公報注意

○電氣報告例其他ニ據ル報告調製竝省略方ノ件……二七九
明治四十三年十一月十九日　公報注意

○電線路現況報告調製方ノ件……二八〇
明治四十四年三月二十日　公報注意

○電線路臺帳其他整理保存ノ件……二八〇
明治四十二年七月二十八日　達第六六一號

○電氣通信回線票設備竝回線登記ニ關スル件……二八四
明治四十三年五月十七日　達第四一六號

明治四十三年六月八日 鐵電第七一三號
○電氣通信回線票記入方ノ件……二八八
明治四十三年五月二十日 公報注意
○併用回線ノ回線票記入方ノ件……二八八
明治四十三年五月十七日 達第四一七號
○電機竝附屬機械臺帳整理ニ關スル件……二八九
明治四十五年四月二十日 達第三八七號
○用品費、工作費支辨ノ發、變電所ヨリ他科目負擔ノ電力ヲ供給シタル場合計算方ノ件……二九一
明治四十五年五月十七日 公報注意
○電力計算方ノ件……二九一
明治四十五年四月二十日 達第三八八號
○自營發、變電所ヨリ供給セル電燈電力料金ノ件……二九四
明治四十五年六月十三日 公報注意
○積算電力計ノ共用及電燈電力料徵收方ノ件……二九五
明治四十三年八月二日 達第六七七號
○改良費電氣費ノ工事設計豫算具申書ニ添付ノ書類及圖表標準ノ件……二九五
大正元年九月二十五日 工丙第一四五號
○工務電氣關係工事費決算區間ノ件……二九八
明治四十二年十一月十七日 公報注意
○電氣工事費支辨方ノ件……二九八
明治四十四年一月十二日 公報注意
○電氣ニ關スル官有財産處理方ノ件……二九八
明治四十四年三月二十五日 公報注意
○電氣用品類取扱方ニ關スル件……二九九
明治四十三年五月十八日 達第四二二號
○發電所、變電所、電車庫名稱……三〇〇
明治四十三年二月二十一日 鐵道院告示第一〇號
○鐵道事業用水底電線布設ノ件……三〇一
明治四十三年五月二十一日 達第四二八號
○水底電線管理ニ關スル件……三〇二
明治四十四年九月五日 遞信省令第二七號
○電氣事業主任技術者資格檢定規則……三〇三

鐵道法規類抄　電氣

第一章　通信

○電信法 明治三十三年三月十三日 法律第五九號

第一條　電信及電話ハ政府之ヲ管掌ス

第二條　左ニ揭クル電信又ハ電話ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ私設スルコトヲ得

一　一邸宅內若ハ一構內ニ於テ專用ニ供スル爲施設スルモノ
二　鐵道業其他ノ電信電話ノ專用ヲ必要トスル事業ノ爲施設スルモノ
三　公共團體ノ事務執行ノ爲一市區町村內若ハ鄰接市區町村間ニ於テ公署相互間又ハ一郡市區內ニ於テ公署ト第一次監督官廳トノ間ニ施設スルモノ
四　電報送受ノ目的ヲ以テ一人ノ專用ニ供スル爲電信官署トノ間ニ施設スルモノ
五　一市區町村內若ハ鄰接市區町村間ニ於テ又ハ電信電話ノ連絡ナク且第四號ニ依ルヲ不適當トスル市區町村間ニ於テ一人又ハ一營業ノ專用ニ供スル爲施設スルモノ

第三條　主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ニ依リ施設シタル電信又ハ電話ヲ公衆通信又ハ軍事上ノ必要ナル通信ノ用ニ供セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ吏員ヲ派遣シテ其ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條　主務大臣ハ公安ノ爲必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ電信又ハ電話ニ依ル通信ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得

第五條　電信又ハ電話ニ依ル通信ニシテ公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ於テ之ヲ停止スルコトヲ得

第六條　職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用車馬等ハ道路ニ障碍アリテ通行シ難キ場合ニ於テ牆壁又ハ欄柵ナキ宅地田畑其ノ他ノ場所ヲ通行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ被害者ノ請求ニ因リ其ノ損害ノ賠償ヲ爲スヘシ

第七條　職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等事故ニ遭遇シタル場合ニ於テ電信又ハ電話ノ工夫配達人若ハ吏員ヨリ助力ヲ求メラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ政府ハ助力者ノ請求ニ因リ相當ノ報酬ヲ爲スヘシ

第八條　職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等ニ對シテハ渡津、運河、道路、橋梁其ノ他ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得ス

前項ノ工夫及配達人ハ何時ニテモ渡津ノ出船ヲ求ムルコトヲ得

第九條　政府ハ電信又ハ電話ノ用ニ供スル爲鐵道用地及停車場建物ノ一部ヲ使用シ必要アルトキハ建物ノ建築又ハ改築ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地建物ノ使用料及建築改築ノ費用ハ請求ニ因リ政府之ヲ支給ス

第十條　政府カ鐵道用地内ニ電信線又ハ電話線ヲ施設シタルトキハ使用料ヲ支給セス

第十一條　電信若ハ電話專用ノ物件又ハ現ニ其ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

前項專用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ

第十二條　電信又ハ電話取扱ニ關シ電信官署又ハ電話官署ニ對シテ無能力者ノ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十三條　電報ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ宛所ニ配達ス

第十四條　電報ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限リ發信人ノ請求ニ因リ其ノ發送ヲ停止スルコトヲ得

第十五條　宛所ニ配達シ又ハ受信人ニ交付シ得サル電報ハ之ヲ公示ス其ノ公示ノ日ヨリ三十日間ニ交付ノ請求ナキトキハ之ヲ棄却ス

第十六條　電信官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ發信人ニ對シ其ノ電報ニ用ヰタル祕辭隱語ノ説明ヲ求ムルコトヲ得發信人若其ノ説明ヲ拒ミタルトキハ其ノ電報ノ取扱ヲ拒絶ス

第十七條　電信又ハ電話ニ關スル料金及電信又ハ電話ニ依ル通信ノ取扱ニ必要ナル制限ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十八條　電信又ハ電話ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セス

第十九條　發信人ニ於テ前納スヘキ電信ニ關スル料金ニ不足アルトキハ發信人ヨリ其ノ不足額ノ二倍ノ料金ヲ徴收ス

第二十條　電信又ハ電話ニ關スル料金納付ノ義務ハ其納付スヘキ日ヨリ六箇月内ニ納付ノ告知ヲ受ケサルニ因リテ消滅ス

第二十一條　電信又ハ電話ニ關スル料金ノ不納金額ハ電信官署又ハ電話官署ニ於テ國税滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徴收ス

前項ノ不納金額ニ付電信官署又ハ電話官署ハ國税ニ次キ先取特權ヲ有ス

第二十二條　電信又ハ電話ニ依ル通信ニシテ電信、電話及郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務又ハ氣象報告ニ關スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ無料ト爲スコトヲ得

第二十三條　電信又ハ電話ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第二十四條　電信又ハ電話ノ取扱ニ關シテハ政府ハ損害賠償ノ責ニ任セス

第二十五條　本法ニ依ル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ對シ其ノ事實アリタル日ヨリ三箇月間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第二十六條　電信官署若ハ電話官署ノ賠償又ハ報酬ニ關スル決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十七條　權利ナクシテ電信若ハ電話ヲ私設シタル者又ハ權利ヲ失ヒタル後主務官署ノ指定シタル期間内ニ私設ノ電信若ハ電話ヲ撤去セサル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ電信線又ハ電話線及電信又ハ電話ノ機器ヲ沒收ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ電信又ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シ因テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徵ス

第一項ノ電信又ハ電話ヲ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第三條第一項ニ依ル場合ヲ除クノ外私設ノ電信若ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シタル者又ハ其ノ私設者ニアラスシテ之ヲ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徵ス

第二十九條 第三條第一項ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ電信若ハ電話ノ供用ヲ拒ミ又ハ第九條第一項ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ用地、建物ノ使用ヲ拒ミ若ハ建物ノ建築改築ヲ爲サヽル者ハ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第六條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第七條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ助力ヲ拒ミ又ハ第八條ノ場合ニ於テ通行錢ヲ強要シ若ハ正當ノ理由ナクシテ渡津ノ出船ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

第三十一條 電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル通信ノ祕密ヲ侵シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

本條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十二條 不正ノ手段ヲ以テ電信又ハ電話ニ關スル料金ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第三十三條 自己若ハ他人ニ利益ヲ與ヘ又ハ他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ虛僞ノ電報ヲ發シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ場合ニ於テ電信爲替ニ要スヘキ電報ニ係ルトキハ輕懲役ニ處ス

電信事務ニ從事スル者前二項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第三十四條 電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル電信又ハ電話ノ用紙ニ貼用シタル郵便切手ヲ剝脫シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ未タ消印ヲ爲サヽルモノニ關シテハ刑法竊盜ノ罪ニ照シテ處斷ス

第三十五條 電信官署ノ取扱中ニ係ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、隱匿若ハ放棄シタル者又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シ若ハ情ヲ知リテ之ヲ受取リタル者又ハ其ノ傳送配達ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

電信事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第三十六條 電信若ハ電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ其ノ通信ノ取扱ヲ拒絕シ又ハ其ノ傳送ヲ遲延セシメタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 電信線又ハ電話線其ノ他電信又ハ電話ノ機器建造物ヲ毀損シ若ハ通信ヲ障碍シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

過失ニ因リ通信ヲ障碍シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 電信線若ハ電話線ノ建築修理又ハ線路ノ巡視測量ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十九條 電信、電話ノ線條若ハ其ノ支持物ニ物品ヲ懸ケ若ハ擲チ又ハ之ニ動物若ハ舟筏ヲ繫キ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ科料ニ處ス

電信又ハ電話線路ノ測量標ヲ毀棄汚穢シタル者亦同シ

第四十條 主務官署ノ指定シタル水底電信線路若ハ水底電話線路ノ區域內ニ於テ船舶ヲ繫留シ又ハ漁業採藻ヲ爲シ若ハ土砂ヲ掘鑿シ又ハ水底電信線若ハ水底電話線ノ號標ニ舟筏ヲ繫キ又ハ其ノ號標ヲ毀棄シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

水底電信線若ハ水底電話線ノ布設若ハ修理ノ爲其ノ位置ヲ示スヘキ浮標又ハ其ノ布設若ハ修理ニ從事スル

船舶ヨリ主務官署ノ指定シタル距離以內ニ於テ前項ノ所爲ヲ爲シ若ハ航行シタル者亦同シ

第四十一條　第三十二條ヲ除クノ外前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第四十二條　法人ノ業務ニ關シ其ノ代表者又ハ雇人其ノ他ノ從業者前數條ノ罪ヲ犯シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス但シ罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキ場合ニ於テハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以內科料ニ關シテハ十日以內ニ之ヲ納完セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス

前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第四十三條　公衆通信又ハ第三條第一項ニ依リ現ニ軍事通信ノ用ニ供スル私設ノ電信又ハ電話ニ關シテハ第九條ヲ除クノ外本法中政府ノ施設ニ係ル電信又ハ電話ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十四條　電信又ハ電話ニ非スト雖通報信號ヲ爲スモノニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第四十五條　帝國外國間ニ於ケル電信ニ關シ別ニ法令條約又ハ特許ノ條款ニ明文アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

附　則

第四十六條　本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

電信條例ハ之ヲ廢止ス

第四十七條　本法施行前電信條例ニ依リ電信又ハ電話私設ノ許可ヲ得タル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ更ニ許可ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

○電報規則

明治三十三年九月一日遞信省令第四六號

改正　明治三十五年遞信省令第一〇號　同三十六年同第五四號　同三十八年同第一四號　同四十年同第三九號　同四十二年同第一三號　同四十三年同第二六號　同四十三年同第九五號　同四十五年同第二〇號

第一章　總則
第二章　電報書法
第三章　字數及語數計算
第四章　料金
第五章　電報差出
第六章　電線託送
第七章　電報配達
第八章　尋問改正及停止
第九章　閱覽正寫
第十章　特別電報
第一節　至急電報
第二節　返信料前納電報
第三節　照校電報
第四節　受信電報
第五節　追尾電報
第六節　再送電報
第七節　同文電報
第八節　外國郵送電報

第九節 停車場掲示電報

電報規則

第一章 總則

第一條 電報ヲ別テ左ノ三種トス
一 官報
二 局報
三 私報

第二條 官報トハ官廳及地方自治體ノ公信竝外國ノ首長皇族大臣陸海軍將帥、公使、領事ヨリ發スル電報ヲ云フ但シ商人ニシテ領事ノ事務ヲ扱フ者ヨリ發スル電報ハ官報發出ノ資格アル者ニ宛テ且官用ニ關スルモノニ非サレハ之ヲ官報ト爲サス
國庫金取扱ニ關シ金庫ヨリ發スル電報竝戰時事變ニ際シ日本赤十字社又ハ軍事輸送ノ爲政府ノ使用ニ供スル船舶若ハ鐵道ノ所有者ヨリ發スル電報ハ遞信大臣ノ承認ヲ經テ官報ト爲スコトヲ得
官報發送ノ資格ナキモノト雖受取リタル官報ヲ呈示シ其ノ返信ヲ官報トシテ發送スルコトヲ得

第三條 局報トハ電信事務ニ關シ電信局所相互間ニ往復スル電報ヲ云フ
前項ノ外電信、電話及郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務ニ關シ電信電話又ハ郵便官署相互間ニ往復スル電報ハ遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルモノニ限リ局報ト爲スコトヲ得郵便爲替金郵便貯金及郵便取立金ノ取扱ニ要スル資本ノ受授ニ關シ金庫相互間ニ往復スル電報亦同シ
氣象報告ニ關シ中央氣象臺又ハ地方測候所其ノ他ノ觀測所間ニ往復スル電報ハ遞信大臣ノ承認ヲ經テ局報ト爲スコトヲ得

第四條 私報トハ官報及局報ヲ除クノ外諸般ノ電報ヲ云フ

第五條 電報ハ左ノ順序ニ依リ送達スヘシ
一 至急官報
二 至急局報
三 至急私報
四 官報
五 局報
六 私報

第六條 同一順位ノ電報ハ受付ノ順序ニ依リ傳送シ中繼及著信局所ニ於テハ受信ノ前後ニ依リ之ヲ傳送配達スヘシ

第七條 發信人又ハ受信人ハ電信局所ノ要求アルトキハ其ノ本人ニ相違ナキコトヲ證明スヘシ

第二章 電報書法

第八條 電報ノ記載方ヲ別テ和文歐文ノ二トス其ノ各電報ニ用ウヘキ文字及記號ハ左ニ掲クルモノニ限ル
但シ同一電報中ニ在リテハ特ニ明文アル場合ノ外和文電報ニ用ウヘキ文字記號ト歐文電報ニ用ウヘキ文字記號トヲ混用スルコトヲ得ス

一 和文電報ニ用ウヘキモノ

片假名

イ	・－
ロ	・－・－
ハ	－・・・
ニ	－・－・
ホ	－・・
ヘ	・
ト	・・－・・
チ	・・－・

リ
ヌ
ル
ヲ
ワ
カ
ヨ
タ
レ
ソ
ツ
ネ
ナ
ラ
ム
ウ
ヰ
ノ
オ
ク
ヤ
マ
ケ

フ
コ
エ
テ
ア
サ
キ
ユ
メ
ミ
シ
ヱ
ヒ
モ
セ
ス
ン
゛（濁點）
○（半濁點）

數字

一
二

三	・・・－－
四	・・・・－
五	・・・・・
六	－・・・・
七	－－・・・
八	－－－・・
九	－－－－・
〇	－－－－－

記號

長音—	・－－・－
句讀點、	・－・－・－
新章」	・－・－・・
括弧（）	－・－－・－
小括弧「」	・－・・－・
歸除線/	－－－－－－

二 歐文電報ニ用ウヘキモノ

羅馬字

A	・－
Ä	・－・－
Á又ハÅ	・－－・－
B	－・・・
C	－・－・

CH	－－－－
D	－・・
E	・
É	・・－・・
F	・・－・
G	－－・
H	・・・・
I	・・
J	・－－－
K	－・－
L	・－・・
M	－－
N	－・
Ñ	－－・－－
O	－－－
Ö	－－－・
P	・－－・
Q	－－・－
R	・－・
S	・・・
T	－
U	・・－

Ü	・・－－
V	・・・－
W	・－－
X	－・・－
Y	－・－－
Z	－－・・

亞剌比亞數字

1	・－－－－
2	・・－－－
3	・・・－－
4	・・・・－
5	・・・・・
6	－・・・・
7	－－・・・
8	－－－・・
9	－－－－・
0	－－－－－

記號

終點 .	・・・・・・
讀點 ,	・－・－・－
小讀點 ;	－・－・－・
重點 :	－－－・・・

問標 ?	・・－－・・
感符 !	－－・・－－
略符 ,	・－－－－・
新章 //	－・・・－
連續點 ━	－・・・・－
括弧 ( )	－・－－・－
轉倒句讀 “”	・－・・－・
字下線 ―	・・－－・－
歸除線 /	－・・－・

第九條　電報ニ用ウル指定事項ノ略符號ハ左ノ如シ

指定事項	和文略符號	歐文略符號
至急	ウ　ナ	U　R
至急親展	ウ　ニ	U　C
返信料前納	ナ　ツ	R　P
返信至急	ナ　ウ	R　U
返信照校	ナ　ム	R　T
照校	ム　ニ	T　C
電報受信報知	ツ　ニ	P　C
郵便受信報知	ツ　ツ	P　P
追尾	チ　ラ	F　S
再送	ナ　チ	R　F
同文	ム　ヨ	T　M
同文連名	ヨ　イ	M　A

外國郵送	ツタ	PV
停車場掲示	ムツ	TP
留置	ムナ	TR
別使配達	マツ	XP
艀船配達	ハホ	BD
別使料電報報知	マム	XT
別使料郵便報知	マヨ	XM
艀船料電報報知	ハム	BT
艀船料郵便報知	ハヨ	BM
書留郵便配達	ツナ	PR
無緘配達	ナレ	RO
局待	ヤム	WT
親展	ニカ	CL

第十條 電報ニ用ウル語辭ハ普通辭祕辭隱語ノ三種トス

第十一條 普通辭トハ和文電報ニ於テハ日本語歐文電報ニ於テハ羅甸語又ハ歐洲國語ニシテ其ノ意味ノ通解シ易キモノヲ云フ

羅馬字ヲ以テ記載シタル日本語、電報新書又ハ電報新編ニ依リ記載シタル數字ノ聯集及商標又ハ記號トシテ用キタル文字若ハ數字ハ之ヲ普通辭ト見做ス

第十二條 隱語トハ普通辭ヲ普通ノ意味以外ニ用キ其ノ意味ノ通解シ難キモノヲ云フ

歐文ノ隱語ハ一聯綴十字以下ノモノヲ用キ日耳曼、英吉利、西班牙、佛蘭西、荷蘭、伊太利、葡萄牙及羅甸ノ國語中ヨリ採擇スルコトヲ要ス但シ固有名詞ハ萬國電信總理局刊行ノ隱語集ニ掲載スルモノノ外隱語トシテ之ヲ用ウルコトヲ得ス

第十三條 祕辭トハ文字又ハ數字ノ孤立若ハ聯集ニシテ其ノ意味ノ通解シ難キモノヲ云フ

前項ノ外普通辭及隱語ニ非サル語辭ハ之ヲ祕辭ト見做ス

歐文ノ祕辭ハ一聯集中文字ト數字トヲ混用スルコトヲ得ス

第十四條 濁點及半濁點ハ片假名ニ附記スルノ外之ヲ用ウルコトヲ得ス

第十五條 和文記號ハ片假名又ハ數字歐文記號ハ羅馬字又ハ亞剌比亞數字ニ直接ニ附隨セシムル場合ノ外用ウルコトヲ得ス但シ小括弧ハ第十六條ノ場合ノ外之ヲ用ウルコトヲ得ス

第十六條 和文電報ニハ商標其ノ他片假名ヲ以テ顯明シ難キモノニ限リ羅馬字又ハ亞剌比亞數字及歐文記號ヲ挿入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ小括弧ヲ以テ之ヲ區別スヘシ

第十七條 羅馬字ヲ以テ綴リタル日本語ノ電報ハ十五字ヲ超エテ聯記シ又ハ一語句ノ中間ニ於テ分割記載スルコトヲ得ス但シ名稱ヲ示ス語ハ之ニ附屬スル助字ト共ニ字數ノ多少ニ拘ハラス一個ヲ一聯集トシテ記載スルコトヲ得

二個以上ノ名稱聯合シタルモノ又ハ名稱ニ他ノ語句ヲ附加シタルモノト雖普通一名稱トシテ用キラルルモノハ前項但書ノ例ニ據リ記載スルコトヲ得

第十八條 羅馬字ヲ以テ綴リタル日本語ノ電報中ニ外國語又ハ亞剌比亞數字ヲ日本語ト聯記スルコトヲ得ス

第十九條 電報ノ受信人名ハ同一ノ家ニ宛テタル場合ニ限リ之ヲ連記スルコトヲ得

第二十條 受信人ノ居所氏名ハ簡明ニ記載スヘシ若其ノ地名ニシテ著明ナラサルカ又ハ他ニ類似ノモノアルトキハ國名又ハ郡區名ヲ附記スヘシ

汽車中ニ在ル受信人ノ居所氏名ニハ前項ノ外左ノ事項ヲ附記スヘシ但シ其ノ附記ナキモノト雖電信局所ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ受付發送スルコトアルヘシ

一 肩書驛ノ通過時刻又ハ最初乘車驛及列車番號若ハ發車時刻

二 最終下車驛及等級

和文電報ノ居所中不必要ト認ムルモノアルトキハ電信局所ニ於テ之ヲ省略スルコトヲ得

第二十一條　受信人ノ居所氏名ハ第八十六條ニ依リ登記ヲ受ケタル略號ヲ以テ記載スルコトヲ得但シ略號ノ外必ス著信地名ヲ附記スヘシ

一市區町村內ニ二個以上ノ電信局所アル場合ハ著信地名ノ前ニ尙著信ノ電信局所名ヲ記入シ括弧ヲ以テ之ヲ區劃スヘシ

略號ノ登記ヲ受ケタル人ノ家ニ在ル者ニ宛テタル電報ニハ其ノ略號ニ「方」「氣付」又ハ之ニ相當スル文字ヲ附記シテ其ノ略號ヲ使用スルコトヲ得

第二十二條　電報ノ本文ハ之ヲ記載セサルコトヲ得

第二十三條　發信人ハ自己ノ居所氏名ノ傳送ヲ要スルトキハ賴信紙中本文ノ末尾ニ之ヲ記載スヘシ但シ其ノ居所氏名ヲ送達紙ノ外部ニ表ハサムトスルトキハ和文電報ニ在リテハ受信人名所ノ下ニ歐文電報ニ在リテハ受信人名所ノ前ニ之ヲ記載スヘシ

第二十四條　電報ニ記載シタル文字ヲ加除改正シタルトキハ電信局所ニ於テ相當ノ證明ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第二十五條　發信人ノ記載シタル指定事項ノ略符號判然セサルモノハ其ノ略符號ナキ電報トシテ取扱フヘシ

略符號ヲ以テ指定スヘキ事項ヲ普通辭ニテ記載シタルモノハ電信局所ニ於テ之ニ相當スル略符號ニ改書スヘシ

第二十六條　發信人ハ其ノ居所氏名ヲ賴信紙ノ端末ニ記載スヘシ但シ其ノ記載ナキモノト雖電信局所ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ受付發送スルコトアルヘシ

第三章　字數及語數計算

第二十七條　電報中左ニ記載スルモノハ字數又ハ語數ニ算入ス

一　本文

二　歐文電報ノ受信人居所氏名但シ第二十一條第二項ニ依リ記入シタル著信ノ電信局所名ヲ除ク

三　和文電報ニ連記シタル第二以下ノ受信人氏名並逐書シタル追尾電報又ハ再送電報ノ第二以下ノ居所

四　傳送ヲ要スル發信人居所氏名

五　指定事項

六　第二號乃至第四號ノ居所氏名ニ附屬スル語字

第二十八條　和文ノ數字及記號ハ其ノ一個ヲ片假名一字ニ計算ス但シ括弧及小括弧ハ各之ヲ片假名二字ニ計算ス

濁點半濁點ヲ附シタル文字ハ之ヲ片假名二字ニ計算ス

第二十九條　和文電報中ニ用キタル羅馬字、亞刺比亞數字及歐文記號ハ其ノ一字又ハ一個ヲ片假名一字ニ計算ス但シ括弧、轉倒句讀及字下線ハ各之ヲ片假名二字ニ計算ス

第三十條　歐文ノ普通辭ハ一語ノ聯綴十五字ヲ超エサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ十五字ヲ超ユルモノハ十五字迄每ニ又之ヲ一語ニ計算ス

第三十一條　歐文電報中ニ用キタル亞刺比亞數字ハ其ノ聯綴五個ヲ超エサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ五個ヲ超ユルモノハ五個迄每ニ又之ヲ一語ニ計算ス

第三十二條　歐文電報中羅馬字又ハ亞刺比亞數字ノ孤立シタルモノハ之ヲ一語ニ計算ス

第三十三條　歐文電報中羅馬字ヲ以テ聯記シタル祕辭ハ數字ノ例ニ依リ之ヲ計算ス

第三十四條　普通辭及隱語ヲ混用シタル歐文電報中ノ普通辭ハ一語ノ聯綴十字ヲ超エサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ十字ヲ超ユルモノハ十字迄每ニ又之ヲ一語ニ計算ス

第三十五條　第十七條及第十八條ノ規定ニ違ヒ記載シタル語辭ハ數字ノ例ニ依リ之ヲ計算ス

第三十六條　歐文電報中第十一條ニ規定シタル國語ニシテ其ノ用法ニ違ヒ聯結若ハ省略シタルモノハ正當ノ聯綴方ニ依リ其ノ語數ヲ計算ス

府縣名、國名其ノ他ノ地名、船名、羅馬字ヲ以テ記載シタル數目及字典ニ依リ證明シ得ヘキ聯結語ハ發信人ノ記載スル所ニ從ヒ其ノ語數ヲ計算ス

第三十七條 歐文電報中左ノ文字及記號ハ其ノ一字又ハ一個ヲ數字一個ニ計算ス

一 順序數ヲ示ス爲ニ亞剌比亞數字ニ附加シタル羅馬字

二 商標、祕辭又ハ亞剌比亞數字ノ聯集中ニ用キタル諸點及歸除線

第三十八條 歐文電報中連續點ヲ以テ繫キタル語及略符ヲ以テ分チタル語ハ其ノ每分語ヲ一語ニ計算ス但シ其連續點及略符ハ之ヲ字數ニ算入セス

第三十九條 歐文電報中ニ用キタル終點、讀點、小讀點、重點、問標、感符、新章、括弧、轉倒句讀及字下線ハ各之ヲ一語ニ計算ス

第四十條 歐文電報ノ指定事項ニ用キタル略符號ハ各之ヲ一語ニ計算ス其ノ略符號ニ數字ヲ附記シタルモノ亦同シ

第四章 料金

第四十一條 通常電報料ハ別ニ規定アル場合ノ外左ノ如シ但シ第六十一條ニ依リ著信局所ヲ指定シタル電報ニハ該局所ニ至ル迄ノ電報料ヲ課ス

		和文 十五字以內	和文 以上五字以內ヲ增ス每ニ	歐文 五語以內	歐文 以上一語ヲ增ス每ニ
一 同一市區町村內ノモノ	官報 私報	金拾錢	金參錢	金拾五錢	金參錢
二 內地(小笠原島ヲ除ク以下之ニ同シ)小笠原島臺灣樺太及朝鮮相互間ノモノ	官報	金貳拾錢	金五錢	金貳拾五錢	金五錢
	私報	金參拾錢	金五錢	金四拾錢	金五錢
三 前各號以外ノモノ	官報 私報	金貳拾錢	金五錢	金貳拾五錢	金五錢

第四十二條 電報ハ特ニ規定アル場合ノ外其ノ字數又ハ語數ニ應シテ電報料ヲ課ス但シ和文電報ニシテ字數ニ算入スヘキ文字記載ナキモノト雖十五字以內ノ電報料ヲ課ス

第四十三條 第三條ニ規定シタル局報ハ無料トス但シ課金局報ハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條 特別電報料其ノ他特殊ノ取扱ニ關スル料金ハ別章ニ於テ之ヲ定ム

第四十五條 電報ニ關スル料金ハ發信ノ際郵便切手ヲ賴信紙ニ貼附シテ納ムヘシ但シ特ニ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條 電報ニ關スル料金ニ錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ツ

第四十七條 左ノ電報ニ關スル料金ハ其ノ納付人ノ請求ニ據リ郵便切手ヲ以テ納付シタルモノハ郵便切手、通貨ヲ以テ納付シタルモノハ通貨ヲ以テ之ヲ還付ス

一 電信局所ノ過失ニ因リ受信人ニ到達セサルカ又ハ郵便ニテ到達シ得ヘキ時日ヨリ遲レテ到達シタル電報ノ料金但シ第九十七條ニ依リ送達シタルモノヲ除ク

二 電信局所ノ過失ニ因リ照校電報ニ誤謬ヲ生シ且用辨ヲ闕キタルモノノ料金但シ尋問ノ電報ニ依リ校正シ得タルモノヲ除ク

三 電信局所ノ過失ニ依ル徵收シタル過納及誤納ノ電報料金

四 發信人ノ請求ニ依リ配達前停止シタル電報ニ對シ前納シタル返信料、受信報知料及配達料

五 電報直配達區域內ニテ配達シタル電報又ハ別使、艀船若ハ書留郵便ヲ以テ配達ヲ爲ササリシ電報ニ對シ發信人ノ前納シタル配達料

六 返信料前納證書ヲ以テ發送シタル電報ノ料金前納額ニ滿タサルトキハ其ノ殘餘ノ料金

七 第百十四條ノ場合ニ於テ和文十五字歐文五語ノ通常電報料ヲ控除シタル前納ノ返信料金

八 返信料前納電報ニ對シ返信料前納證書ヲ發行セサリシトキ又ハ返信料前納電報ヲ配達シ能ハスシテ發行シタル證書ノ使用期間ヲ過キタルトキ若ハ交付シタル返信料前納證書ヲ其ノ使用期間ニ使用セサリシトキハ前納シタル返信料金

九 發信局所ニ於テ傳送前ニ返還シタル電報ノ料金

第四十八條 電報ニ關スル料金還付ノ請求ハ其ノ料金ヲ納付シタル電信局所ニ之ヲ爲スヘシ其ノ期間ハ料金納付ノ日ヨリ六十日間トス

第四十九條　電報ニ關スル料金ノ還付ヲ請求スルトキハ不達ニ係ルモノハ著信局所又ハ受信人ノ證明書、誤謬又ハ遲延ニ係ルモノハ其ノ電報送達紙、返信料前納證書ヲ使用セサリシモノハ其ノ證書ヲ請求書ニ添付スヘシ

第五十條　同文電報ノ內一通若ハ數通ノ料金ヲ還付スルトキハ原信電報料及同文電報料ヲ併セ之ヲ總通數ニテ除算シ其ノ得數ヲ以テ還付スヘキ一通ノ額トス

第五十一條　二名以上ノ發信人ヨリ差出シタル電報ニ關スル料金還付ハ其ノ內ノ一名ニ之ヲ爲スヘシ

第五十二條　受信人ニ於テ電報ニ關スル料金ノ追納ヲ要スル電報ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ追納ヲ要スル電報ニシテ居所不明其ノ他ノ事故ニ因リ之ヲ受信人ニ交付シ能ハサルトキハ發信人ヨリ其ノ料金ヲ徵收ス

第五十三條　電報ニ關スル料金ヲ追納スヘキ發信人又ハ受信人カ二名以上ナルトキハ其ノ內ノ一名ヨリ之ヲ徵收スヘシ

第五章　電報差出

第五十四條　電報ヲ發送セムトスルトキハ特ニ規定アル場合ノ外電信局所ニ之ヲ差出スヘシ

第五十五條　郵便ニ依リ電報ヲ差出ストキハ其ノ封筒ノ表面ニ「電報在中」ト記載スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ普通郵便料ニ限リ無料トナスコトヲ得

第五十六條　電信局所ニ電報受付函ノ設置アルトキハ電報取扱時間外ニ限リ發信人ハ之ニ電報ヲ差入ルルコトヲ得

第五十七條　左ニ揭クル電報ノ配達ヲ受ケタル者ハ配達ノ時ヨリ五分時間以內ニ其ノ電報配達人ニ依託シテ電報ヲ差出スコトヲ得

一　返信料前納電報
二　局待電報
三　別使配達電報
四　艀船配達電報

第五十八條　豫納金ノ納付ヲ要スル電報ハ第五十五條乃至第五十七條ニ依リ差出スコトヲ得ス

第五十九條　第五十五條及第五十七條ニ依リ差出シタル電報ハ電信局所ニ到著シタル時ヲ以テ受付時刻ト爲ス

電報取扱時間外ニ到著シタル前項ノ電報及第五十六條ニ依リ差出シタル電報ハ總テ次ノ取扱開始ノ時ヲ以テ受付時刻ト爲ス但シ電信局所ニ於テ特ニ時間ヲ定メ取扱ヲ爲スヘキ電報ヲ第五十七條ニ依リ差出シタル場合ハ前項ノ例ニ依ル

第六十條　書法其ノ他ノ規定ニ違背スル爲發送シ得サル電報アルトキハ其ノ事由ヲ發信人ニ通知スヘシ

第六十一條　發信人ハ特ニ電報ノ著信局所ヲ指定シ差出スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ指定事項トシテ其ノ局所名ヲ記載スヘシ

第六十二條　電報ヲ電信局所又ハ郵便局所ニ留置カムトスルトキハ其ノ局所ヲ肩書シ且留置ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十三條　發信局所ニ在リテ返信ヲ待ツコトヲ受信人ニ知ラシメムトスル電報ハ局待ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十四條　受信人以外ノ者ノ披見ヲ憚ル電報ハ親展ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十五條　封緘セスシテ受信人ニ配達スヘキ電報ハ無緘配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十六條　別使ヲ以テ配達スヘキ電報ハ別使配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十七條　別使配達料ハ別ニ告示スル場合ノ外著信局所ヨリ二里以內ハ金二十錢トシ二里ヲ超ユルトキハ一里以內每ニ金十五錢ヲ增ス但シ島嶼ニ配達スル場合ハ里程ニ拘ラス金二十錢トシ其ノ配達實費之ヲ超過スルトキハ實費額ニ依ル

第六十八條　別使ヲ以テ配達スヘキ電報ハ發信ノ際其ノ配達料ノ最少額ヲ納付スヘシ

著信局所ヨリ二里ヲ超ユル場合ニ於テ發信人ハ其ノ里程ヲ豫定シ之ニ對スル配達料ヲ納付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ別使配達略符號ノ次ニ其ノ里程ヲ指定スヘシ

前二項ニ依リ納付シタル配達料ニ不足アルトキハ其ノ不足額ハ受信人ニ於テ之ヲ追納スヘシ

第六十九條　艦船ニ宛テタル電報ニシテ艀船ヲ以テ配達スヘキモノハ艀船配達ノ略符號ヲ以テ指定シ其ノ配達料トシテ別ニ告示スル場合ノ外金二十錢ヲ納ムヘシ

艀船配達ノ實費カ發信人ノ納付シタル配達料ヲ超過スルトキハ其ノ不足額ハ受信人ニ於テ之ヲ追納スヘシ

第七十條　艦船ニ宛テタル電報カ別使配達及艀船配達ヲ要スル場合ニ於テ發信人カ其ノ一方ノミヲ指定シタルトキハ其ノ不足料金ハ受信人ニ於テ之ヲ追納スヘシ

第七十一條　受信人ノ追納スヘキ別使配達料又ハ艀船配達料ヲ發信人ニ於テ納付セムトスルトキハ左ノ略符號ヲ以テ指定シ電報報知ヲ要スルモノハ和文電報十五字ニ相當スル通常料金郵便報知ヲ要スルモノハ金三錢ヲ增納スヘシ

一　別使料電報報知ノ略符號｝電報ヲ以テ報知ヲ受クルトキ
一　艀船料電報報知ノ略符號

一　別使料郵便報知ノ略符號｝郵便ヲ以テ報知ヲ受クルトキ
一　艀船料郵便報知ノ略符號

發信人ハ前項ノ追納料金ニ充ツル爲電信局所ノ指示スル相當金額ヲ豫納スヘシ其ノ豫納金ハ著信局所ノ報知ニ依リ精算ス

第七十二條　書留郵便ヲ以テ配達スヘキ電報ハ書留郵便配達ノ略符號ヲ以テ指定シ其ノ配達料トシテ金七錢ヲ納ムヘシ

第七十三條　發信人ハ電報差出ノ日ヨリ三日以內ニ限リ其ノ納付料金額ヲ記入シタル電報ノ受取證書ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ受取證書料トシテ受取證書一通每ニ金三錢ヲ納付スヘシ

電報ノ受取證書ニハ其ノ受取證書料ニ當ル郵便切手ヲ貼附シ且消印シテ交付スヘシ

第七十四條　發信人ハ一通每ニ金五錢ヲ納付シテ未タ傳送セサル電報ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第六章　電線託送

第七十五條　電話加入者ハ別ニ告示スル電信局所ニ豫メ屆出テ其ノ使用ニ屬スル電話機ニ依リ電報ヲ發受スルコトヲ得

第七十六條　電話加入者ノ使用ニ屬スル電話又ハ郵便局電信局ニ連接スル電信電話ヲ以テ電報ヲ發受スルトキハ其ノ電話加入者又ハ電信電話ノ施設者ハ電線託送料トシテ電報一通每ニ金三錢ヲ納ムヘシ

第七十七條　前條ニ依リ發スル電報ニシテ其ノ發受局所所在ノ市區町村內ニテ配達シ又ハ該局所ニ於テ前條ノ電話加入者若ハ電信電話ノ施設者ニ送達スルモノハ一市區町村內ニテ發受スルモノト見做シテ料金ヲ課ス

前條ニ依リ受クヘキ電報ニシテ其ノ發受局所所在ノ市區町村內ニ在ル電信局所ヘ賴信スルモノ亦同シ

第七十八條　電線託送電報發受者ノ納ムヘキ電報ニ關スル料金ハ每月取纏メ翌月二十日迄ニ其ノ發受局所ニ納付スヘシ但シ一二等郵便局電信局ニ在リテハ通貨ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第七十九條　郵便局電信局ニ連接スル電信電話施設者其ノ施設ノ權利ヲ失ヒタルトキ又ハ之ヲ廢止シタルトキハ未納ノ電報料金ヲ卽納スヘシ

第七十五條ノ屆出ヲ爲シタル電話加入者加入ヨリ除名セラレタルトキ又ハ電線託送電報ノ發受ヲ廢止シタルトキハ發受局所ニ之ヲ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ適用ス

第八十條　電線託送電報發受者電報ニ關スル料金又ハ私設電信規則第二十條ノ料金ヲ納付セサルトキハ其ノ滯納ノ期間電線託送電報ヲ發受スルコトヲ得ス

第七章　電報配達

第八十一條　電信局所（配達事務ヲ取扱ハサルモノヲ除ク）ヨリ陸上一里以內及其ノ局所所在ノ市區內ヲ電報直配達區域トス但シ必要ト認ムルトキハ其ノ區域ヲ制限シ又ハ其ノ區域外ノ地ヲ區域內ニ編入スルコトアルヘシ

第八十二條　電報直配達區域內ニ配達スル電報ハ配達料ヲ要セス

電報直配達區域外ニ於テ別使配達又ハ艀船配達ヲ爲ササル地域ハ別ニ之ヲ告示ス

第八十三條　電報直配達區域外ニ配達スル電報ニシテ配達方ノ指定ナキモノハ無料普通郵便ヲ以テ送達ス

配達方ノ指定アル電報ト雖受信人移轉等ノ爲更ニ其ノ電報直配達區域外ニ配達スルトキ又ハ前條第二項ノ地域ニ配達スルトキ亦前項ニ同シ

第八十四條　電報直配達區域外ニ居住スル者ハ電信局所ニ請求シテ別使、艀船又ハ書留郵便ヲ以テ自己ニ宛テタル配達方指定ナキ電報ノ配達ヲ受クルコトヲ得但シ之ヲ受ケタルトキハ其ノ配達料ヲ納ムヘシ

第八十五條　別使配達電報ノ受信人ハ其ノ電報受取紙ニ捺印又ハ手署シテ直ニ之ヲ電報配達人ニ交付スヘシ

第八十六條　受信人自己ノ居所氏名ニ略號ヲ常用セムトシ又ハ電報ヲ受取ルヘキ者若ハ電報ノ配達場所ヲ特定セムトスルトキハ著信局所ニ請求シテ其ノ略號又ハ配達先ノ登記ヲ受クルコトヲ得

第八十七條　受信人電報ノ配達ヲ待タス著信局所ニ於テ之ヲ受取ラムトスルトキハ其ノ著信局所ニ請求シテ局渡證票ノ交付ヲ受クルコトヲ得

第八十八條　局渡證票ノ所持人著信局所ニ於テ電報ヲ受取ラムトスルトキハ其ノ時時局渡證票ヲ示スヘシ著信局所ニ於テハ局渡證票ヲ所持スル者ヲ正當受信人ト見做シテ電報ヲ交付スヘシ

第八十九條　局渡證票ヲ交付シタル者ニ宛テタル電報ト雖著信ノ際證票ヲ所持スル者出頭セサルトキハ之ヲ配達ニ付スヘシ

第九十條　局渡證票ノ交付ヲ受ケタル者其ノ證票ヲ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨交付ヲ受ケタル局所ヘ屆出ツヘシ此ノ證票ハ其ノ報告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ效ヲ失フ局渡證票ヲ亡失シタル者ハ更ニ證票ヲ請求スルコトヲ得

第九十一條　局渡證票不用ニ屬シタルトキハ其ノ交付ヲ受ケタル局所ニ之ヲ返還スヘシ

第九十二條　略號又ハ配達先ノ登記及局渡證票ニ關スル料金竝其ノ納付手續ハ別ニ之ヲ定ム

第九十三條　受信人名ヲ連記シタル電報ハ其ノ內ノ一名ニ配達スヘシ

第九十四條　電報ノ誤達ヲ受ケタル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル付箋ヲ爲シ直ニ之ヲ著信局所ニ返付スヘシ此場合ニ於テハ無料郵便物トシテ郵便ニ付スルコトヲ得其ノ電報ヲ開封シタル者ハ更ニ封緘シ尙其ノ事由ヲ付記スヘシ

第九十五條　受信人ニ交付シ能ハサル電報ハ著信局所ニ保管シ置キ其ノ受信人ノ居所氏名ヲ記載シテ少クトモ七日間之ヲ其ノ局所前ニ揭示スヘシ

第九十六條　電信局所留置電報ハ其ノ留置局所ニ到著シタル日ヨリ三日以內ニ受信人ニ交付シ能ハサルトキハ前條ノ例ニ依リ之ヲ揭示スヘシ

第九十七條　發信人又ハ受信人ハ其ノ不達ニ歸シタル電報ノ送達ヲ發信局所ニ請求スルコトヲ得其ノ請求期間ハ電報差出ノ日ヨリ六十日間トス

第八章　尋問改正及停止

第九十八條　發信人ハ既ニ差出シタル電報ニ關シ尋問、改正又ハ停止ヲ要スルトキハ之ヲ發信局所ニ請求スルコトヲ得其ノ請求期間ハ發信ノ時ヨリ七十二時間トス

受信人ハ既ニ受取リタル電報ニ關シ尋問ヲ要スルトキハ之ヲ著信局所ニ請求スルコトヲ得其ノ請求期間ハ電報ヲ受取リタル時ヨリ七十二時間トス

第九十九條　發信人ニ於テ其ノ差出シタル電報ニ關シ尋問ヲ請求スルトキハ其ノ尋問ニ要スル電報料ヲ納メ且返信ニ要スル電報料ヲ豫納スヘシ

第百條　發信人ニ於テ其ノ差出シタル電報ノ改正又ハ停止ヲ請求スルトキハ其ノ通知ニ要スル電報料ヲ納ムヘシ若其ノ返信ヲ望ムトキハ之ニ要スル電報料ヲ豫納スヘシ

第百一條　尋問、改正又ハ停止ノ爲發信人ノ豫納シタル電報料ハ返信電報ノ字數又ハ語數ニ應シテ精算ス

第百二條　改正電報ニシテ其ノ原信配達後著信局所ニ到達シタルトキハ其ノ事由ヲ受信人ニ通知スヘシ

第百三條　受信人ニ於テ其ノ受取リタル電報ニ關シ尋問ヲ請求スルトキハ其ノ尋問及返信ニ要スル電報料ヲ假納スヘシ

假納ノ電報料ハ尋問及返信電報ノ字數又ハ語數ニ應シテ收納ス但シ電信事務上ノ誤謬ニ因リ尋問ヲ爲スニ至リタル場合ハ之ヲ還付ス

第百四條　本章ニ依リ往復スル電報ハ課金局報トス

第九章　閲覽正寫

第百五條　發信人又ハ受信人ハ電報ノ閲覽又ハ正寫ヲ請求スルコトヲ得但シ請求人ニ於テ該電報捜索上必要ナル事項ヲ示サヽルトキハ其ノ請求ニ應セサルコトアルヘシ

第百六條　電報ノ閲覽正寫ハ發信ニ在リテハ其ノ發信局所著信ニ在リテハ其ノ著信局所ニ請求スヘシ

第百七條　電報ノ閲覽又ハ正寫ヲ請求スル者ハ閲覽料トシテ電報一通ニ付金三錢正寫料トシテ和文ハ二百字以内毎ニ金五錢歐文ハ五十語以内毎ニ金十錢ヲ納ムヘシ

電報ノ正寫ニハ其ノ正寫ニ當ル郵便切手ヲ貼附シ且消印シテ交付スヘシ

第十章　特別電報

第一節　至急電報

第百八條　通常電報ニ先チテ傳送ヲ要スル電報ハ至急ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第百九條　至急電報料ハ左ノ如シ

官報　通常電報料ノ二倍

私報　通常電報料ノ三倍

第二節　返信料前納電報

第百十條　電報ノ返信ヲ受ケムトスル者ハ其ノ返信ノ電報料ヲ前納スルコトヲ得但シ汽車中ニ在ル者ニ宛タル電報ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ電報ニハ左ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

一　返信料前納ノ略符號　通常電報料ヲ前納スルトキ

二　返信至急ノ略符號　至急電報料ヲ前納スルトキ

三　返信照校ノ略符號　照校電報料ヲ前納スルトキ

和文十五字歐文五語ヲ超エテ返信料ヲ前納スルトキハ前項略符號ノ次ニ其ノ字數又ハ語數ヲ附記スヘシ

第百十一條　返信料前納電報ヲ配達スルトキハ返信料前納アルコトヲ證明スル爲著信局所ニ於テ返信用紙ニ左ノ事項ヲ記入シ返信料前納證書トシテ電報ト共ニ之ヲ受信人ニ交付スヘシ

一　返信料前納ノ金額

二　受信人名

三　發信局所名、發信年月日及發信番號

四　證書發行ノ年月日

第百十二條　返信料前納證書ノ使用期間ハ其ノ證書發行ノ日ヨリ三十日間トス此ノ期間ヲ過クルトキハ使用ノ效ヲ失フ

第百十三條　返信料前納電報ノ返信用紙ニ記載シテ差出ス電報ハ證書記載ノ金額ニ相當スル料金納付濟ノモノトシ何レノ電信局所ニ於テモ之ヲ受付發送スヘシ

若其ノ電報ノ料金ニシテ證書記載ノ金額ニ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル郵便切手ヲ返信用紙ニ貼付スヘシ

第百十四條　受信人返信料前納證書ヲ受領スルコトヲ拒ムトキハ其ノ證書ヲ使用シ著信局所ヨリ發信局所ニ其ノ旨課金局報ヲ以テ報知シ更ニ之ヲ發信人ニ通知スヘシ

第百十五條　居所不明其ノ他ノ事故ニ依リ返信料前納證書ヲ受信人ニ交付シ能ハサルトキハ之ヲ著信局所ニ保管ス

著信局所ニ保管シ置キタル返信料前納證書ハ其ノ使用期間ニ受信人ヨリ請求スルトキ又ハ該期間滿了後三十日以內ニ發信人ヨリ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ

第三節　照校電報

第百十六條　發信人ハ電報ノ照校ヲ請求スルコトヲ得其ノ電報ニハ照校ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第百十七條　照校電報ハ通信ノ際送受兩局所間ニ於テ其ノ全部ヲ反覆校正スルモノトス

第百十八條　照校料ハ通常電報料ノ四分ノ一トス

第四節　受信電報

第百十九條　發信人ハ電報ノ受信人ニ到達シタル日時ノ報知ヲ受クルコトヲ得　但シ汽車中ニ在ル者ニ宛テタル電報ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ電報ハ受信電報トシテ左ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ
一 電報受信報知ノ略符號　電報ヲ以テ報知ヲ受クルトキ
一 郵便受信報知ノ略符號　郵便ヲ以テ報知ヲ受クルトキ

第百二十條 電報受信報知料ハ一通毎ニ和文ハ十五字歐文ハ五語ノ通常料金トシ郵便受信報知料ハ一通毎ニ金三錢トス

第百二十一條 受信電報ヲ受取リタル者ハ電報受取紙ニ受取時刻ヲ記入シ捺印又ハ手署シテ直ニ之ヲ電報配達人ニ交付スヘシ但シ郵便電信又ハ電話ヲ以テ其ノ送付ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百二十二條 受信電報ノ發信人ニハ受信人ノ電報ヲ受取リタル日時ヲ報知スヘシ但シ之ヲ送達スルニ郵便ヲ以テシタルトキハ郵便ニ付託セシ日時電信又ハ電話ヲ以テシタルトキハ送信セシ日時ヲ報知スヘシ

第百二十三條 電報受信報知ノ日時ハ局報ヲ以テ郵便受信報知ノ日時ハ郵便ヲ以テ著信局所ヨリ發信局所ヘ宛テ通知シ發信局所ヨリ更ニ之ヲ發信人ニ報知ス

第百二十四條 電報直配達區域外ニ居住スル發信人別使、艀船又ハ書留郵便ヲ以テ受信日時ノ報知ヲ受ケムトスルトキハ頼信紙ノ餘白ニ其ノ旨ヲ記載シ相當ノ配達料ヲ納付スヘシ

第百二十五條 受信人ニ於テ受信電報ノ受取ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受信人ニ配達シ能ハサルトキハ日時報知ノ代トシテ第百二十三條及第百二十四條ノ例ニ依リ其ノ事由ヲ發信人ニ報知スヘシ

第五節 追尾電報

第百二十六條 發信人電報ノ追尾傳送ヲ要スルトキハ追尾電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第百二十七條 追尾電報ノ發信人ハ追尾スヘキ第二以下ノ居所ヲ逐次ニ記載シ又ハ全ク記載セサルコトヲ得

第百二十八條 追尾電報ハ受信人ノ居所分明ナル限リ之ヲ追送スヘシ
前項ノ場合ニ於テ其ノ居所ヲ逐書シタルモノハ其ノ經過スル毎ニ之ヲ削除ス

第百二十九條 追尾電報ノ追尾ニ關スル料金ハ追尾一回毎ニ新ニ電報ヲ差出シタルモノトシテ計算シ之ヲ受信人ヨリ徴收スヘシ

第百三十條 左ニ掲クル電報ハ追尾電報トシテ發送スルコトヲ得ス
一 別使料又ハ艀船料ノ電報報知ヲ要スル電報
二 別使料又ハ艀船料ノ郵便報知ヲ要スル電報
三 返信料前納電報
四 受信電報
五 同文電報
六 外國郵送電報
七 汽車中ニ在ル者ヨリ發スル電報

第六節 再送電報

第百三十一條 受信人ノ居所異動等ノ場合ニ於テ其ノ新居所ヘ電報ノ再送ヲ要スルトキハ受信人又ハ宛所ノ者ヨリ之ヲ著信局所ニ請求スルコトヲ得但シ汽車中ニ在ル者ヨリ請求スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百三十二條 留置電報、著信局所ニ保管シ置キタル電報又ハ一旦配達ヲ了リタル電報ノ再送請求ノ期間ハ著信ノ時ヨリ七十二時間トス

第百三十三條 一旦配達ヲ了リタル電報ノ再送ヲ請求スルトキハ其ノ電報送達紙ヲ差出スヘシ若返信料ヲ前納シタルモノナルトキハ其ノ返信料前納證書ヲ返戻スヘシ

第百三十四條 電報ノ再送ヲ請求スルモノハ其ノ再送スヘキ電報ニ記載シアル指定事項ノ削除ヲ請求シ又ハ第百三十條ニ掲クル電報ノ指定事項ヲ除クノ外必要ナル指定事項ノ記入ヲ請求スルコトヲ得

第百三十五條 返信料前納電報、受信電報又ハ別使料若ハ艀船料ノ報知ヲ要スル電報ヲ再送スルトキハ其ノ指定事項ヲ削除スヘシ此ノ場合ニ於テハ第百十四條ノ例ニ依リ返信料前納證書ヲ使用シ又ハ受信報知別使料報知若ハ艀船料報知ノ代トシ電報再送ノ旨ヲ發信人ニ報知スヘシ

第百三十六條 電報ヲ再送スルトキハ電信局所ニ於テ再送電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第百三十七條 電報ヲ再送スルトキハ其ノ請求者ヲ再送電報ノ發信人ト見做ス

第百三十八條　再送電報ノ再送ニ關スル料金ハ第百二十九條ノ例ニ依リ計算徴收ス

第百二十七條及第百二十八條ノ規定ハ再送電報ニ準用ス

第百三十九條　同文電報ハ之ヲ再送スルコトヲ得ス但シ同文電報ノ指定ヲ削除シ一通ノ電報トシテ再送ヲ請求スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七節　同文電報

第百四十條　發信人ハ一市區町村内又ハ著信局所ヲ同クスル地方ニ住居スル數人又ハ數箇所ヘ宛テ同文ノ電報ヲ差出サムトスルトキハ同文電報ト爲スコトヲ得

第百四十一條　同文電報ハ同文ノ略符號ヲ以テ指定シ同文ノ通數ヲ付記スヘシ但シ其ノ通數ハ十通ヲ超ユルコトヲ得ス

同文電報ニシテ其ノ各通ニ各受信人名ヲ連記シ配達スヘキモノハ前項ノ略符號ニ代フルニ同文連名ノ略符號ヲ以テスヘシ

第百四十二條　同文電報ノ原信ヲ除キタル各通ノ字數又ハ語數ハ總テ之ヲ原信ニ併算ス

第百四十三條　同文電報ニハ原信ヲ除キ其ノ他一通毎ニ同文料トシテ和文ハ金十錢歐文ハ金十五錢ヲ課ス

第百四十四條　至急電報、照校電報又ハ受信電報ヲ同文電報トナストキハ原信ニ各相當ノ略符號ヲ併記シ其ノ至急又ハ照校ノ料金ハ原信一通ニ對シテ之ヲ納メ受信報知料ハ同文ノ通數ニ應シテ之ヲ納ムヘシ

第百四十五條　前條ノ外同文電報ニ他ノ電報ノ指定事項ヲ併用セムトスルトキハ一通毎ニ其ノ相當略符號ヲ記載スヘシ

第八節　外國郵送電報

第百四十六條　外國(關東都督府管内其ノ他在外本邦郵便局所所在地ヲ除ク)ヘ郵送スヘキ電報ニハ外國郵送ノ略符號ヲ以テ指定シ其ノ著信局所名ヲ付記スヘシ

第百四十七條　外國郵送電報ノ郵送料ハ一通ニ付金二十錢トス

第百四十八條　外國郵送電報ハ歐文電報ニ限ル

第九節　停車場掲示電報

第百四十八條ノ二　發信人ハ別ニ告示スル鐵道停車場内ニ自己ノ差出シタル電報ノ掲示ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ電報ニハ停車場掲示ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第百四十八條ノ三　停車場掲示電報ノ受信人名ニハ掲示スヘキ鐵道停車場ヲ肩書スヘシ但シ該鐵道停車場名ノミヲ記載シ別ニ其ノ受信人ヲ特定セサルコトヲ得

第百四十八條ノ四　停車場掲示電報ハ著信局所ニ於テ指名鐵道停車場内ニ之ヲ掲示シ六時間以上ヲ經過シタル後便宜之ヲ抹消ス

停車場掲示電報ハ掲示ヲ以テ配達ト看做ス

第百四十八條ノ五　左ニ掲クル電報ハ停車場掲示電報トシテ發送スルコトヲ得ス

一　返信料前納電報

二　受信電報

附　則

第百四十九條　此規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治十八年五月布達第七號電信取扱規則同二十三年三月遞信省令第三號歐文電報略號常用料金額及其ノ納付手續同年八月遞信省令第十七號電報局渡規則同年十一月遞信省令第二十一號電報配達人ニ電報差出方ヲ依頼スル規程同二十七年七月遞信省令第五號著信局所ヲ指定スル規程同三十年十二月遞信省令第三十三號電話依託電報規則其ノ他此ノ規則ニ牴觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

第百五十條　此ノ規則ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外電線ニ依リ帝國外國間ニ往復スル電報ニ適用セス

○官廳用ノ電信電話ニ關スル件（明治三十三年八月三十一日勅令第三五六號）

官廳カ事務執行ノ爲電信電話ヲ施設スルトキハ軍用電信法ニ依ルモノヲ除クノ外總テ遞信大臣ノ定ムル規程

ニ依ルコトヲ要ス

前項ニ依リ施設シタル電信電話ニシテ鐵道所屬ノモノ及公衆通信ノ用ニ供スル電信電話ナキ地ニ施設シタルモノ竝當該官廳ノ事務執行ニ差支ナキモノハ遞信大臣之ヲ公衆通信ノ用ニ供スルコトヲ得

附　則

本令ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○官廳用電信電話規程

明治三十三年九月一日遞信省令第五一號
改正 明治三十四年遞信省令第四九號　同四十三年同第三六號

第一條　明治三十三年九月勅令第三百五十六號ニ依ル官廳用ノ電信又ハ電話ハ左ニ掲クルモノニ限ル

一　一構內ニ施設スルモノ

二　警察事務及刑事訴訟事務ノ專用ニ供スル爲施設スルモノ

三　鐵道、軌道竝私設電信規則第二條第二號乃至第四號ニ掲クル事業ノ專用ニ供スル爲施設スルモノ

四　電報送受ノ目的ヲ以テ郵便局又ハ電信局トノ間ニ施設スルモノ

五　一市區町村內若ハ鄰接市區町村間ニ於テ又ハ電信電話ノ連絡ナク且第四號ニ依ルヲ不適當トスル市區町村間ニ於テ施設スルモノ

第二條　前條ノ電信又ハ電話ニ關シテハ私設電信規則第四條乃至第十條第十二條乃至第十九條第二十一條第二十二條及第二十四條ノ規定ヲ準用ス但シ前條第一號ノ電信又ハ電話ニ關シテハ私設電信規則第四條乃至第十條第十二條第十三條及第十八條ノ規定ヲ準用セス

前條第四號ノ電信又ハ電話ニ關シテハ前項ノ外私設電信規則第十一條第二十條及明治三十三年九月遞信省令第四十九號ノ規定ヲ準用ス

附　則

第三條　電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノニ關シテハ私設電信規則第十三條乃至第十九條第二十一條及第二十二條ノ規定ヲ準用ス

正午時ノ通報ヲ受クル爲電鈴線ヲ郵便局又ハ電信局トノ間ニ施設スルモノニ關シテハ前項ノ外私設電信規則第四條乃至第七條第九條乃至第十二條及第二十條竝明治三十三年九月遞信省令第四十九號ノ規定ヲ準用ス

第四條　此ノ規程施行前電報送受ノ爲郵便局又ハ電信局トノ間ニ施設シタル電信又ハ電話ニ關シ特ニ期限ヲ定メテ契約シタルモノハ其ノ期限內ニ限リ明治三十三年九月遞信省令第四十九號規定ノ維持料金額ニ拘ハラス其ノ契約ニ定メタル料金額ヲ納付スルモノトス

第五條　電信條例ニ依リ施設ノ許可ヲ得タル電信又ハ電話ニ關シテハ此ノ規程施行ノ日ヨリ六箇月以內ニ私設電信規則第五條第一號乃至第三號及第七條各號ニ掲クル事項ヲ記載セル書類ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

第六條　此ノ規程施行前ニ於テ既ニ施設シタル電信又ハ電話ノ工事中此ノ規程ニ適合セサルモノニ關シテハ私設電信規則第三十條第一項ノ規定ヲ準用ス

電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノノ既設工事ニ付テモ亦同シ

第七條　此ノ規程ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

○私設電信規則

明治三十三年九月一日遞信省令第四八號
改正 明治三十四年遞信省令第四八號　同三十五年同第四〇號　同四十三年同第三七號　同四十四年同第三三號　同四十五年同第二四號

第一條　此ノ規則中私設電信ト稱スルハ電信法第二條ニ掲クル電信又ハ電話ヲ謂フ

第二條　電信法第二條第二號ニ依ル私設電信ハ左ニ列記スル事業ノ專用ニ供スルモノニ限ル

一　私設鐵道法ニ依ル鐵道、軌道條例又ハ特別ノ法令ニ依リ一般運輸ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道及一個人又ハ一會社ニ於テ個人ノ專用ニ供スル爲敷設スル鐵道又ハ軌道ノ事業

二　運河、水利、水防、火防、水道、水難救護及氣象觀測ノ事業

三　高壓及特別高壓ノ電氣ヲ使用スル電氣事業

四　前各號ノ外特ニ私設電信ノ施設ヲ必要トスル事業

第三條　電信法第二條第五號ニ依ル私設電信中一營業ノ爲ニスルモノハ營業所相互間又ハ營業所ト之ヲ管理

スル者ノ居宅間ニ施設スルモノニ限ル

第四條 私設電信ヲ施設セムトスルモノハ遞信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但私設鐵道法ニ依ル鐵道事業ノ專用ニ供スル爲鐵道線路ニ沿ヒ停車場、聯絡所又ハ信號所相互間ニ施設スルモノ及電氣工事規程第七十四條ニ依リ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條 前條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ願書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

一 施設ヲ必要トスル事由
二 電信又ハ電話ノ別及其ノ回線
三 機械設置ノ場所(道府縣郡市區町村字番地)及線路經過地名
四 落成期限

前項第二號及第三號ノ事項ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

鄰接市區町村間又ハ電信法第二條第四號ニ依ルヲ不適當トスル市區町村間ニ私設電信ヲ施設セムトスルトキハ第一項書類ノ外之ヲ證明スルニ足ル書類ヲ添附スヘシ

第六條 第四條ノ許可ヲ得タル後前條第一項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ遞信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第七條 第四條又ハ第六條ニ依リ許可ヲ得タル私設電信ノ工事落成シタルトキハ七日以內ニ左ノ事項ヲ遞信大臣ニ屆出ツヘシ

一 工事落成月日
二 工事設計(機械ノ種類及個數、線路ノ亘長、架空線、地下線、水底線ノ別、回線ノ方式、線條ノ種類、太サ及延長竝保安裝置方法)

前項第二號ノ事項ヲ變更シタルトキハ更ニ前項ノ例ニ依リ屆出ヘシ

第八條 第四條但書ノ私設電信ヲ施設シタル者ハ工事落成後七日以內ニ第五條第一項第二號第三號及第七條第一項各號ノ事項ヲ遞信大臣ニ屆出ヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ但シ公衆通信ノ用ニ供スルモノハ第五條第一項第二號ニ限リ遞信大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 私設電信ヲ讓渡サムトスルトキハ第四條但書ノモノヲ鐵道相互間又ハ電氣事業者相互間ニ讓渡ス場合ヲ除クノ外當事者雙方連署ノ上遞信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル私設電信ノ引渡ヲ爲シタルトキ又ハ第四條但書ノ私設電信ヲ鐵道相互間又ハ電氣事業者相互間ニ讓渡シタルトキハ七日以內ニ當事者雙方連署ノ上遞信大臣ニ屆出ヘシ

第一項ノ外相續又ハ其ノ他ノ原因ニ因リ私設電信ヲ繼承シタルトキハ七日以內ニ其ノ旨ヲ遞信大臣ニ屆出ヘシ

第十條 公衆通信ノ用ニ供スル私設電信ハ遞信大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ廢止シ又ハ中止スルコトヲ得ス

前項以外ノ私設電信ヲ廢止シタルトキハ七日以內ニ其ノ旨ヲ遞信大臣ニ屆出ヘシ

第十一條 電信法第二條第四號ニ依ル私設電信ノ通報ヲ開始シ廢止シ又ハ中止セムトスルトキハ其ノ施設者ヨリ十五日前ニ連接郵便局又ハ電信局ニ屆出ヘシ

第十二條 私設電信ヲ廢止シタルトキハ特ニ期間ノ指定ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外三十日以內ニ線路及機器ヲ撤去スヘシ其ノ許可ノ效力ヲ失ヒ又ハ之ヲ取消サレタルトキ亦同シ

私設電信ノ使用ヲ中止シ一箇年以上ニ及ヒタルトキハ廢止シタルモノト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第十三條 市街地ニ限リ道路ニ架設スル私設電信ノ電線ハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由アルモノハ所轄遞信管理局長ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

一 道路ノ兩側ニ跨カラスシテ其ノ一側ニノミ架設スヘシ
二 道路ノ一側ニ電信線、電話線其ノ他電氣信號線ノ架設シアルトキハ其ノ同側ニ架設スヘシ若其ノ一側ニ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線ノ架設シアルトキハ他ノ一側ニ架設スヘシ

第十三條ノ二 私設電信ノ電線ハ特ニ遞信大臣ノ認可ヲ得タルモノヲ除クノ外電燈電力又ハ電氣鐵道用架空電線ノ電柱ニ添架スルコトヲ得ス但電氣工事規程第七十四條ニ依リ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 私設電信ノ電線ヲ他ノ電信線、電話線又ハ電氣信號線ト交叉若ハ接近シテ架設スルトキハ其ノ通

報信號ニ障害ヲ與ヘサル樣離隔スヘシ其ノ離隔二尺ニ滿タサルトキハ其ノ電線ノ所有者又ハ管理者ノ承諾ヲ受クヘシ

第十五條　私設電信ノ電線ヲ電燈電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉若ハ接近シテ架設スルトキハ左ノ制限ニ依ルヘシ

一　電燈電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉スルトキハ其ノ電線ノ下部ニ架設スヘシ但シ工事上已ムヲ得サル場合ニ於テハ低壓又ハ高壓電線ト交叉スル場合ニ限リ其ノ上部ニ架設スルコトヲ得

二　低壓又ハ高壓電線ト交叉若ハ接近スルトキハ其ノ相互ノ間隔二尺以上ヲ離隔スヘシ

三　特別高壓電線ト交叉スルトキハ特別高壓電線ノ最大電壓ニ從ヒ左記ノ區別ニ依リ特別高壓電線ト私設電信ノ電線トヲ離隔スヘシ但シ特別高壓電線管理者ノ承諾ヲ得且特別高壓電線ト私設電信ノ電線トノ間ニ施設スル保護金屬線ヨリ二尺以上ヲ離隔スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

(イ)特別高壓電線ノ最大電壓一萬「ヴォルト」以下ノ場合ハ其ノ間隔三尺以上

(ロ)特別高壓電線ノ最大電壓一萬「ヴォルト」ヲ超過スル場合ハ一萬「ヴォルト」又ハ其ノ端數ヲ加フル毎ニ八寸以上ヲ加フ

四　特別高壓電線ト接近スルトキハ其ノ相互間ノ水平距離ハ特別高壓電線路ノ電柱地表上ノ高サノ一倍以上タルヘシ但シ特別高壓電線管理者ノ承諾ヲ得テ此ノ距離ヲ十尺マテニ短縮スルコトヲ得

第十六條　私設電信ノ電線ヲ電燈電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉若ハ接近シテ架設シタルトキハ電信又ハ電話線ノ機械ニ接續スル各端ニ於テ二百五十「ミリアムペア」以下ニテ働作スル熱線輪、三百「ヴォルト」ニテ放電スル避雷器及五「アムペア」以下ニテ熔解スル可熔遮斷器ヲ設備スルコトヲ要ス其ノ既ニ架設シタル後ニ於テ交叉若ハ接近ノ場合ヲ生シタルトキ亦同シ

第十七條　屋内ニ布設スル私設電信ノ電線ハ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線ト充分離隔シ且電氣的混觸ヲ豫防スヘシ

第十八條　私設電信ノ電柱ニハ施設者名及電柱ノ番號ヲ表記スヘシ

第十九條　私設電信ノ電線ヲ他ノ電線ト其ノ上部ニ於テ交叉シ又ハ六尺以内「他ノ電線カ強電流電線ナルトキハ八尺以内」ノ距離ニ接近シテ架設スルトキハ工事著手前ニ其ノ電線ノ所有者又ハ管理者ヘ通知スヘシ其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理シ若ハ撤去スルトキ亦同シ

第二十條　電信法第二條第四號ニ依リ連接郵便局又ハ電信局ニ施設スル私設電信ノ引込及裝置工事竝其ノ維持ハ遞信省之ヲ執行ス

前項ノ私設電信施設者ハ遞信省ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ設備ニ要スル物件ヲ供給シ其ノ工事費ヲ支拂ヒ且其ノ維持ニ要スル料金ヲ納付スヘシ但シ維持料ノ金額及其ノ納付手續ハ別ニ之ヲ定ム

第二十一條　遞信大臣ハ私設電信ノ施設他ニ障害ヲ及ホシ若ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ改修又ハ特別ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

第二十二條　遞信大臣ハ隨時吏員ヲ派遣シ私設電信ノ裝置方法又ハ通信ノ狀況等ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

第二十三條　私設電信施設者此ノ規則ノ條項ニ違背シ又ハ此ノ規則ニ依リ發スル命令ヲ遵守セサルトキハ遞信大臣ハ私設電信ノ使用ヲ停止シ又ハ其許可ヲ取消スコトアルヘシ

第二十四條　此ノ規則ニ依リ遞信大臣ニ提出スル書類ハ總テ其ノ私設電信施設地ノ所轄遞信管理局ヲ經由スヘシ

第二十五條　第六條第八條但書第九條第一項若ハ第十條第一項ニ違反シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　第七條第八條第九條第二項及第三項若ハ第十條第二項ノ届出ヲ爲ササル者又ハ第十九條ノ通知ヲ爲ササル者又ハ正當ノ事由ナクシテ第二十二條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條　電信法第二條第一號ノ私設電信ニ關シテハ第四條乃至第十三條第十八條第二十條及第二十四條ノ規定ヲ適用セス

附則

第二十八條　電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノニ關シテハ第十三條乃至第十九條第二十一條乃至第二十三條ノ規定ヲ準用ス

正午時ノ通報ヲ受クル爲電鈴線ヲ郵便局又ハ電信局トノ間ニ施設セムトスルモノニ關シテハ前項ノ外第四條乃至第七條第九條乃至第十二條及第二十條ノ規定ヲ準用ス

第二十九條　電信法施行前電信條例ニ依リ電信又ハ電話私設ノ許可ヲ得タル者ハ電信法第二條第一號ニ該當スルモノヲ除クノ外第四條及第五條ノ規定ニ準シ此ノ規則施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ遞信大臣ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但シ第四條但書ニ該當スルモノハ同一期間内ニ於テ第八條ノ規定ニ準シ届出ヘシ

前項ノ許可ヲ得タルモノハ第七條ノ規定ニ準シ届出ヘシ

第一項ノ期間内ニ於テ出願ヲ爲ササルモノ若ハ其ノ出願ヲ爲スモ許可ヲ得サルモノニ關シテハ第十二條ノ規定ヲ準用ス

第一項及第二項ノ届出ヲ爲ササルモノニ關シテハ第二十六條ノ規定ヲ適用ス

第三十條　前條ニ依リ許可ヲ得又ハ届出ヲ爲シタル私設電信ニシテ其ノ既設工事カ此ノ規則ノ規定ニ適合セサルモノアルトキハ此ノ規則施行ノ日ヨリ三箇年以内ニ之ヲ改造スヘシ但シ其ノ期間内ト雖第二十一條ニ依ル命令ノ效力ヲ妨ケス

電鈴其ノ他線路ヲ施設シテ信號ヲ爲スモノノ既設工事ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス

第三十一條　此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

明治二十二年三月遞信省令第四號電信電話線私設條規其ノ他此ノ規則ニ牴觸スル規定ハ之ヲ廢止ス

○私設電信ニ依ル公衆通信取扱規則

明治三十三年九月一日遞信省令第五〇號

改正　明治三十四年遞信省令第三五號　同三十六年同第一一號　同三十九年同第一三號　同四十三年同第三十九號　同四十五年同第二一號

第一條　電信法第二條ニ依リ施設シタル電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ取扱所ノ名稱、位置ハ別ニ之ヲ告示ス但シ通信取扱時間ニ制限ナキ取扱所ノ電報受付時間ハ當該取扱所前ニ之ヲ掲示ス

第二條　私設ノ電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ專用ノ電報ハ公衆電報中ノ私報又ハ至急私報ト同一ノ順位ヲ以テ傳送スヘシ但シ鐵道業ノ專用ニ供スル電信又ハ電話ナルトキハ其ノ專用ノ電報ハ公衆電報ニ先チ傳送スルコトヲ得

第三條　公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ電報取扱料トシテ左ノ區別ニ依リ其ノ私設者ニ之ヲ支給ス但シ同文電報ノ送受ニ對シ支給スヘキ料金ハ第一號乃至第四號料金ノ半額トス

一　公衆電報官報私報及新聞電報ヲ云フ以下之ニ同シ　一通毎ニ金五錢

二　公衆電報ノ著信　一通毎ニ金四錢

三　公衆電報ノ中繼信　一通毎ニ金五錢

四　公衆電報ノ交換通信　一通毎ニ金一錢

五　電報直配達區域内ヘノ配達又ハ汽車中ニ在ル受信人ヘノ交付　一通毎ニ金四錢

第四條　（削除）

第五條　公衆通信ノ取扱所ニ於テ別使配達又ハ艀船配達ヲ爲シタルトキハ其ノ取扱料トシテ別ニ定ムル金額ヲ支給シ電報ノ受取證書又ハ電報ノ正寫ヲ交付シタルトキハ其ノ取扱料トシテ電報規則ニ定ムル受取證書料又ハ正寫料ノ全額ヲ支給ス

第六條　電報送受ノ爲郵便局又ハ電信局ニ連接スル電信又ハ電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ期間電報ノ託送ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　此ノ規則ハ明治三十三年九月勅令第三百五十六號第二項ニ依リ公衆通信ノ用ニ供スル電信電話ニ之ヲ準用ス但シ第三條ノ取扱料金ハ鐵道所屬ノモノヲ除クノ外當該官廳ノ請求ナキトキハ之ヲ支給セス

附　則

第八條　此ノ規則ハ明治三十三年十月一日ヨリ施行ス

明治二十八年十月遞信省令第六號及同二十九年八月遞信省令第十四號ハ之ヲ廢止ス

○官廳用及私設電信電話ニ依ル公衆通信取扱事務規程

明治三十四年一月十一日
遞信省通第七二三七號

改正　明治三十九年
遞第一二七二號
同四十四年三月
同第五四七號
同四十五年四月
同第一一〇四號

各一等局

官廳用及私設電信電話ニ依ル公衆通信取扱事務規程別紙ノ通相定ム　但シ區內監督事務ヲ分掌スル二等郵便電信局ヘハ其局ヨリ傳達スヘシ

（別　紙）　明治三十四年一月通第七二三七號ニテ遞信大臣ヨリ鐵道作業局、北海道廳、日本以外十八鐵道株式會社ヘ達

官廳用及私設電信電話ニ依ル公衆通信取扱事務規程別紙ノ通相定ム　但シ從前ノ鐵道所屬電信電話線公衆通信取扱事務規程ハ廢止ス

官廳用又ハ私設電信電話ニ依ル公衆電信取扱事務規程

第一條　官廳又ハ私設ノ電信電話ヲ以テ公衆通信ノ取扱ヲ爲ストキハ電信取扱所ニ達示スルモノ及此ノ規程ニ依リ處理スルモノトス

第二條　電信電話ノ施設者ハ其ノ電信取扱所通信技術者ノ執務時間ヲ其ノ電信取扱所ヘ直通スル各局所及其ノ電信取扱所所在地ヲ管轄スル遞信管理局ニ豫メ報告シ置クヘシ

第三條　電信電話ノ施設者ハ電信取扱所ノ見易キ場所ニ公衆電報取扱所ト記シタル標札ヲ揭ケ尙電報受付口ニ電報ノ受付口タルノ表示ヲ爲スヘシ

第四條　電信取扱所ヨリ遞信省ニ差出スヘキ電報原書及附屬書類ハ其ノ電信電話ノ施設者ニ於テ之ヲ取纏メ通信局ニ差出スヘシ

第五條　電信取扱所ヨリ遞信省ニ差出スヘキ書類ハ件名簿ヲ除クノ外適宜簡便ノ書式ヲ用ウルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ電信電話ノ施設者ヨリ一應通信局ニ協議ヲ遂クヘシ

第六條　左ニ記載スル書類ハ實際ノ必要ニ應シ管轄遞信管理局ヨリ電信取扱所ニ之ヲ交付ス

一　遞信法規類纂電信電話編上卷及同訂正書

二　通信官署名錄

三　イロハ別電信局所名錄

四　局報略號表

五　通信區畫便覽及同訂正書

六　通信區畫便覽附錄及同訂正書

七　電信器械室許入證

八　集配人服務規則

九　乙種切手見本簿

十　電信回線圖

第七條　左ニ記載スル物品ハ實際ノ必要ニ應シ管轄遞信管理局ヨリ電信取扱所ニ之ヲ交付ス

一　電信取扱所印

二　日附印

三　配達用蝦蟇口

四　返信料前納證書（和文用）

五　返信料前納證書（歐文用）

六　封印紙

七　電報總計表

八　氣象通知電報符號一覽表

九　氣象通知電報譯文紙

十　海外返信料前納證券

十一　電報受取證書（和文用）

十二　電報料金受領證書（和文用）

十三 電報受取紙（和文用）
十四 電報受取證書（歐文用）
十五 電報料金受領證書（歐文用）
十六 電報受取紙（歐文用）
十七 件名表
十八 發著信番號表
十九 配達番號表
二十 配達成績表
二十一 停車場掲示電報用掲示板及其ノ附屬品

第八條 電信取扱所ニ於テ第六條ノ規則書類ヲ亡失毀損セシトキハ其ノ修理ヲ要スヘキモノト否トヲ問ハス其ノ都度事實ヲ詳記シ之ヲ遞信管理局又ハ監督事務ヲ分掌スル一二等郵便局ニ報告スヘシ

第九條 公衆通信ノ取扱ヲ廢止シタルトキハ第六條ノ規則書類ヲ管轄遞信管理局又ハ監督事務ヲ分掌スル一二等郵便局ニ返納スヘシ
第七條ニ依リ交付ヲ受ケタル物品ニシテ使用セサルモノ亦同シ

第十條 別使配達料ハ其里程（島嶼ハ其位置）艀船配達料ハ其ノ場所ニ依リ管轄遞信管理局ニ於テ土地ノ狀況及傭役員等ヲ標準トシテ之ヲ指定スルモノトス

第十一條 私設電信ニ依ル公衆通信取扱規則ニ依リ支給スヘキ電報、別使配達、艀船配達、受取證書及正寫ノ取扱料ハ通信局ニ於テ一ケ月分毎ニ其ノ支給額ヲ左ノ方法ニ依リ取調ヘ內譯ヲ付シテ通報スヘシ

一 發信著信竝中繼信及交換器ニ依リ送受スルモノハ各其ノ實數ニ依ル
二 （削除）
三 （削除）
四 （削除）
五 （削除）
六 （削除）
七 （削除）
八 別使配達取扱料又ハ艀船配達取扱料ハ實際支拂シタル金額ニ拘ラス管轄遞信管理局ニ於テ指定シタル金額ニ依ル但シ陸路配達ノ里程ニシテ里位ニ達セサル端數ハ九丁ヲ單位トシ豫定ノ一里配達賃ヲ四除シ其ノ商ヲ以テ毎九丁以內ノ配達賃トス
九 取扱所ノ錯誤ニ起因シ一ノ電報ヲ再三別使又ハ艀船ヲ以テ配達シタル場合ト雖其ノ別使配達取扱料又ハ艀船配達取扱料ハ正當宛所ニ一回配達シタルモノトシテ計算シ他局所ノ錯誤ニ起因シタルモノハ其ノ配達度數ニ依リ計算ス
十 受取證書取扱料又ハ正寫取扱料ハ其ノ交付シタル回數ニ依ル

前項ニ依リ査定シタル金額ニ厘位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ電報取扱料ハ總額ニ付別使配達料ハ一通毎ニ四捨五入ス

第十二條 電信取扱所ニ於テ公衆通信ノ取扱ヲ爲ストキハ電報ノ祕密ヲ保護スル爲其ノ施設者ニ於テ電報原書保管函ヲ調製シ之ヲ其ノ電信取扱所ニ備置キ傳送又ハ配達ヲ了シタル電報原書ハ直ニ該函ニ納メ保管セシムヘシ

第十二條ノ二 電信取扱所ニ於テ汽車中ニ在ル受信人ニ電報ヲ交付セムトスルニ方リ列車停車中ニ之ヲ捜索シ得サルトキハ當該列車貫通式ナル場合ニ限リ相當吏員ヲシテ發車後モ引續キ捜索セシメ其ノ結果尙交付不能ナルトキハ直ニ局報ヲ以テ當該著信電信取扱所ヘ其ノ旨通知スルト共ニ其ノ電報等ハ便宜ノ方法ニ依リ之ヲ返戾セシムヘシ
前項ニ依リ發車後交付シタル場合ニ於テ若追徵料金アルトキハ便宜ノ方法ニ依リ之ヲ當該電信取扱所ヘ廻送セシムヘシ

第十三條 左ニ記載スル電報ハ下記ノ文字ヲ原書餘白ニ朱書シ且其ノ表紙ニ各通數ヲ記載スヘシ但シ同一交換器ニ依リ接續スル電信取扱所相互間ニ發著スルモノハ著信原書ニノミ朱書シ發信ノ通數ヲ算入スヘカラス

一 電報直配達區内ニ於テ配達シ又ハ汽車中ニ在ル受信人ヘ交付スル著信ハ「配達」
二 受信人ヘ交付スル著信ニシテ前號以外ノモノハ「交付」
三 郵便配達ニ付シタル著信ハ「郵便配達」
四 別使配達ニ付シタル著信ハ「別使何里何丁」
五 艀船配達ニ付シタル著信ハ「艀船配達」
六 交換器ニ依リ送受シタル發信及著信ハ「交換」
七 同文電報ノ發信著信及中繼信ハ「同文」
八 局報ノ中繼信ハ「局報」

前項第四號及第五號ノ電報ニシテ再度以上別使又ハ艀船ヲ以テ配達シタルモノハ其ノ度數及配達先又第六號ノ電報ニシテ二回以上接續ヲ要シタルモノハ其ノ回數ヲ附記シ置クヘシ

○停車場構内電信取扱所ニ於ケル汽車中ニ在ル者ニ宛タル電報取扱ニ關スル件 明治四十五年四月十二日 遞信省告示第三八七號

來五月一日以降鐵道停車場内ニ在ル電報配達事務ヲ取扱ハサル電信取扱所ニ於テハ汽車中ニ在ル者ニ宛タル電報ノ交付ヲモ取扱フ

○列車乘客ノ發信電報取扱方ノ件 明治四十五年四月十九日 公報注意

列車乘客ノ發信スル電報取扱方ニ關シ左ノ通リ通牒セリ

電氣課長依命通牒 明治四十五年四月十七日 鐵電第七六四號ノ一 各管理局長宛

今般遞信省ニ於テ列車乘客ノ發受スル電報ニ關シ關係規定ニ改正ヲ加ヘ來ル五月一日ヨリ實施スル事ト相成タルニ付テハ規定ニ明文アルモノノ外左記ニ依リ取扱相成度

一 公衆電報ノ取扱ヲ爲ス驛ニ停車中ノ列車乘客ヨリ當該驛員ニ對シ電報ノ發信ヲ依頼シタル場合ハ該驛員ニ於テ電報取扱規程第八十五條ノ事項ヲ調査シタル上之ヲ受領シ電信掛員ニ引渡スコト

二 貫通式列車内ニ於テ乘客ヨリ該列車ノ乘務員ニ對シ電報ノ發信ヲ依頼シタル場合ハ該乘務員ニ於テ前項ノ調査ヲ爲シタル上之ヲ受領シ最モ速ニ電報ヲ發送シ得ル驛ノ電信掛員ニ引渡スコト

三 前二項ニ依リ頼信スル電報ニ對シ電報規則第七十三條ノ受取證書ヲ請求スルモノアリタルトキハ該驛員又ハ乘務員ハ自己ノ仲介者タルニ過キサル旨ヲ告ケ之ニ應セサルコト

四 第一項第二項ニ依リ驛員又ハ乘務員ニ於テ査閲ノ上受領シタル電報ノ料金ニ未納又ハ不足ノモノアルモ明治二十四年三月遞信大臣訓示第六號ノ趣旨ニ依リ發信人ヨリ一切追徵セサルコト

○停車場掲示電報ヲ掲示スル停車場名 明治四十五年四月三十日 遞信省告示第四三八號 改正 明治四十五年 遞信省告示第四七九號

電報規則第百四十八條ノ二ニ依ル停車場掲示電報ヲ掲示スル鐵道停車場左ノ通指定ス但シ掲示ノ取扱ハ各其ノ受持電信局所ノ電報取扱制限ニ依ル

名稱	位置
上野停車場	東京市下谷區山下町
兩國橋停車場	東京市本所區横網町
飯田町停車場	東京市麴町區飯田町
品川停車場	東京市芝區高輪南町
新橋停車場	東京市芝區汐留町
新宿停車場	東京府豐多摩郡淀橋町
八王子停車場	東京府南多摩郡八王子町
大宮停車場	埼玉縣北足立郡大宮町
川越停車場	埼玉縣入間郡川越町
千葉停車場	千葉縣千葉郡千葉町
成田停車場	千葉縣印旛郡成田町
宇都宮停車場	宇都宮市川向町

日光停車場	栃木縣上都賀郡日光町
水戸停車場	水戸市大字上市
甲府停車場	甲府市橘町
大阪停車場	大阪市北區東梅田町
湊町停車場	大阪市南區難波東圓手町
難波停車場	大阪市南區難波新地
堺停車場	堺市吾妻橋通
濱寺公園停車場	大阪府泉北郡濱寺村
京都停車場	京都市下京區東鹽小路町
二條停車場	京都府葛野郡朱雀野村
嵯峨停車場	京都府葛野郡嵯峨村
稲荷停車場	京都府紀伊郡深草村
福知山停車場	京都府天田郡曾我井村
綾部停車場	京都府何鹿郡綾部町
舞鶴停車場	京都府加佐郡中筋村
馬場停車場	大津市馬場
草津停車場	滋賀縣栗太郡草津町
彦根停車場	滋賀縣犬上郡青波村
米原停車場	滋賀縣坂田郡入江村
貴生川停車場	滋賀縣甲賀郡貴生川村
奈良停車場	奈良市下三條町
和歌山市停車場	和歌山市東藏前町

橫濱停車場	橫濱市櫻木町
平沼停車場	橫濱市平沼町
橫須賀停車場	橫須賀市逸見
鎌倉停車場	神奈川縣鎌倉郡鎌倉町
藤澤停車場	神奈川縣高座郡藤澤町
大磯停車場	神奈川縣中郡大磯町
國府津停車場	神奈川縣足柄下郡國府津村
靜岡停車場	靜岡市榮町
沼津停車場	靜岡縣駿東郡沼津町
濱松停車場	靜岡縣濱名郡濱松町
神戸停車場	神戸市東川崎町
兵庫停車場	神戸市兵庫濱崎通
三宮停車場	神戸市北長狹通
明石停車場	兵庫縣明石郡明石町
姫路停車場	兵庫縣飾磨郡國衙村
和田山停車場	兵庫縣養父郡大藏村
鳥取停車場	鳥取市川外大工町
米子停車場	鳥取縣西伯郡成實村
岡山停車場	岡山市上石井
津山停車場	岡山縣久米郡佐良山村
高松停車場	高松市新湊町
丸龜停車場	丸龜市濱町

多度津停車場	香川縣仲多度郡多度津町
長崎停車場	長崎市大黒町
長崎浦上停車場	長崎市里郷
佐世保停車場	佐世保市福石免
諫早停車場	長崎縣北高來郡北諫早村
早岐停車場	長崎縣東彼杵郡早岐村
尾ノ道停車場	長崎縣西彼杵郡長與村
大村停車場	長崎縣東彼杵郡大村
佐賀停車場	佐賀縣佐賀郡神野村
有田停車場	佐賀縣西松浦郡有田村
武雄停車場	佐賀縣杵島郡武雄町
久保田停車場	佐賀縣佐賀郡久保田村
鳥栖停車場	佐賀縣三養基郡鳥栖町
山本停車場	佐賀縣東松浦郡鬼塚村
唐津停車場	佐賀縣東松浦郡唐津町
西唐津停車場	佐賀縣東松浦郡唐津村
伊万里停車場	佐賀縣西松浦郡大坪村
牛津停車場	佐賀縣小城郡牛津町
函館停車場	函館區若松町
小樽停車場	小樽區永井町
中央小樽停車場	小樽區稻穗町
札幌停車場	札幌區北五條西

岩見澤停車場	石狩國上川郡岩見澤町
旭川停車場	石狩國上川郡旭川町
登別停車場	膽振國幌別郡登別村
室蘭停車場	膽振國室蘭郡室蘭町
釧路停車場	釧路國釧路郡釧路町
帶廣停車場	十勝國河西郡帶廣町
長野停車場	長野市末廣町
松本停車場	松本市大字筑摩
上田停車場	長野縣小縣郡上田町
篠ノ井停車場	長野縣更級郡布施村
鹽尻停車場	長野縣東筑摩郡鹽尻村
木曾福島停車場	長野縣西筑摩郡福島町
輕井澤停車場	長野縣北佐久郡東長倉村
小諸停車場	長野縣北佐久郡小諸町
岡谷停車場	長野縣諏訪郡平野村
上諏訪停車場	長野縣諏訪郡上諏訪町
長岡停車場	長岡市長岡坂ノ上町
新潟停車場	新潟縣中蒲原郡沼垂町
直江津停車場	新潟縣中頸城郡直江津町
高田停車場	新潟縣中頸城郡高田町
名古屋停車場	名古屋市笹島町
熱田停車場	名古屋市熱田東町

豐橋停車場	豐橋市大字花田
大府停車場	愛知縣知多郡大府村
武豐停車場	愛知縣知多郡武豐町
一宮停車場	愛知縣中島郡一宮町
岡崎停車場	愛知縣額田郡岡崎村
岐阜停車場	岐阜市上加納
大垣停車場	岐阜縣安八郡大垣町
彌富停車場	愛知縣海西郡彌富町
四日市停車場	四日市市大字濱田
津停車場	津市下部田
山田停車場	宇治山田市大字宮後町
桑名停車場	三重縣桑名郡大山田村
龜山停車場	三重縣鈴鹿郡龜山町
柘植停車場	三重縣阿山郡東柘植村
鳥羽停車場	三重縣志摩郡鳥羽町
門司停車場	門司市京町
小倉停車場	小倉市小倉
博多停車場	福岡市大字馬場新町
久留米停車場	久留米市大字京町
大里停車場	福岡縣企救郡柳ヶ浦村
折尾停車場	福岡縣遠賀郡折尾村
若松停車場	福岡縣遠賀郡若松町
八幡停車場	福岡縣遠賀郡八幡町大字尾倉

枝光停車場	福岡縣遠賀郡八幡町大字枝光
戸畑停車場	福岡縣遠賀郡戸畑町
吉塚停車場	福岡縣筑紫郡堅粕村
羽犬塚停車場	福岡縣八女郡羽犬塚村
二日市停車場	福岡縣筑紫郡二日市町
大牟田停車場	福岡縣三池郡大牟田町
直方停車場	福岡縣鞍手郡直方町
飯塚停車場	福岡縣嘉穗郡飯塚町
後藤寺停車場	福岡縣田川郡後藤寺町
行橋停車場	福岡縣京都郡行橋町
宇ノ島停車場	福岡縣築上郡宇島町
高瀬停車場	熊本縣玉名郡彌富村
上熊本停車場	熊本縣飽託郡池田村
熊本停車場	熊本縣飽託郡春日町
宇土停車場	熊本縣下益城郡守富村
八代停車場	熊本縣八代郡太田郷村
人吉停車場	熊本縣球磨郡大村
住吉停車場	熊本縣宇土郡網津村
三角停車場	熊本縣宇土郡三角町
大分停車場	大分市大字大分
中津停車場	大分縣下毛郡豐田村
宇佐停車場	大分縣宇佐郡北馬城村

日出停車場	大分縣速見郡川崎村
別府停車場	大分縣速見郡別府町
鹿兒島停車場	鹿兒島市濱町
吉松停車場	鹿兒島縣始良郡吉松村
栗野停車場	鹿兒島縣始良郡栗野村
國分停車場	鹿兒島縣始良郡西國分村
仙臺停車場	仙臺市名懸町
福島停車場	福島市榮町
青森停車場	青森市大字安方町
弘前停車場	青森縣中津輕郡和德村
山形停車場	山形市香澄町
秋田停車場	秋田市大字楢山
盛岡停車場	巖手縣巖手郡厨川村
尾道停車場	尾道市大字東御所町
廣島停車場	廣島市大須賀町
呉停車場	呉市莊山田村
福山停車場	廣島縣深安郡福山町
海田市停車場	廣島縣安藝郡海田市町
己斐停車場	廣島縣佐伯郡己斐村
宮島停車場	廣島縣佐伯郡大野村
松江停車場	松江市松江分
下關停車場	下關市大字西細江町

岩國停車場	山口縣玖珂郡麻里布村
柳井津停車場	山口縣玖珂郡柳井町
德山停車場	山口縣都濃郡德山町
三田尻停車場	山口縣吉敷郡防府町
小郡停車場	山口縣佐波郡小郡町
厚狹停車場	山口縣厚狹郡厚西村
松山停車場	松山市久保町
古町停車場	愛媛縣溫泉郡朝美村
道後停車場	愛媛縣溫泉郡道後村
金澤停車場	金澤市木ノ新保
七尾停車場	石川縣鹿島郡矢田鄉村
高岡停車場	富山縣射水郡下關村
富山停車場	富山市愛宕町
福井停車場	福井市日出下町
敦賀停車場	福井縣敦賀郡敦賀町

○汽車乘客ノ發スル新聞電報仲介ノ件 大正元年九月二日 公報注意

汽車乘客カ車內ヨリ新聞電報ヲ發信セムトシ其仲介ヲ乘務員（貫通式列車ノ場合ニ限ル）又ハ驛員（公衆電報取扱驛ノ驛員ニ限ル）ニ依賴シタル場合ハ是等係員ハ一應新聞電報發信證票又ハ新聞電報料金後納發信券綴ノ提示ヲ求メテ左記各號ヲ審査シ發信證票ノ番號ヲ賴信紙ノ餘白ニ記入シ尙發信人ニ向テ萬一發信證票又ハ後納電報取扱停止中ノモノナルトキハ電信取扱所ニ於テ受付ケサルヤモ難計其場合ニハ便宜ノ方法ニ依リ返戻スル旨ヲ懇示シ置キ受領シタル賴信紙ハ可成速ニ之ヲ電信掛員ニ引渡スコト

一 賴信紙ニ記載シアル發受信人名ハ發信證票又ハ後納發信券及後納發信券綴中ニ記載シアルモノト相違セサルヤ

二 發信證票又ハ後納發信券綴ノ受信人名ノ傍ニ略字ノ記入シアルモノハ電報ノ受信人名ヲ必ス其略字ニテ認ムヘキ規定ニ付此場合ニ受信人名

ニカ略字ニテ記載シアルヤ否ヤ

三　後納電報ノ場合ニハ電報ノ字數及料金カ發信券ニ記載シアルモノト相違セサルヤ又其著信局ハ發信券綴ノ交付局ト相違セサルヤ

○鐵道電報規程

明治三十九年六月二十八日達第九五號　改正明治四十一年十二月達第三七號　同四十二年六月達第五七六號

第一條　鐵道電報（以下單ニ電報ト稱ス）ハ特ニ發送スヘキ規定アル場合ヲ除ク外緊急ノ公務ニ關シ列車便ヲ以テ通信スル暇ナキ場合ニ限リ發送スルコトヲ得

第二條　電報ノ發送ハ電報發送責任者ノ承認ヲ經ルヲ要ス

第三條　部長、管理局長、調査所長、出張所長（鐵道院出張所長ヲ云フ以下總テ同シ）建設事務所長、市街線建築事務所長及官房各課長ハ電報發送責任者ヲ定メ電報ヲ取扱フ驛所ニ之ヲ告知スヘシ但責任者ハ一事務ノ主任者以上ニ限ル

第四條　電報ヲ別チテ左ノ三種トス

一　特別至急報

二　至急報

三　通常報

第五條　特別至急報トハ事故報告規程第三條（第二號ヲ除ク）ニ依ル報告及重大ノ事故發生シタル場合ニ於テ之レカ處理ニ關シ發スル電報ヲ云フ

第六條　至急報トハ電線又ハ電機ニ障害アル場合ノ修理手配及列車運轉其他業務上特ニ緊急ヲ要スル電報ヲ云フ

第七條　通常報トハ前二條ノ電報ヲ除キ業務ニ關スル諸般ノ電報ヲ云フ

第八條　電報ハ第四條記載ノ順序ニ依リ送達スヘシ

第九條　同一順位ノ電報ハ受附ノ順序ニ依リ傳送シ中繼信及著信ハ受信ノ前後ニ依リ傳送配達スヘシ

第十條　電報ハ片假名、數字、亞剌比亞數字及左ノ記號ヲ以テ極メテ簡明ニ記載シ其語辭ハ普通語、略號、略稱及暗號ヲ用フヘシ

記號	
長音	—
句讀點	●
新章	」
括弧	（　）
小括弧	「　」

但本文中ニ歐字ヲ挿入スル必要アルトキハ其文字ノ前後ヲ小括弧ヲ以テ區別スヘシ

第十一條　電報ニ要スル指定事項及其略符號左ノ如シ

指定事項	略符號
特別至急	イナ
至急	ウナ
親展	ニカ
全文照校	ムニ
數字照校	スム
追尾	チラ
留置	ムナ
同文連名	ヨイ

第十二條　特別至急報ハ特別至急ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第十三條　至急報ハ至急ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第十四條　受信者以外ノ披見ヲ憚ル電報ハ親展ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第十五條　反復校正ヲ要スル電報ハ左ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

一　全文照校ノ略符號　全文ノ反覆校正ヲ必要トスルトキ

一 數字照校ノ略符號　本文中數字ノミノ反覆校正ヲ必要トスルトキ

第十六條 追尾傳送ヲ要スル電報ハ追尾ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第十七條 電報ヲ著信驛ニ留置カントスルトキハ留置ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第十八條 著信驛ヲ同シクスル地方ノ數人又ハ數ケ所ヘ宛同文ノ電報ヲ發送セントスルトキハ其受信者名ヲ連記シ同文連名ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第十九條 電報ノ本文及指定事項ハ之ヲ字數ニ計算スヘシ

第二十條 電報中ノ數字、歐字及記號ハ其一個ヲ片假名一字ニ計算シ濁點及半濁點ヲ付シタル文字及括弧、小括弧ハ之ヲ片假名二字ニ計算スヘシ

第二十一條 電報ハ電報用紙ニ記載シ發送責任者之ニ捺印若クハ手記シ且其字數及指定事項ノ略符號ヲ相當欄ニ記入シ發送スヘシ

第二十二條 發信者名ニハ必ス其發信驛名ヲ肩書スヘシ

第二十三條 官職氏名ハ可成官名、職名又ハ苗字ノミヲ用ヒ且別ニ略名アルモノハ必ス之ニ依リ記載スルヲ要ス

第二十四條 電報中ノ數字ハ亞剌比亞數字ヲ以テ大書スヘシ

第二十五條 電報ハ親展ノ外無緘ニテ其宛所ニ配達ス

第二十六條 電報ノ受信者ハ必ス受證簿ニ捺印又ハ手記スヘシ

第二十七條 電報ノ誤達ヲ受ケタル者ハ直チニ之ヲ配達驛ニ返戻スヘシ

其親展電報ヲ誤テ開封シタルトキハ更ニ封緘シ其事由ヲ記載シタル符箋ヲナスヘシ

第二十八條 管理局長、出張所長ハ運轉上必要ト認ムル場合ニ於テハ電報ノ種類又ハ區域ヲ限リ通信ヲ停止スルコトヲ得

管理局長、出張所長ハ所管内ニ於ケル通信停止及解除ヲ總裁ニ報告スヘシ

第二十九條 運輸事務所長及驛長ハ列車運轉上重大ナル事故發生ノ場合通信停止ノ必要アルモ管理局長、出張所長ニ申請スル暇ナキ場合ハ所管內若クハ所屬區間ニ限リ通常報ノ假停止ヲナスコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ直チニ其旨管理局長、出張所長ニ報告スヘシ其解除ノ場合亦同シ

第三十條 電報取扱ニ關スル細則及電報用略名略號ハ別ニ之ヲ定ム

○鐵道電報取扱細則

明治四十一年十二月二十八日達第一〇〇號　改正明治四十三年三月達第二〇一號　同四十四年二月達第七六號

第一章 總則

第一條 鐵道電報(以下單ニ電報ト稱ス)ノ取扱ニ關シ此細則ニ明文ナキモノハ此細則ノ趣旨ニ從ヒ便宜之ヲ處理スヘシ

但他ニ規定アルモノハ其規定ニ從フヘシ

第二條 電報ノ取扱ハ快速ト正確トヲ旨トシ其受附ヨリ受信者ニ交附スルマテ何等ノ場合ト雖苟モ粗漏緩慢ノ取扱ヲ爲スヘカラス

第三條 此細則ニ於テ出張所ト稱スルハ鐵道院出張所ヲ云フ

第二章 受附

第四條 電報ハ受附ノ際左ノ事項ヲ調査スヘシ

一 電報ノ記載方定規ニ違フコトナキヤ否

二 電報ノ書體不明瞭ニシテ誤讀ノ虞ナキヤ否

三 電報ノ種類

四 電報ノ字數

五 指定事項アルヤ否及指定ヲ要スルモノニシテ之ヲ缺クコトナキヤ否

六 發送責任者ノ捺印或ハ手記アルヤ否

第五條 前條ノ調査ヲ了シタル後受理スヘキ電報ハ直チニ左ノ事項ヲ類表ニ記載シ送信ノ手續ヲナスヘシ

一 電報ノ種類

二　發信番號
三　受附月日及時分
四　電信掛心得トシテ記載スヘキ事項アルトキハ其事項
第六條　電報受附時分ハ第四條ノ手續ヲ了シタルトキノ時分ヲ正確ニ記入スヘシ
第七條　電報ニ用フル各驛各信號所名ハ凡テ普通ノ名稱ヲ以テ記載セシメ稱呼同一若クハ類似ノモノアル驛所名ニ對シテハ各其所在線名ヲ肩書セシムヘシ
第八條　受信者名稱ノ意義判明ナラサルモノハ（例令ハ「各主要驛」宛ノ類）發送者ヲシテ適當ニ之ヲ改訂セシムヘシ
第九條　電報ヲ便宜ノ紙ニ記載シテ差出シタルトキハ便宜之ヲ受附ケ電報用紙ニ轉寫シ送信ノ手續ヲ爲スヘシ
第十條　數驛ニ著スヘキ同文ノ電報（發信者名ヲ含ム）ヲ一葉ノ用紙ニ記載シ發送スルモノアルトキハ便宜之ヲ受附ケ送達上遺憾ナキ樣適宜之ヲ謄寫シ（同一回線ニ送信スヘキモノハ除ク）相當事項ヲ記載ノ上送信ノ手續ヲナスヘシ
　但發信番號ハ一通毎ニ各別ニ之ヲ付スヘシ
第十一條　記載方其他規定ニ違背シタル電報ニシテ受附ノ際訂正ノ手續ヲナサシメ難キモノト雖判定シ得ラルル限リ可成適當ニ之ヲ改訂シ取扱フヘシ
電報規程第一條ノ趣旨ニ違反シ若シクハ字句ノ冗長ニ渉ルモノト認メタルモノハ一應送達ノ手續ヲ了シタル上其原書ニ符箋シ所管管理局若クハ出張所ニ回送スヘシ
第十二條　電線不通其他事故ノタメ電報遲延スヘキ虞アルトキハ電報ノ受附ヲナスヘカラス
　但發信者ニ於テ延著スルコトヲ肯諾シタルトキハ此限リニアラス
第十三條　線上ヲ經由セサルモノハ電報トシテ受附ヲ爲スヘカラス若シ連記シタル電報ノ受信者名中送達上電線ヲ經由セサルモノアルトキハ發送者ヲシテ之ヲ削除セシムヘシ

第三章　傳送

第一節　通則

第十四條　電報ハ左ノ順序ニ依リ傳送スヘシ
一　電報ノ種類　前置符號ヲ用フヘシ
二　發信番號
三　受附月日　當日ナラハ省略スヘシ
四　受附時分
五　電報ノ字數
六　受信者居所氏名
七　發信者居所氏名
八　指定事項
九　電報ノ本文
十　電信掛心得
　但受信者居所氏名ノ終及指定事項アルトキハ其前ニ—— ‐ ‐ —— ‐ ‐ノ符號ヲ送ルヘシ
第十五條　傳送上ニ用フル前置符號左ノ如シ
一　特別至急報　イナ
一　至　急　報　ウナ
一　通　常　報　ナ
第十六條　傳送上ニ用フル時辰符號左ノ如シ
イ　一時又ハ五分
ハ　二時又ハ十分
ニ　三時又ハ十五分
ホ　四時又ハ二十分

ヘ　五時又ハ二十五分
チ　六時又ハ三十分
リ　七時又ハ三十五分
ヌ　八時又ハ四十分
ル　九時又ハ四十五分
ワ　十時又ハ五十分
カ　十一時又ハ五十五分
ヨ　十二時又ハ零時
ナ　一分
ラ　二分
ヤ　三分
マ　四分

前項ノ時辰符號ヲ傳送スルトキハ時分ノ前ニ午前又ハ午後ノ符號ヲ加送スヘシ

第十七條　傳送上ニ用フル文字及記號左ノ如シ

イ　・－
ロ　・－・－
ハ　－・・・
ニ　－・－・
ホ　－・・
ヘ　・
ト　・・－・・
チ　・・－・

リ　－－・
ヌ　・・・・
ル　－・－－・
ヲ　・－－－
ワ　－・－
カ　・－・・
ヨ　－－
タ　－・
レ　－－－
ソ　－－－・
ツ　・－－・
ネ　－－・－
ナ　・－・
ラ　・・・
ム　－
ウ　・・－
ヰ　・－・・－
ノ　・・－－
オ　・－・・・
ク　・・・－
ヤ　・－－
マ　－・・－

ケ −・−−
フ −−・・
コ −−−−
エ −・−−−
テ ・−・−−
ア −−・−−
サ −・−・−
キ −・−・・
ユ −・・−−
メ −・・・−
ミ ・・−・−
シ −−・−・
ヱ ・−−・・
ヒ −−・・−
モ −・・−・
セ ・−−−・
ス −−−・−
ン ・−・−・
゛濁點 ・・
○半濁點 ・・−−・

數字

一 ・−−−−
二 ・・−−−
三 ・・・−−
四 ・・・・−
五 ・・・・・
六 −・・・・
七 −−・・・
八 −−−・・
九 −−−−・
〇 −−−−−

記號

長音 ・−−・−
句讀點● ・・・・・・
新章「 ・−・−・・
括弧（） −・−−・−
小括弧「」 ・−・・−・

歐字

A ・−
B −・・・
C −・−・
D −・・
E ・

F ・・－・
G －－・
H ・・・・
I ・・
J ・－－－
K －・－
L ・－・・
M －－
N －・
O －－－
P ・－－・
Q －－・－
R ・－・
S ・・・
T －
U ・・－
V ・・・－
W ・－－
X －・・－
Y －・－－
Z －－・・

亞刺比亞數字

1 ・－－－－
2 ・・－－－
3 ・・・－－
4 ・・・・－
5 ・・・・・
6 －・・・・
7 －－・・・
8 －－－・・
9 －－－－・
0 －－－－－

第十八條　傳送上ニ用フル添送符號左ノ如シ

始信終信及誤謬 ・・・・・・・・
電報本文ノ始メDQ －・・ －－・－
承諾OK 又ハ RT －－－ －・－ 又ハ ・－・ －
問標 UD ・・－ －・・
可受 TAKE － ・－ －・－ ・
可待 MQ －－ －－・－
可送 G －－・
番號 NR －・ ・－・
本日 TY － －・－－
前日 YY －・－－ －・－－
一昨日 BYY －・・・ －・－－ －・－－

時　CODE　—-—- ——— —-- -
午前　M　— —
午後　S　- - -
字數　W　- — —
電信掛心得　MM　— — — —

第十九條　受信シタル電報ヲ照校スルトキ若クハ受信證トシテ番號ヲ送ルトキハ左ノ數字ノ符號ヲ用フルコトヲ得
電報ノ額表ヲ傳送スルトキニ限リ前項ノ番號、時及字數ノ符號ハ添送セサルモノトス

一　- — — — —　二　- - — — —
三　- - - — —　四　- - - - —
五　- - - - -　六　— - - - -
七　— — - - -　八　— — — - -
九　— — — — -　〇　— — — — —

第二十條　傳送上ニ用フル符號ノ長短及間隔左ノ如シ
一　長點ハ短點四個ヲ合セシモノニ等シ
二　一字ヲ作ル點々ノ間隔ハ一短點ニ等シ
三　二字ノ間隔ハ三短點ニ等シ

第二十一條　電報ヲ傳送セムトスルトキハ回線各驛ノ使用中ニアラサルコトヲ確メ寛綏分明ニ受信驛名ノ符號ヲ連送シ其應答ヲ得タルトキハ直チニ送信スヘシ
受信驛ニ於テハ直ニ自驛名ノ符號ヲ返送シ猶豫ナク受信スヘシ
但止ムヲ得サル事故アリテ直チニ受信スルコト能ハサルトキハ「可待」ノ符號ト其待ツヘキ時分ヲ併送スヘシ

第二十二條　送信中自ラ誤謬ヲナセシコトヲ覺知シタルトキハ直チニ誤謬ノ符號ヲ送リ既ニ正シク送リタル適宜ノ文辭ヨリ反復シテ殘文ヲ傳送スヘシ

第二十三條　受信中疑ハシキ字句ト認ムルモノアリタルトキハ其送信ヲ遮リ既ニ曉解受信シタル適宜ノ字句ヲ返送スヘシ
其送信當務者ニ於テハ努メテ分明ニ其末辭ヨリ殘文ヲ續送スヘシ

第二十四條　受信驛ニ於テハ特別至急報ノ發信アル場合ノ外何等ノ場合ト雖送リ來リタル電報ノ受信ヲ拒絶シ又ハ遲延スルコトヲ得ス若シ其電報ニ關シ疑義ノ點アラハ直ニ反問シ其回答ニシテ要領ヲ得サルコトアルモ傳送上差支ナキ限リハ其儘受信ヲ了スヘシ

第二十五條　電報送受ノ際當務者ニ於テ疑惑ノ廉アルトキハ全文又ハ一部分ノ反復ヲ爲シ若クハ反復ヲ請求スヘシ

第二十六條　受信當務者ニ於テ電報ノ受信ヲ了シタルトキハ現字數ト額表ニ示シタル字數ト差異ナキヤ否ヤヲ對照シ差異ナキトキハ直ニ受信證トシテ其電報ノ番號ヲ送ルヘシ

第二十七條　受信シタル電報ノ現字數ト額表ニ示シタル字數ト差異アルトキハ受信當務者ヨリ其旨ヲ通報シ其送信當務者ニ於テ額表ノ字數ニ誤アルコトヲ確知シタルトキハ之ヲ訂正スヘシ若シ電報ノ字數中ニ衍辭脱辭等アリト認ムルトキハ之ヲ照査スル爲毎十字目ヲ再送シ其誤謬ヲ校正スヘシ

第二十八條　電線障害其他ノ事故ニヨリ字數ノ差異又ハ疑惑ノ廉ヲ急速送信驛ニ尋問スル能ハス電報遲延ノ虞アルトキハ主席者ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ限リ其旨ヲ附記シ便宜之ヲ傳送配達スルコトヲ得照校ノ指定アル電報ノ反復校正ヲナシ能ハサルトキ亦同シ

第二十九條　電報ヲ送信シタルトキハ對手驛ヨリノ受信證ヲ確メ電報用紙相當欄内ニ送信時刻及送信當務者名ヲ記入スヘシ
前項電報ニシテ送信驛ニ尋問ノ結果訂正ノ必要ヲ認ムルトキハ相當改訂ノ手續ヲナスヘシ

第三十條　電報ヲ受信シタルトキハ受信證ヲ送出シタル後電報用紙相當欄内ニ受信時刻及受信當務者名ヲ記

入スヘシ

第三十一條　電報中ノ數字ハ片假名ト誤認スルノ虞アルヲ以テ受信ノ際之ヲ大書スヘシ新章ヲ受信スルトキハ必ス別行ニ記載シ其記號ハ他ノ文字ト誤認セラレサル樣前行語辭ノ終リニ正確ニ記載スヘシ

但中繼信ニハ前行文字ノ次ニ新章ノ符號ヲ付シ引續キ記載スヘシ

第三十二條　鐵道電報ハ公衆電報ニ先チ傳送スルコトヲ得

第三十三條　各驛宛ノ電報ハ別ニ定ムル電報繼送規程ノ順序ニ依リ傳送スヘシ

但同一所管内ニ限リ當該管理局長、出張所長ニ於テ特殊ノ順序ヲ定メ之ニ依リ傳送セシムルコトヲ得

第三十四條　同一順位ノ電報ハ交番ニ送受スヘシ

但送受スヘキ電報多數ナルトキハ其回線ニ接續スル他驛ノ電報ヲ遲延セシメサル限リ通數又ハ時分ヲ定メ互ニ連送スルコトヲ得

兩驛相互連送スル場合ニハ一連送三十分時ヲ限度トスヘシ

第三十五條　發信驛又ハ中繼驛ニ於テ電線障碍又ハ通信輻輳其他ノ事故ニ因リ電報ノ傳送遲延シタルトキハ電信掛心得ヲ以テ其事由ヲ著信驛ニ通報スヘシ

第三十五條ノ二　中繼驛ニ於テ中繼順路ヲ誤リタル電報ヲ送信前ニ發見シタルトキハ電信掛心得「何（自驛所名）ニ於テ發見シタル中繼順路違ノ電報」ヲ附記シ之ヲ傳送スヘシ

第三十六條　電線不通ノ場合ニ於テ既ニ受込ノ電報ハ便宜ノ驛ニ臨時中繼ヲ依托スヘシ其電信通路全ク絕ヘタルトキハ便宜ノ驛ヨリ他ノ式紙ニ正シク轉寫シタル上之ヲ開通驛ニ車送シ尙原書餘白ニ（何月何日何驛ヘ車送）ト朱書スヘシ

前項ノ取扱方ハ公衆電報取扱上ニ於ケル不通ノ場合ニモ亦之ヲ準用ス

第三十七條　電報ヲ他驛ニ車送セムトスルトキハ其通數及搭載列車番號ヲ記載シタル送付書ヲ添付スヘシ若シ發送驛ヨリ電線ニテ通報シ得ルニ至リタルトキハ電報ヲ以テ車送セシ電報ノ通數及列車番號ヲ通知スヘシ

第三十八條　前條ノ電報ヲ受取リタル驛ニ於テハ其送付書ニ記載シタル通數ト電報通數ト相違ナキヤ否ヤヲ調査シ受領證ヲ送付スヘシ若シ電線ニテ通報シ得ルニ至リタルトキハ電報ヲ以テ受領ノ通數ヲ通知スヘシ

前項ノ電報ハ送信ノ際電信掛心得ヲ以テ（何々ニ付何々驛間チム）ト附加スヘシ

第三十九條　車送シタル電報宛所ニ到著前電線開通シタルトキハ直ニ之ヲ傳送スヘシ

第四十條　列車便ヲ以テ電報ヲ車送セムトスルトキハ受證簿ニ登記シ其列車乘務車掌ノ證印ヲ受クヘシ

第四十一條　通信機各部ノ調度宜シカラサルトキハ通信上意外ノ誤謬ヲ釀成シ或ハ他驛ヨリノ點呼ヲ聽キ誤ルコトアルカ故ニ特ニ注意ヲ加フヘシ

第四十二條　通信ヲ終リタルトキハ各機械ニ電鈴ヲ接續シ他驛ノ點呼ニ應答ヲ誤ラサル樣注意スヘシ

第二節　特別機械送受

第一款　二重機

第四十三條　二重電信機ニ依リ電報ヲ送受スルトキハ自驛送信當務者及受信當務者ハ一團トナリ兩者互ニ氣脈ヲ通シ通信ニ從事スヘシ

第四十四條　二重電信機ニ依リ傳送スヘキ電報アルトキハ其ノ電報ノ盡ルマテ連續送信スヘシ

但受信驛ヨリ「可止」ノ符號ヲ送リ來リタルトキハ此ノ限リニアラス

電報ヲ連續送信スルトキハ送信時刻及送信當務者名ヲ原書ニ記入スル爲メ一電報ノ傳送ヲ了ル每ニ次ノ送信ヲ適宜ニ猶豫スルヲ得此ノ場合ニ於テハ尙引續キ連送スヘキ電報アルコトヲ表示スル爲メ―― ―― ノ符號ヲ前電報ノ終ニ送ルヘシ

第四十五條　照校電報其他照校ヲ要スル文字ハ連續再送シ以テ反復ニ換フヘシ

第四十六條　電報ヲ傳送シタルトキハ送信當務者自己ノ名ヲ原書ノ餘白ニ記入スヘシ

第四十七條　受信中電報ヲ傳送セムトスルトキハ先ツ二、三回「可受」ノ符號ヲ送リ應答ヲ待タスシテ直ニ送信スヘシ

受信中送信驛ニ尋問又ハ通知セムトスル事件アルトキハ先ツ二、三回左ノ符號ヲ送リ應答ヲ待タスシテ直

ニ其事件ヲ送ルヘシ

第四十八條 送信中受信驛ニ尋問又ハ通知セムトスル事件アルトキハ現ニ傳送中ノ電報ノ終ニ於テ尋問又ハ尋問通知 ―・―・―・ 通知スヘシ

但最モ緊急ヲ要スル事件アルトキ又ハ電報長文ニシテ速ニ傳送ヲ了シ難キトキハ此ノ限リニアラス

一ノ電報傳送ノ半ニ於テ尋問又ハ通知ヲナストキハ先ツ二、三回「尋問通知」ノ符號ヲ送リタル後其事件ヲ送リ之ヲ了リタルトキハ更ニ同一ノ符號ヲ送リ以テ之ヲ區別スヘシ

第四十九條 受信當務者電報ヲ受ケタルトキハ直ニ受信證登錄用紙ニ電報ノ番號ヲ登記シ電報數二十通ニ滿チタルトキ若クハ二十通ニ滿タサルモ連續受信スヘキ電報ナキトキハ直ニ登記濟用紙ヲ其部ノ送信當務者ニ交付スヘシ

但受信證登錄用紙ニハ受信證連送順序ヲ亂ササル爲メ順序番號ヲ附記スヘシ

送信當務者前項登記濟ノ受信證登錄用紙ヲ受取リタルトキハ其受取リタル順序ニ從ヒ直ニ受信證ヲ連送スヘシ

但現ニ電報傳送中ナルトキハ其電報ノ終ニ於テ之ヲ連送スヘシ

第五十條 受信當務者送信當務者ヲシテ送信ヲ止メシムルノ必要アルトキハ左ノ符號ヲ送ルヘシ

可止 ―・・――

第五十一條 受信シタル電報ノ字數ニ相違アリ又ハ其他疑岐ノ廉アルトキハ之ヲ尋問シ受信完了シタルトキノ順序ニ從ヒ受信證登錄用紙ニ番號ヲ登記スヘシ

但其電報ノ受信證ヲ直ニ送リタルトキハ此限リニアラス

送信驛ニ於テ前項ノ尋問ヲ受ケタル電報ハ之カ訂正又ハ反復ヲ了シタル時刻ヲ更ニ原書ノ餘白ニ記載スヘシ

第五十二條 受信證ヲ送リ來ルトキハ一々送信濟ノ電報ニ照合シ其照合者自己ノ名ヲ原書中送信當務者記名

欄內ニ記スヘシ

第二款 電話機

第五十三條 電話機ニ依リ電報ヲ傳送セントスルトキハ先ツ受話機ヲ耳ニアテ他驛通信中ニアラサルコトヲ確メ然ル後徐々分明ニ電鈴ヲ以テ受信驛(驛名信號アレハ之ヲ用ユ)ヲ連呼シ其應答ヲ得タル後通話スヘシ

第五十四條 電報ヲ傳送スルニハ音聲ヲ明瞭ニシ一語辭每ニ受信當務者ノ承諾ヲ得テ通話スルトキハ一語辭ノ筆記ヲ了リタル每ニ領諾ノ旨ヲ告クヘシ若シ通話中不明瞭ノ廉アルトキハ直ニ質問ヲナスヘシ

第五十五條 電報ノ送受兩當務者ハ通話ヲ始ムル前互ニ其氏名ヲ通報シ各之ヲ原書ノ欄外ニ記スヘシ

第五十六條 傳送上ニ用フヘキ各種符號及指定事項ノ略符號ヲ通話スルトキハ總テ通常語ヲ用フヘシ

前項ニ依リ通話ヲ受ケタル通常語ヲ筆記スルトキハ一般ニ用フル記號又ハ略符號ヲ以テスヘシ

第五十七條 通話上判明シ難キ語辭アルトキハ左ノ番號表ニ依リ之ヲ辯明スヘシ

橫番號＼縱番號	一	二	三	四	五
一	ア	イ	ウ	エ	オ
二	カ	キ	ク	ケ	コ
三	サ	シ	ス	セ	ソ
四	タ	チ	ツ	テ	ト
五	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
六	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
七	マ	ミ	ム	メ	モ
八	ヤ		ユ		ヨ
九	ラ	リ	ル	レ	ロ
十	ワ	ヰ		ヱ	ヲ
十一	ン	゛濁點	○半濁點	ー長音	
十二	、句讀點	」新章	()括弧	「」小括弧	／歸除線

例ヘハ（ウジ）ト電話スルニハ十二ノ三、一ノ三、三ノ二、十一ノ二、十二ノ三ト呼ヒ「バ」ト電話スルニハ十二ノ四、六ノ一、十一ノ三、十二ノ四ト呼フ類ニシテ濁點、半濁點ハ總テ其附スヘキ片假名ノ次、括弧ハ之ヲ圍ミタル文字ノ前後ニ電話スルモノトス

第五十八條　本款ニ依リ通信スル電報本文中ノ數字ハ凡テ反覆照校スヘシ

第三節　略送

第五十九條　發信者居所氏名及本文ヲ同フスル電報二通以上アリテ之ヲ同一ノ線路ニ依リ同一ノ驛所ニ引續キ傳送スルトキハ第二以下電報ノ發信者居所氏名本文ヲ省略シテ傳送スルコトヲ得

第六十條　前條ニ依リ電報ヲ略送セムトスルトキハ之ヲ取纒メ第二以下各原書ノ欄外ニ第一電報ノ發信番號ヲ記入シ其取扱者記名シ之ヲ第一電報ニ附綴スヘシ

第六十一條　略送スヘキ電報アルトキハ第一電報ニ「リク」ノ電信掛心得ヲ添付シ傳送スヘシ

略送スヘキ第二以下ノ電報受信者居所氏名マテ「指定事項ノ略符號アルトキハ受信者居所氏名ノ次ニ其略符號」ヲ傳送シ電信掛心得ヲ以テ第一電報ノ發信番號「尙略送スヘキ電報アルトキハ（リク）ヲ添付シ」ヲ添送スヘシ

但他ニ添付スヘキ電信掛心得アルトキハ先ニ之ヲ送リ次ニ第一電報ノ發信番號ヲ送ルヘシ

第六十二條　受信驛所ニ於テ略送ノ電報ヲ受クルトキハ發信者居所氏名本文ヲ省略シ置キ電信掛心得ニアル第一電報ノ番號ヲ原書ノ欄外ニ記載スヘシ

受信ヲ了リタルトキハ第一電報ニ依リ第二以下ノ電報ニ發信者居所氏名及本文ヲ謄寫シ謄寫取扱者其謄寫シタル原書ノ餘白ニ記名スヘシ若シ次ノ驛所ニ略送シ得ヘキモノアルトキハ之ヲ一纒トナシ其一纒トナシタル第一電報ニノミ發信者居所氏名及本文ヲ謄寫シ謄寫取扱者其謄寫シタル原書ニ記名シ第二以下ノ電報本文欄内ニ「略送」ト記入スヘシ

第四節　船便繼送

第六十三條　本土、北海道四國及韓國間各所往復ノ電報ハ左記各驛ヨリ連絡船便ヲ以テ繼送スヘシ

但連帶運輸ニ關シ南滿洲鐵道株式會社線各驛所ニ往復スル電報ハ韓國內ニ宛テタルモノニ準シ取扱フヘシ

一　青森、函館

一　下關又ハ門司、釜山（本土ト韓國ハ下關 九州ト韓國ハ門司）

一　宇野、高松

第六十四條　船便繼送驛以外ノ各所ヨリ發スル電報ハ其前置符號ノ前ニ「ラ」ノ字ノ符號ヲ加ヘ相當船便繼送驛ニ傳送スヘシ

第六十五條　船便繼送驛ニ於テ「ラ」ノ字ノ符號アル電報ヲ受信シタルトキハ他ノ用紙ニ轉寫シ其原書ノ餘白ニ謄寫當務者記名ノ上「何月何日船便繼送」ト記入スヘシ

第六十六條　前條ニ依リ謄寫シタル電報用紙ハ之ヲ取纒メ封筒ニ入レ電報何通在中ト表記シテ送受スヘシ

第六十七條　船便ニ依リ電報ヲ受領シタル驛ニ於テハ其電報中自驛ノ著信ニ係ルモノハ直ニ配達ノ手續ヲナシ他驛ノ著信ニ係ルモノハ「ラ」ノ字ノ符號ヲ付シタル儘之ヲ相當著驛ニ傳送スヘシ

第六十八條　本節ニ依リ船便ヲ以テ送受シタル電報ハ繼送驛ノ發信ニ係ルモノハ發信トシ同驛ニ於テ配達シタルモノハ著信トシ其他ハ凡テ中繼信トシテ整理スヘシ

第五節　傳送延滯

第六十九條　電報ノ傳送其他必要ノ通信ヲナスニ當リ對手驛ニ於テ連呼二十分以上應答ヲ遲延シタルトキハ五日以內ニ左記事項ヲ所管管理局長又ハ出張所長ニ報告スヘシ

一　對手驛名

二　對手驛當務者氏名

三　發信驛名

四　發信番號

五　應答ヲ遲延シタル月日時間

六　對手驛ノ答辯

對手驛其他ノ驛ニ於テ通信ノ延滯ヲ來スヘキ所爲アリタルトキハ前項ニ準シ左記事項ヲ報告スヘシ

一　延滯ヲ來スヘキ所爲アリタル驛名
二　延滯ヲ來スヘキ所爲アリタルモノノ氏名
三　發信驛名
四　發信番號
五　延滯セシメタル月日時間

第七十條　前條ノ報告書ニハ事故ノ發生シタル同線ニ連接スル適當ノ驛ヲシテ事實ノ證明ヲナサシメ其證明書ヲ添付スヘシ

但事實ノ證明ヲナサシメ難キ場合ハ此限リニアラス

第七十一條　管理局長、出張所長ニ於テ報告書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ所管內驛員ノ所爲ニシテ處分ヲ要スルモノト認ムルトキハ相當手續ヲナスヘシ

對手驛カ所管外ニ屬スルトキハ之ヲ其所管管理局長又ハ出張所長ニ通告スヘシ

第七十二條　管理局長、出張所長ニ於テ前條第二項ノ通告ヲ受ケタルトキハ同第一項ノ手續ヲナスヘシ

第四章　檢　查

第七十三條　送信濟ノ發信又ハ中繼信原書ハ時々之ヲ蒐集シ送信時刻ノ記入及送信當務者ノ記名等ヲ檢查シ其全キモノハ送信時刻ノ傍ニ檢印スヘシ

第七十四條　發信原書ハ番號順ニ中繼信原書ハ受信同線別ニ依リ一日每ニ整理シ驛名年月日及通數ヲ記載シタル表紙ヲ付スヘシ

親展ノ指定アル送信濟電報原書ハ可成速ニ規定ノ手續ヲ了シタル後本文ヲ省略シタル正寫ヲ作リ之ヲ相當ノ處ニ綴込ミ本書ハ封筒ニ入レ主任又ハ主席者ニ於テ封緘捺印保管スヘシ

第七十五條　著信通數ハ適宜ノ方法ヲ以テ正確ニ之ヲ調査シ每日之ヲ日計表ニ記入スヘシ

第五章　配　達

第七十六條　著信ハ總テ受證簿ニ登記ノ上配達スヘシ

第七十七條　親展ノ指定アル著信電報ハ著信驛ニ於テ封緘シタル後其宛名ノ傍ニ普通語ヲ以テ之ヲ轉記シ配達スヘシ

第七十八條　同文連名ノ指定アル電報ハ其宛名每ニ轉寫ノ上配達スヘシ

第七十九條　電報ハ成ルヘク名宛ノ本人ニ配達スヘシ若シ受信者不在ナレハ其代理者ニ配達スヘシ其代理者ナキモノハ保管トナシ電報ヲ以テ其事由ヲ發信驛ニ通知シ發信驛電信掛當務者ハ之ヲ發信者ニ通知スヘシ

第八十條　留置ノ指定アル著信電報ハ便宜ノ方法ニ依リ其受信者ニ交付スヘシ

第八十一條　受信者出發後ニシテ代理者ナキ著信ハ本人ノ所在明瞭ノトキニ限リ其所在驛ニ宛テ追送スヘシ

此場合ニ於テハ電信掛心得ヲ以テ(何々ニ付何驛ナチ)ト附加スヘシ

追尾ノ指定アル著信ヲ受信者ニ配達シ能ハス之ヲ他驛ニ追送スルトキハ電信掛心得ヲ以テ其追送驛名ヲ著信驛ニ通報スヘシ

中繼驛ニ於テ追尾ノ指定アル電報中繼ノ際其電報ノ受信者宛所以外ニ所在明瞭ナルトキニ限リ前項ニ準シ其中繼驛名ヲ附加シ相當驛ニ轉送スヘシ

第八十二條　著信ノ名宛不明ニシテ配達シ難キモノ又ハ受信者ニ於テ電報ノ文意ヲ解セサルモノハ著信驛ヨリ電報ヲ以テ發信驛ニ反覆ヲ請求スヘシ而シテ發信驛ニ於テハ電報ヲ以テ請求ノ部分ヲ返報スヘシ

第六章　特別至急報

第八十三條　特別至急報ヲ發スヘキ事故アルトキハ他驛ニ於テ通信中ナルト否トニ拘ハラス二分間短點ヲ連送スヘシ而シテ此短點連送ハ運轉上事故アルノ警報ナルニ付該同線ニ於テ通信中ノ當務者ハ直ニ通信ヲ中止シ且同線接續ノ各驛當務者ニ在テモ其特別至急報ニ注意シ參考トナルヘキ事項ハ謄寫シテ驛長ニ示スヘシ

第八十四條　鐵道電報規程第二十九條ニ依リ通常電報停止中該同線各驛電信掛當務者ハ斷ヘス自他ノ通信ニ

留意シ他驛ニ通信アルトキハ前條ノ注意ヲ怠ルヘカラス

第八十五條　短點連送ハ前條記載ノ如ク非常ノ場合ナルコトヲ注意スルモノニ付平素決シテ右等ニ類スルノ行爲ヲナスヘカラス

第八十六條　列車運轉其他非常ノ事故ノタメ通常報停止中ハ通信ノ間隙アリト雖通常報ヲ傳送スヘカラス

第七章　附　則

第八十七條　電信掛ニ通信日誌ヲ設備シ日々左記事項ヲ詳記シ驛長ハ翌朝之ヲ查閱檢印スヘシ

一　當直技術者ノ氏名
一　晴雨等天候ノ現象
一　電報ニ關スル事故
一　取扱上ニ關シ後日參考トナルヘキ事項
一　電線試驗ノ結果及障害ノ狀況
一　技術者交代ノ際引繼スヘキ事項

第八十八條　電信ニ關スル書類簿冊ハ特ニ明文アルモノノ外電信掛主席者日々之ヲ調查スヘシ

第八十九條　電信取扱所ニ於テハ遞信省電報取扱規程ヲ遵守スルハ勿論尙左ノ各條ニ依リ誤謬ナキ樣取扱フヘシ

第九十條　電信取扱所ニ於テハ豫シメ電報電送延滯事故調查簿ヲ設備シ電報取扱規程（遞信省）第百八十九條ニ揭クル所ノ事故アルトキハ同規程第百九十條ノ區別ニ依リ其事項ヲ登記シ同第百九十二條ニ依リ管轄ノ等郵便局長ニ報告スルト同時ニ所管管理局長又ハ出張所長ニ報告スヘシ

第九十一條　電信取扱所ノ驛長ハ日々電報傳送延滯事故調查簿ヲ查閱シ之ニ檢印スヘシ

第九十二條　管理局長、出張所長第九十條ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ檢閱シ事實處分ヲ要スルモノト認ムルトキハ左ノ手續ヲナスヘシ

一　報告事項カ所管區域內ノ驛員ノ所爲ナルトキハ詳細其事實ヲ審查シ相當處分ノ手續ヲナスヘシ
二　報告事項カ所管區域外ノ驛員ノ所爲ナルトキハ其所管管理局長又ハ出張所長ヘ其事由ヲ通告スヘシ
三　其通告ヲ受ケタル管理局長、出張所長ハ第一號ノ例ニ依リ處分ノ手續ヲナスヘシ

第九十三條　公衆電報ニ關スル使用濟式紙類ハ成規ノ保存期間其取扱所ニ保管シタル後廢棄ノ手續ヲナスヘシ

第九十四條　電信取扱所ニ於テ公衆電報ヲ配達セシムルニ當リ私設ノ橋梁、渡津等無賃通行ヲ要スルトキハ左ノ雛形ニ準シ木札ヲ以テ印鑑ヲ調製シ配達人ニ携帶セシムヘシ
但裏面ニ所印ヲ押捺スヘシ

（印鑑雛形）

一尺三寸　　二寸五分

表

第　號 何國 何地電信取扱所配達人 何ノ誰

裏

明治　年　月　日 取扱所印

第九十五條　公衆電報原書ハ凡テ規定ノ取扱ヲ了シタル上直ニ保管函ニ入レ置クヘシ

第九十六條　電信取扱所ニ於テハ本則第八十七條ニ依ルモノノ外尙左ノ事項ヲ該日誌ニ記載スヘシ

一　電報取扱規程第百五條ニ依リ通報ヲ受ケタル對手者ノ氏名
一　電報取扱規程第三百三十二條ニ依ル披閱及交付電報ノ發信月日、發信局所名（發信ヲ除ク）、番號（著信ハ著番號ヲ含ム）、受信人名所、發信人名所（發信人名ナキトキハ除ク）、請求者氏名
一　交付電報ノ還付ヲ受ケタルトキ
一　正寫閱覽其他電報ニ關シ料金ノ追徵ヲナシタル事項

第九十七條　電信取扱所ニ於テハ規定ニ依ルモノノ外左ノ簿冊ヲ設備スヘシ

一 發著電報保管簿
一 返信料前納證書發行簿
一 日附印點檢簿

○出張員等ニ宛テタル電報宛所記載方ノ件 明治四十五年五月十四日 公報注意

出張員若ハ居所ノ移動スル職員ニ宛テタル鐵道電報ニシテ宛所ノ選定方不充分ノ爲送達上往々遲延又ハ不達ヲ生シ手數ヲ要スルモノ少カラサルニ付發信ノ際宛所ヲ充分選定スルハ勿論不明ノモノニ對シテハ留置又ハ追尾ノ指定ヲ附シ送達上錯誤ヲ生セシメサル樣注意ヲ要ス

○鐵道電報ノ受信證送出方ノ件 明治四十一年九月五日 公報注意

鐵道電報ノ受信證ハ鐵道電報取扱細則第十八條ニ依リ受信シタル電報ノ番號ヲ送出スヘキモノナルニ近來之カ送出方粗漏ニ流レ單ニ承諾ノ符號ノミヲ送出スルモノアリ其甚タシキニ至ツテハ短點一箇ヲ送リテ受信證ニ替ユル向アリ斯ノ如キハ送信當務者ヲシテ其受信證ナルヤ否疑義ヲ生セシメ徒ニ反問再送ノ手數ヲ要スルノミナラス一般通信方粗漫ニ陷リ電報不達ヲ釀スノ虞アルヲ以テ將來送受上篤ク注意ヲ要ス

○鐵道電報發受者略名 明治四十一年十二月十二日 達第三二號

鐵道電報ノ發受者名ハ左記略名ニ依リ記載スヘシ
(左記省略)

○鐵道電報用略號 明治四十二年一月二十八日 達第五三號

鐵道電報用略號別册ノ通相定メ來ル二月十日ヨリ之ヲ實施ス

電報略號用例

一、電文ハ簡明ヲ旨トスヘキモノナルヲ以テ本書中ニ掲ケサル用語ト雖モ意味ノ通解スル限リ字句ヲ省略スヘシ
一、略號ヲ連記スルタメ他ノ略號ト混同シ若クハ文意ノ通解シ難キ虞アルトキハ括弧又ハ句讀點ヲ以テ適宜區別スヘシ

電文用略號(省略)

○各驛所名電信電話符號設定方ノ件 明治四十年四月六日 達第七號

各驛所名電信電話符號ハ所轄(營業事務所運輸事務所)ニ於テ之ヲ定ムヘシ
(營業事務所運輸事務所)ニ於テ前項符號ヲ設定變更シタル時ハ當該驛所竝同一回線中ニ在ル他ノ各驛所ニ之ヲ通知スヘシ
回線ノ新設又ハ變更ニ依リ接續驛所ニ異動ヲ生シタルトキハ其接續驛所ヲ所轄スル(營業事務所若クハ運輸事務所)ヨリ新ニ關係ヲ生シタル驛所ノ符號ヲ在來驛所ニ在來驛所ノ符號ヲ新ニ關係ヲ生シタル驛所ニ通知スヘシ但シ通知ヲ受クヘキ驛所ニ於テ其符號ヲ已知セル場合ハ此限リニアラス

○鐵道電報略號北海道線ニ限リ特例ノ件 明治四十二年三月三十日 運第一〇六五號指令

(北海道管理局長稟申)三月十八日 北運第二〇九號

鐵道電報ニ用フル各驛各信號所名ハ客年十二月達第一〇〇號鐵道電報取扱細則第七條ニ依リ凡テ普通名稱ヲ以テ記載スヘキ筈ノ處本道線ノ如キハ他管內ト通信線路ノ連絡ナク隨テ驛所名ハ略號ヲ使用スルモ爲ニ錯誤ヲ生スル虞ナク且之ヲ使用スルトキハ通信ノ敏捷ヲ助ケ便益不尠ト被認候ニ付テハ本道線內往復ノ電報ニ限リ特ニ別紙略號ヲ使用致度候條御承認相成度候也(別紙省略)

總裁指令 三月三十日 運第一〇六五號

北運第二〇九號申出管內ニ發著スル電報ニ限リ傳送上驛所名ノ略號使用ノ件特ニ承認ス

○鐵道電報用紙雛形 明治三十九年十月三十一日 鐵運乙第一四七二號

當局鐵道電報用紙左記雛形ノ通リ改正ス
但改正用紙ハ在來貯藏品遣拂ノ上使用スヘシ

鐵道作業局電報用紙

字	報	事	記	線名送信	線名受信
受信 午　時　分 當務者	第　號	受付 月　日 午　時　分			
送信 午　時　分 當務者					

受信者居所氏名	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
指定										
發信者居所氏名										
發信時分ヲ記シ置カントスルモノハ此處ニ記入スヘシ　午　時　分	十	二十	三十	四十	五十	六十	七十	八十	九十	百

○鐵道電報原書整理保管方ノ件 明治四十三年四月十五日 達第三二二號

鐵道電報原書ハ一箇月分毎ニ取纏メ整理ノ上其局所ニ保管シ發信ノ翌月ヨリ起算シ五箇月ヲ經過シタル後適宜之ヲ棄却スヘシ

○鐵道電報原書整理方ノ件 明治四十二年六月八日 鐵運丙第一一八五號運輸部長依命通牒

（北海道鐵道管理局長申出）五月二十七日 北運第四三〇號

鐵道電報原書ハ電報取扱細則第七十四條第一項ニ依リ一日毎ニ整理スヘキ筈ノ處電報ノ取扱數極メテ僅少ナル驛ト雖右ニ依リ扱上ノ不便竝ニ飛散紛失ノ虞等有之ト被認候ニ付同種類ノ原書一日概ネ十通以下ノ驛ニ於テハ一旬分ヲ合綴セシムルコトニ御了承相成度

（運輸部長依命通牒）六月八日 鐵運丙第一一八五號

北運第四三〇號申出鐵道電報原書合綴ノ件承認相成候追テ合綴ノ場合ハ一日分毎ニ其初メニ日付及通數ヲ記載シタル紙ヲ挿入スル等適當ノ方法ヲ以テ取調上利便ナラシメラレ度

○公衆通信取扱事務規程ニ依ル電報原書處理方ノ件 明治三十九年八月十五日 鐵運乙達第一二三三號

公衆通信取扱事務規程第十三條ニ依ル電報原書處理方ニ關シ左記ノ通リ通信局長ヨリ通牒有之候條自今右ニ依リ取扱フヘシ

一　汽車ノ乘客又ハ鐵道郵便係員ニ宛テタルモノノ外停車場構內ニ宛テタルモノハ交付ト看做ス

二　宛所ノ記載方ニ依リ停車場ノ構內外ヲ判別シ難キモノニシテ實際其宛所カ構內ニ非ルモノニ對シテハ特ニ構外ナル旨ノ記載ヲ要ス此記載ナキモノハ構內ト看做ス

三　「各局所」又ハ「各郵便局所」宛等ノ局報ニ對シテハ特ニ其配達先各局所名ノ明記ヲ要ス此記載ナキトキハ直配達ニ關セサルモノト看做ス

四　郵便局ト電信取扱所ト同一名稱ナル爲メ「何局」ト肩書キシタルモノニシテ郵便局ヲ指スカ電信取扱所ヲ誤記セルカ判明シ難キモノアリ此場合ニ於テ實際肩書カ電信取扱所ニ非ルモノニ對シテハ特ニ郵便局ナル旨ノ明記ヲ要ス此記載ナキモノハ交付ト看做ス

五　宛所ノ記載方不完全ナルタメ直配達區域ノ內外ヲ判別シ難キモノニシテ實際直配達ニ附シタルモノハ特ニ直配達區域內ナル旨ノ明記ヲ要ス此記載ナキモノハ郵便配達ト看做ス

六　交換機又ハ轉換機ヲ經由シタルヤ否ヤヲ判別シ難キモノニシテ「交換」ト記載ナキモノハ之ヲ經由セサリシモノト看做ス

（備考）明治三十九年八月十五日 局報注意

通信局長通牒ニ係ル電報原書整理ノ件左記ノ通リ注意ヲ要ス

一　汽車ノ乘客又ハ鐵道郵便係員ニ宛テタル交付トナササル電報ハ列車內ニ送達スヘキモノニ限ル前記ニ該當スル係員宛事務局報ハ事務規程第十三條第二項ニ依リ處理スル事

二　通牒二、三、四各項ニ該當スル直配達事務局報ハ各相當事項ヲ記入スル外尙直配達ト記スル事

三　通牒二、三、四、五各項ハ其記入ノ有無ニヨリ何レモ直接取扱料支給上ニ影響ヲ及ホス義ニ付最モ周到ノ注意ヲ加フヘキハ勿論就中第五項ノ如キ當務者ニ於テハ容易ニ其區域ノ內外ヲ判別シ得ヘシト認ムルモノト雖宛所記載方ノ如何ニ依リ或ハ判別シ難シト認メラルル場合モ可有之ニ付特ニ精査ノ上詳細町、村字名等ノ記入ヲナス事

四　同一ノ受信人ニ宛タル宛所不完全ニシテ記入ヲ要スル多數ノ著信アル場合ハ便宜一旬分ノ原書表紙ニ詳細第五項ニ依ル記入ヲナシ各原書ノ記入ヲ省略セル旨附記シ置クモ妨ナシ

○鐵道電報通信數整理方ノ件 明治四十二年七月二日 公報注意

鐵道電報取扱細則第三十三條各驛宛電報ノ通信數ハ左ノ通整理ノコト

一　發信驛ニ於テハ一送信每ニ發信一通トシテ計算ス

一　中繼驛ニ於テハ自驛著ト爲スカ又ハ二驛以上ニ分送スル場合ニ限リ受信ヲ著信、送信ヲ發信（一送信每ニ一通トシテ計算スルコト前項ノ場合ニ同シ）トシ否ラサルモノハ中繼信トス

○鐵道電報發信番號ニ關スル件 明治四十二年九月二十二日 公報注意

鐵道電報取扱細則第十條ニ依リ便宜受付タル電報ハ著驛ヲ異ニスル每ニ發信番號ヲ更メ（同一回線ニ依リ送信スヘキ謄寫ヲ爲ササルモノヲ含ム）各別ノ取扱ヲ爲スヲ要ス

○公衆電報附帶ノ各局所宛局報處理方ノ件 明治四十一年二月十九日 公報注意

公衆電報附帶ノ各局所宛局報處理方ニ關シ左記各項注意ヲ要ス

一　分送シタル通數及信數ハ自驛發信事務局報ト共ニ當旬分ノ合計ヲ發信件名表ニ記載スヘシ

一　右ノ通數及信數ハ三旬分合計ノ上電報總計表ニ記入スヘシ

一　原書表紙ニハ現ニ差立ツル電報ノ通數ヲ記載シ分送シタル通數ハ記入スヘカラス

○鐵道電報著驛指定方ノ件 明治四十四年二月二十日 公報注意

電信電話ノ設備ナキ營業所荷扱所等ニ宛テタル鐵道電報ノ現行著驛左ノ如シ

宛所名	著信驛名
東京市內營業所（東部、北海道兩管理局管內ヨリ發スルモノハ / 其他ハ）	上野驛 / 新橋驛
橫濱市內營業所	橫濱驛
名古屋市內營業所	名古屋驛
金澤小荷物取扱所	金澤驛
那珂川貨物取扱所	水戸驛
雄物川荷扱所	土崎驛
高坂聯絡所	綴驛

○正午報傳送手續 明治四十二年二月二日 達第六三號　改正 明治四十二年九月 達第八二二號　同四十三年五月 達第四〇七號　同四十五年二月 達第一三三號

第一條　正午報ノ傳送ハ電氣通信回線ニ依リ之レヲ電送スルモノトス

第二條　正午報電送時間ハ正午三分前ニ始マリ正午十二時ヲ以テ了ルモノトス

第三條　第五條ノ規定ニ據リ指定スル回線ノ外尙新橋驛ニ於テハ連接郵便局ヨリノ報時ニ基キ自働報時機ニ據リ一齊ニ左記各回線ニ電送スヘシ

但シ郵便局ヨリノ報時ナキコトヲ豫知シタル場合ニ於テハ自驛備付ノ標準時計ニ據リ電送スヘシ

一　新橋青森線

一　新橋上野四番線
一　新橋長野一番線
一　新橋名古屋二番線
一　新橋兵庫一番線

第四條　左記各驛ニ於テハ前條ニ據リ到達スル報時ニ基キ下記回線ヲ電送スヘシ

名古屋　名古屋兵庫二番線
兵　庫　兵庫米子線
下　關　下關門司線

第五條　各管理局（北海道ヲ除ク）ニ於テハ前二條記載ノ各回線ニ連接スル各驛所ニ到達スヘキ報時ヲ基本トシ其他管内各驛所（西部管理局管内ノ内四國所在ノ各驛所ヲ除ク）ニ傳送ノ順序及方法ヲ制定スヘシ

電氣通信ノ設備ナキ驛所ニ對シテハ適宜ノ方法ヲ定ムヘシ

第六條　北海道、西部（四國所在ノ各驛所ニ對シテノミ）各管理局ニ於テハ前各條ニ準シ適宜之ヲ制定スヘシ

○廳内電信所設置ノ件

明治四十一年四月十五日達第一八九號
改正　明治四十二年三月達第一九一號　同四十三年九月達第七七〇號　同年九月達第八一七號

本月十一日ヨリ本廳内ニ廳内電信所ヲ設置シ左記各項ニヨリ鐵道電報ノ取扱ヲ爲ス

但シ著信ハ本院内ニ宛テタルモノニ限ル

一、取扱時間ハ左ノ通リ

三月一日ヨリ七月十日迄	午前八時ヨリ午後五時迄
七月十一日ヨリ九月十日迄	午前八時ヨリ午後三時迄
九月十一日ヨリ十月三十一日迄	午前八時ヨリ午後五時迄
十一月一日ヨリ翌年二月末日迄	午前九時ヨリ午後五時迄

但シ土曜及休暇日ハ午後二時迄トス

一、受付濟及通信中ノ電報ハ取扱時間外ニ涉ルト雖其送受ヲ完了スヘシ
一、受信シタル電報ハ取扱時間外ニ涉ルト雖其配達ヲ爲スヘシ
一、受證簿ニ登記シテ電報ヲ差出シタルトキハ受付當務者ニ於テ受證印ヲ押捺スヘシ
一、廳内電信所ニ接續セル回線ニ於テ送受シタル電報原書ニハ相當欄内ニ「廳内」ト記入スヘシ

本達ニ定ムルモノノ外ハ總テ一般ノ規程ニ依ルヘシ

○院内電話交換及同電信所管理方ノ件

明治四十三年八月十六日達第七〇二號

院内電話交換及同電信所ハ本院廳舍移轉ノ日ヨリ當分ノ内本院電氣課長ヲシテ之ヲ管理セシム

○鐵道電報繼送規程

明治四十三年四月九日達第二八三號

鐵道電報繼送規程左ノ通定ム

鐵道電報繼送規程

第一條　直通ノ回線ヲ有セサル驛所（以下單ニ驛ト稱ス）相互間ニ發著スル電報ハ本規程ニ依リ之ヲ傳送スヘシ

第二條　前條ノ電報ハ繼送驛若クハ中繼驛ヲ經由スヘシ

第三條　繼送驛ハ其所屬區域内發著ノ電報及所屬區域外直通驛相互ノ間ニ傳送スル電報ヲ中繼ス

繼送驛名及其所屬區域ハ左表第一號ニ據ル

第四條　中繼驛ハ所屬繼送驛ニ直通ノ回線ヲ有セサル驛ニ發著スル電報ヲ中繼ス

所管局所長ハ所屬繼送驛ニ直通ノ回線ヲ有シ且前項ノ取扱ヲ爲サシムルニ適當ナル驛ヲ中繼驛ニ指定シ尚複中繼ヲ必要トスル場所ニハ右中繼驛ニ直通ノ回線ヲ有スル驛ヲ二次中繼驛ニ指定スヘシ以下總テ此例ニ

依ル

第五條 第二條ニ依リ經由スヘキ順路ハ其直通驛中左記各號ノ順位ニ依ル繼送驛若クハ中繼驛トス
但所管局所長ニ於テ特ニ經由驛ヲ指定シタル場合ハ此限ニアラス

一 著驛ノ屬スル中繼驛
但二次以下ノ中繼驛アル場合ハ順位ノ下ナルモノヲ先ニス

二 著驛ノ屬スル繼送驛

三 左表第二號ニ依リ發著繼送驛相互ノ間ヲ中繼スヘキ繼送驛

四 發驛ノ屬スル繼送驛

五 發驛ノ屬スル中繼驛

同一驛相互ノ間ニ往復スル電報ニシテ前項ニ依ル經由驛往路ト復路ト異ル個所ハ所管局所長適宜其一ヲ指定シ支障ナカラシムルコトヲ要ス

第六條 所管局所長ハ第四條ノ外通信ノ速達上必要ナル個所ニ中繼驛ヲ特設シ其直通驛相互ノ間ニ傳送スル電報ヲ中繼セシムルコトヲ得
但二箇所以上連續シテ中繼セシムルコトヲ得ス
前項ノ中繼驛ヲ經由セシムヘキ驛ハ特ニ之ヲ指定スヘシ

第七條 第四條第二項第五條第二項第六條第二項ノ指定及其取消變更ヲ爲スニ當リ鄰接他所管內ノ經由順路ニ影響ヲ及ホス場合ハ豫メ關係局所長ニ合議シ其承諾ヲ經ルヲ要ス

第八條 第四條第二項(其屬スル驛名共)第五條第二項第六條第二項ノ指定及其取消變更ハ適宜ノ方法ニ依リ關係驛ニ周知セシムルト同時ニ之ヲ即報スヘシ
第七條ノ合議ニ應シ承諾ヲ爲シタル場合亦同シ但局報ニ掲載シテ本條ノ告示ヲ爲シタル場合ハ報告ヲ要セス

第九條 鐵道電報取扱細則第三十六條ニ依ル臨時中繼ノ外一時經由順路ノ變更ヲ要スル場合ハ本規程ノ趣旨ニ依リ所管局所長適宜之ヲ處理スヘシ

附 則

第十條 連帶運輸ニ關シ院線以外ノ各驛ニ往復スル電報ハ其連帶運輸ノ聯絡驛(左表第三號ニ依リ特定シタル個所ハ其特定驛)ヲ經由スヘシ

第十一條 本規程ハ明治四十三年五月一日ヨリ施行ス
從來施行ノ鐵道電報中繼順路表其他本規程ニ牴觸シ若クハ重複スル達示ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(左表省略)

○電報繼送規程施行後電報處理方ノ件 明治四十三年四月九日 公報注意

電報繼送規程施行後ノ電報處理方ニ關シ左記ノ通決定セリ

一 電報繼送規程第十條ニ依リ聯絡驛又ハ特定驛ニ於テ中繼シタル電報ハ通數計算上之ヲ其驛ノ發信又ハ著信ト看做シ院線內ニ入リ來リタル電報ハ總テ之ヲ其著信ニ計算シ送信濟原書ハ右ノ區分ニ從ヒ發信ハ發信原書、著信ハ中繼原書ノ末尾ニ編綴スルコト

○電報ノ臨時中繼竝其發出注意方ノ件 明治四十三年九月七日 鐵電第一五三九號電氣課長依命通牒

電報取扱細則第三十六條ニ據リ臨時中繼ノ依托アリタル場合ハ其要求ニ應シ之ヲ繼送スヘキ受托驛當務者當然ノ職務ナルニ拘ハラス手不足其他種々ノ口實ヲ設ケ可成之ヲ免レントシ數回交渉ヲ重ネテ始メテ之ニ應スル等彼是混雜ノ結果一層通信ノ澁滯ヲ來ス場合往々有之哉ノ趣ニ候處之等ニ對シテハ相當御取締相成居義トハ被存候得共過般水害ノ如キ場合ニ在リテハ關係驛員孰レモ繁忙ノ結果或ハ其絕無ヲ期シ難ク萬一非常ノ際斯ル心得違ノモノ有之重要ナル通信ヲ澁滯セシムルカ如キ事有之候テハ甚遺憾ノ次第ニ付平素豫メ當務者ヘ御訓示置相成度尙斯ル通信支障ノ場合ハ勿論平素ニ在リテモ單ニ電話機ノミヲ備フルカ又ハ通信設備ノ薄弱ナル小驛ニ於テ長文ノ電報ヲ發出スルトキハ啻ニ該電報ノ遲延スルノミナラス他ノ緊急通信ノ速達ヲモ阻碍スルノ虞アルヲ以テ電報發信者ニ在リテモ豫メ其邊ニ注意シ長文電報ハ便宜ノ方法ニ依リ可成通信設備ノ完全ナル驛ニ差出ス樣爲致度候條是亦豫メ御部下ニ訓示置度候

○日付印點檢簿ニ關スル件 明治四十三年十二月十二日 公報注意

鐵道電報取扱細則第九十七條ニ規定シアル日付印點檢簿ハ通信日誌ヲ以テ代用差支ナキ旨九州管理局ノ照會ニ對シ回答セリ

○官廳用電信電話規程ニ依ル事務處理方ノ件 明治四十一年十二月二十一日 通規甲第五五六號遞信省通信局長依命通牒

（運輸部長照會）明治四十一年十二月十四日 鐵運戊第一九號

官廳用電信電話規程ニ依リ舊帝國鐵道廳ニ於テ施設セル電信電話及電氣信號線路ノ設廢變更ニ付テハ私設電信規則第二十四條ノ手續ヲ省略シ直接大臣ノ決裁ヲ仰ク事ト相成居候處本院ニ在テモ普ク全國ニ亘レル電線路ニ對シ一々右第二十四條ノ手續ヲ要スル事ト相成候テハ爲ニ要スル時日尠カラスシテ施設ノ時機ヲ失スル場合モ生スヘク又相互手數モ尠カラサル次第ニ付從前ノ慣例ニ依リ關係書類ヲ直接提出致度尤モ所轄一等局ニ要スル書類寫ハ本書ト共ニ差出ス事ニ可致候條特ニ御承認ヲ得度

（通信局長依命通牒）明治四十一年十二月二十一日 通規甲第五五六號

十二月十四日附鐵運戊第一九號申出ノ件承認セラレ候

○官廳用電信電話規程其他ニ基キ申請又ハ屆出ヲ要シ若クハ鐵道電報中繼順路ノ設定開廢公衆電信取扱所ノ開廢等ニ關スル事務處理方ノ件 明治四十二年一月六日 鐵運丙第二號運輸部長依命通牒 改正 明治四十二年七月 鐵運丙第一五三八號

各管理局長
各出張所長 宛

明治三十三年九月遞信省令第五十一號官廳用電信電話規程竝ニ同三十五年十一月同省令第五十五號官廳施設電氣事業取締規程ニ基キ遞信大臣ニ申請又ハ屆出ヲ要スルモノ若クハ鐵道電報中繼順路ノ設定改廢公衆電信取扱所ノ開廢等ニ關スル事項ハ別ニ規定アルモノノ外左記ニ依リ處理相成度

一　電信電話回線ノ新設又ハ變更ニシテ他管區ニ跨ルモノ若クハ他管區ニ跨ラサルモ私設電信規則第四條（但書ヲ除ク「例ヘハ事務所、機關庫、工場等ヲ接續スル回線又ハ同回線ヲ引込ミアル電話交換機ニ關スルモノノ新設」）第六條第八條但書ニ該當スルモノハ同第五條ノ各事項ヲ記シ具申スル事
　但他管區ニ跨ル回線ノ所管外ニ屬スル分ハ其施設又ハ變更セムトスル要點ヲ摘記シ線路經過地名ノ如キハ書載スルヲ要セス

二　豫算定額内ニ於テ前項ニ屬セサル回線ノ新設變更又ハ電信機械ノ變更ヲナサムトスルトキハ適宜專決　行ノ事

三　第一項ニ依リ承認ヲ經タルモノノ中他管區ニ跨ル回線ノ使用開始期日ハ豫メ之ヲ具申シ第二項ニ依リ專決施行シタルモノノ中私設電信規則第四條但書ニ依ルモノハ回線異動報告ノ際回線圖ヲ添付スルコト

四　鐵道電報中繼順路ノ設定變更ニシテ直接他管區ニ關係ヲ及ホササルモノハ適宜專決施行ノ上即報シ其他ノ場合ハ案ヲ添ヘ必要ノ事由及實施豫定期日ヲ記載シ具申ノコト

五　公衆電信取扱所ノ開廢取扱事項ノ設定變更ハ適宜專決處理ノコト

六　官廳施設電氣事業取締規程ニ基キ遞信大臣ニ提出スヘキ申請又ハ屆書ニハ其規定セル事項ヲ具シ總裁へ進達ノ事

各建設事務所長
市街線建築事務所長 宛

明治三十三年九月遞信省令第五十一號官廳用電信電話規程竝ニ同三十五年十一月同省令第五十五號官廳施設電氣事業取締規程ニ基キ遞信大臣ニ申請又ハ屆出ヲ要スルモノハ別ニ規定アルモノノ外左記ニ依リ處理相成度

一　官廳施設電氣事業取締規程ニ基キ遞信大臣ニ提出スヘキ申請又ハ屆書ハ其規定セル事項ヲ具シ總裁へ進達ノ事

二　電信電話回線ノ新設又ハ變更ニシテ私設電信規則第四條（但書ヲ除ク）若クハ同第六條ニ依リ遞信大臣ニ申請ヲ要スルモノハ同第五條ニ規定セル各事項ヲ記シ具申ノ事

○公衆電信取扱所ニ關スル事務處理方ノ件 明治四十一年十二月十二日 鐵運丙第二三號運輸部長通牒

公衆電信取扱所ノ開廢取扱事項ノ設定變更其他諸般ノ事務及定期公衆電報原書類差立ニ關シ別紙寫ノ通リ遞信省部内關係ノ向ヘ通牒相成候條御諒知相成度

（別紙）

總裁通牒（明治四十一年十二月十二日）通信局長宛

公衆電信取扱所ノ取扱ニ係ル電報原書類ハ爾後總テ所轄鐵道管理局又ハ鐵道院出張所ニ於テ取纒メ進達可致候條之ニ屬スル諸般ノ事務ニ付テハ直接同局所ト往復相成候樣致度

總裁通牒（明治四十一年十二月十二日）各一等郵便局長宛

電信取扱所ニ屬スル諸般ノ事務ハ爾後總テ所轄鐵道管理局又ハ鐵道院出張所ニ於テ掌理可致ニ付貴局ヨリ發セラルル通達類ハ總テ同局所ヲ經由セシメ其他取扱所ノ開廢、取扱事項ノ設定變更、事故ノ調査等亦直接同局所ト往復相成候樣致度

○電信線電話線建設條例 明治二十三年八月六日 法律第五八號

第一條　遞信省ニ於テ公衆通信ノ用ニ供スル電信線電話線ヲ建設スル爲民有ノ土地又ハ營造物ノ使用ヲ要スルトキハ所有者及其他ノ權利者之ヲ拒ムコトヲ得ス
官有ノ土地又ハ營造物ハ其所管廳ニ通知シテ之ヲ使用スルコトヲ得

第二條　公衆通信ノ用ニ供スル電信線電話線ノ建設ニ從事スル者其建築修理及線路測量ノ爲必要ナルトキハ他人ノ所有地ニ入ルコトヲ得
其邸宅構內ニ入ルヲ要スルトキハ所有者又ハ其他ノ權利者ニ通知スヘシ
前二項ノ場合ニ於テハ主務者タルノ證票ヲ携帶スヘシ

第三條　遞信省ハ公衆通信ノ用ニ供スル電信線電話線ノ建設又ハ通信ニ障碍アル瓦斯支管水道支管下水支管電燈線電力線及私設電信線電話線ヲ所有者又ハ其他ノ權利者ニ命シテ移轉セシムルコトヲ得
其建設通信ニ障碍アル竹木其他ノ植物ハ已ムヲ得サルモノニ限リ之ヲ伐除シ若クハ所有者又ハ其他ノ權利者ニ命シテ之ヲ伐除又ハ移植セシムルコトヲ得

第四條　遞信省ニ於テ公衆通信ノ用ニ供スル電信線路電話線路ノ測量ヲ爲シタルトキハ電柱ノ建設ヲ要スル場所ニ測標ヲ設置スルコトヲ得

第五條　公衆通信ノ用ニ供スル電信線路電話線路ヲ移轉スル必要アル者ノ請求ニ由リ遞信省ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ其移轉費用ハ請求者之ヲ負擔スルモノトス

第六條　遞信省ニ於テ民有地ニ電信線電話線ノ柱木ヲ建設シタルトキハ一本毎ニ一箇年四錢ノ手當金ヲ給與ス但所有者又ハ其他ノ權利者ニ於テ手當金ヲ望マサルトキハ此限ニアラス

第七條　左ニ揭クルモノハ其要求ニ對シ遞信省之ヲ補償スヘシ
一　建築修理及線路測量ノ爲生シタル損害
二　瓦斯支管水道支管下水支管電燈線電力線及私設電信線電話線ヲ移轉シタル費用
三　伐除シタル竹木其他植物ノ代價又ハ移植ノ費用

第八條　第七條ノ補償金額ハ雙方協議之ヲ定メ若シ其議相協ハサルトキハ市町村長（未タ市制町村制ヲ實施セサル地方ハ區戸長）ヲシテ之ヲ評定セシム
市町村長ノ評定ニ服セサル者ハ其評定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一箇月以內ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

○電氣通信線路施設心得　明治四十四年十一月二日 達第八五七號

電氣通信線路施設心得別冊ノ通定ム
明治三十八年九月達第一六七號電線架設心得ハ之ヲ廢止ス

（別冊）

目次

第一章　總則
第二章　電柱
第三章　腕木腕金
第四章　地線
第五章　碍子
第六章　支線及支柱
第七章　電柱建設
第八章　電線及架線
第九章　地中導體
第十章　屋內引込及機械裝置
第十一章　保守及雜件
附錄
參考

電氣通信線路施設心得

第一章　總則

第一條　本院所屬電氣通信線路ノ施設保守ニ關シテハ此ノ心得ヲ遵守スヘシ

第二條　此ノ心得ニ於テ電線ト稱スルハ電信、電話、信號（反應器電鈴等ヲ含ム）用電氣傳送ニ供スル電氣導體ヲ謂ヒ線路ト稱スルハ屋外ニ施設スル電線及之ヲ支持シ若ハ保藏スル工作物ヲ謂フ

第三條　線路ハ鐵道建築定規ニ牴觸セサル範圍ニ於テ成ルヘク岩石土砂ノ崩壞、雪害其ノ他ノ障碍ヲ受クル虞ナキ場所ヲ院用地內ニ選定シ堅牢ニ之ヲ建設スヘシ

但シ已ムヲ得サル場合ニハ用地外ニ建設スルコトヲ得

第四條　線路ハ成ルヘク急激ナル曲線ヲ避ケ特ニ軌道ニ接近スルトキハ軌道ニ向ヒ百五十度以下ノ曲線トナラサル樣建設スヘシ

第五條　電柱ノ頭部ハ急激ナル高低ナク成ルヘク平準ニスルヲ良トス

第六條　電線ハ已ムヲ得サル場合ノ外軌道上ニ跨ラサル樣架設スヘシ

第七條　線路ハ漫ニ道路ヲ侵シ往來ノ便ヲ妨ケ若ハ溝渠ノ疏通、田畑耕作其ノ他ニ障碍ヲ及ホササル樣建設スヘシ

第八條　軌道ニ沿ヒ新ニ線路ヲ建設セムトスルトキ既ニ軌道ノ一側ニ電燈電力又ハ電氣鐵道用架空電線ノ架設シアル場合若ハ將來架設ノ見込ミアル場合ハ他ノ一側ニ建設スヘシ但シ已ムヲ得サル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　電線ヲ竹木其ノ他造營物ニ接近シテ架設スルトキハ已ムヲ得サル場合ノ外二尺以上隔離スヘシ

第十條　電線ヲ他ニ屬スル電信、電話又ハ電氣信號線ト交叉若ハ接近シテ架設セムトスルトキハ相互通報信號等ニ障碍ヲ起ササル樣隔離シ隔離二尺ニ滿タサルトキハ其ノ電線ノ所有者又ハ管理者ノ承諾ヲ受クヘシ

第十一條　電線ヲ已ムヲ得スシテ電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空電線路ニ添架セムトスルトキハ總裁ノ認可ヲ經ヘシ

第十二條　電線ヲ電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉若ハ接近シテ架設セムトスルトキハ左ノ制限ニ依ルヘシ

一、低壓又ハ高壓電線ト交叉スルトキハ其ノ最低電線ノ下部ニ二尺以上隔離スヘシ但シ工事上已ムヲ得サル場合ニ於テハ其ノ最高電線ノ上部ニ二尺以上隔離シテ架設スルコトヲ得

二、特別高壓電線ト交叉スルトキハ其ノ最低電線ノ下部ニ架設シ其ノ間隔ハ特別高壓電線ノ最大電壓一萬「ヴォルト」以下ノ場合ハ三尺以上、最大電壓一萬「ヴォルト」ヲ超過スル場合ハ一萬「ヴォルト」又ハ其ノ端數ヲ加フル每ニ八寸以上ヲ三尺ニ加ヘタルモノ以上タルヘシ但シ特別高壓電線管理者ノ承諾ヲ得且特別高壓電線ノ保護金屬線ヨリ二尺以上隔離スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

三、低壓又ハ高壓電線ト接近スルトキハ二尺以上隔離スヘク特別高壓電線ト接近スルトキハ其ノ電線トノ水平距離ハ特別高壓電線路ノ電柱地表上ノ高サノ一倍以上タルヘシ但シ特別高壓電線管理者ノ承諾ヲ得テ此ノ距離ヲ十尺マテ短縮スルコトヲ得

第十三條　電信線又ハ電氣信號線ヲ他ニ屬スル電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト竝行シテ架設セムトスルトキ又ハ電話線ヲ他ニ屬スル往復線竝架ノ直流式電燈線ト竝行シテ架設セムトスルトキハ六尺以上又電話線ヲ他ニ屬スル架空ノ電力線、電氣鐵道用電線、交流式電燈線若ハ單線架設ノ直流式電燈線ト竝行シテ架設セムトスルトキハ十二尺以上隔離スヘシ但シ工事上已ムヲ得サル場合ニ限リ此ノ距離ヲ二尺マテ短縮スルコトヲ得

第十四條　電線ヲ他ニ屬スル電線ノ上部ニ於テ交叉シ又ハ六尺以內(他ノ電線カ强電流ナルトキハ八尺以內)ノ距離ニ接近シテ架設セムトスルトキハ工事著手前其ノ電線ノ所有者又ハ管理者ヘ通知スヘシ其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理シ若ハ撤去スルトキ亦同シ

第十五條　線路ヲ道路ニ建設セムトスルトキハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ總裁ノ認可ヲ經テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

一、市街地ニ限リ道路ノ兩側ニ跨ラスシテ其ノ一側ニノミ建設スヘシ

二、道路ノ一側ニ他ニ屬スル電信、電話又ハ電氣信號線ノ架設シアルトキハ其ノ同側ニ建設スヘシ若其ノ一側ニ電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空電線ノ架設シアルトキハ他ノ一側ニ建設スヘシ

第十六條　軌道、大河又ハ他ノ電線ヲ横斷シテ線路ヲ建設セムトスルトキハ成ルヘク之ヲ直角ニ横斷シ其ノ兩側ノ電柱ハ特ニ堅固ニ建設スヘシ

第十七條　電線ノ最低點ノ地表上ニ於ケル高サハ最高溫度ニ於テ十尺以上市街村落ヲ通過スル所ハ十六尺以上道路ヲ横斷スル所ハ二十尺以上タルヘシ

第十八條　線路ハ土地ノ狀況ニ應シ適當ノ材料ヲ使用シ建築定規ニ牴觸セサル範圍ニ於テ鐵橋ノ橋臺、橋脚

若ハ隧道ノ側壁等適宜ノ位置ニ施設スルコトヲ得

第十九條 線路ノ測量ヲ爲ストキハ左ノ書式ニ準シ測量簿ヲ調製シ詳細ニ記入スヘシ

番號	距離 間	距離 尺	本柱 長サ	本柱 敷地	支柱 長サ	支柱 敷地	支線 條數	支線 敷地	碍子 茶臺二重	碍子 アンクル	腕木 二尺	腕木 三尺	腕木 四尺	腕木 六尺	線路	記事 町村名	記事
1	34	5	21尺	用地	18尺	畑			2			1			┤	何々	何々
2	34	5	24	畑	20	用地			2			1			┤	々	
3	34	3	22	用地			5	用地		2		1			く	々	
4	50ノ	0														何隧道	何心入鉛被何々 ケーブルヲ用ウ

第二章 電柱

第二十條 電柱ハ成ルヘク眞直ニシテ巨節、死節、風折、裂目其ノ他ノ缺點ナク且根本ノ大ナル杉材ヲ用ウヘシ但シ場合ニ依リ檜、唐松、椹、翌檜、椵松、蝦夷松ヲ用ウルコトヲ得

第二十一條 電柱ニハ「クレヲソート」又ハ丹礬ヲ注入スルカ若ハ根焼ヲ爲シ又ハ適當ノ防腐劑ヲ塗ルヘシ但シ生木ハ決シテ根焼スヘカラス

前項ニ依リ丹礬ヲ注入シタル電柱ニ接觸スル鐵物ニハ必ス混合「タール」ヲ塗ルヘシ

第二十二條 防腐劑ヲ注入セサル柱材ハ成ルヘク九月ヨリ翌年四月ニ至ル間ニ於テ伐採セシモノニシテ充分ニ乾燥セルモノヲ選ヒ工事上至急ヲ要スル場合ノ外ハ生木ヲ用ウヘカラス

第二十三條 電柱ハ單柱ヲ用ウヘシ但シ架線數多キ場所其ノ他必要ノ場所ニ限リH字柱ヲ使用スルコトヲ得

第二十四條 架線數少クシテ障碍ノ虞ナシト認ムル場所ニ限リ本柱トシテ繼合柱ヲ用ウルコトヲ得

第二十五條 電柱ノ末口ニハ混合「タール」ヲ塗リ笠木若ハ笠金ヲ以テ覆ヒ堅固ニ之ヲ釘著スヘシ但シ場合ニ依リ便宜頭部ヲ楔形若ハ圓錐形ニ削リ混合「タール」又ハ適當ノ防腐劑ヲ塗ルコトヲ得

第二十六條 電柱ノ太サ距離竝根入レノ深サハ左表ニ依ルヘシ但シ線路竝土地ノ狀況等ニ因リ相當之ヲ加減スルコトヲ得

架渉ノ線數	本柱 長(尺)	末口(寸)	本口ヨリ六尺ノ點ノ太サ(寸)	柱間距離(間)	根入(尺)
二線マデ	二〇	五、〇	六、五	三五	四、〇
四線マデ	二二	五、〇	六、五	三五	四、五
十六線マデ	二四	五、〇	七、〇	三〇	四、五
三十線マデ	二六	五、五	七、五	二五	五、〇
三十六線マデ	二八	六、〇	八、五	二〇	五、五
四十二線マデ	三〇	六、五	九、〇	二〇	五、五
五十四線マデ	三二	七、〇	一〇、〇	二〇	六、〇
六十線マデ	三四	七、〇	一〇、〇	二〇	六、五
六十六線マデ	三六	七、五	一〇、五	二〇	七、〇

第二十七條 電柱ニハ左記各號ニ依リ毎柱見易キ場所ニ幅約二寸五分長サ約七寸五分全部白色「ペイント」塗ノ番號札ヲ釘著スヘシ

一、各驛ニ連亘セル幹線路ハ各所管毎ニ之ヲ國有鐵道線路名稱ノ區間線名ニ區別シ各其ノ最本院ニ近キ電柱(同一區間線名ニ屬スル鐵道線路分岐シ電線路亦從テ分岐セル場所ニ在リテハ孰レカ其ノ一方ハ分岐柱ノ次ノ電柱)ヲ第一號ト爲シ以下順次番號ヲ追ヒ驛本屋ノ引込柱(引込線路アル場所ハ引込分岐柱、分岐セスシテ引込メル場所ハ其ノ極柱)ニ達スル毎ニ次ノ電柱ヨリ新ニ番號ヲ起スヘシ

二、前號ノ幹線路ヨリ分岐シタル枝線路ハ「何々枝線」ナル冠字ヲ附シ其ノ分岐柱ノ次ノ電柱ヲ第一號ト爲シ以下順次番號ヲ追フヘシ幹枝線路ヨリ分岐シタル引込線路亦之ニ準ス

三、一驛構内若ハ其ノ附近ニ於テ前二號ニ關係ナク特別ニ建設シタル線路ハ之ヲ識別シ易キ樣適當ノ文字

ヲ冠シ適宜番號ヲ附スヘシ

前項ノ電柱番號ハH字柱若ハ「ケーブルヘッド」等ヲ取附ケタル組合セ柱ノ類及電柱ノ代用トシテ橋脚、隧道、家屋等ニ取附ケタル各架空電線支持物(引込線ヲ支持スル「ブラッケット」ノ類ハ除ク)亦一本ノ電柱ト看做シテ之ヲ整理スヘシ

第二十八條　本柱ニハ番號札ノ下ニ支柱ニハ其ノ背面適宜ノ箇所ニ新設年月ヲ明記シ再用柱ニハ新設年月ノ左側ニ再用年月ヲ竝記スヘシ若新設年月不明ノ場合ハ再用年月ノ上ニ再ノ字ヲ冠スヘシ

第三章　腕木腕金

第二十九條　腕木ハ充分ニ乾燥シタル欅、石楢等ノ心材ヲ用キ腕金ハ鍛鐵ヲ以テ製シ其ノ寸法ハ左表ニ據ルヘシ

名稱	長	幅	厚	角鐵ノ厚
二線用腕木	二尺	二寸	二寸	
四線用腕木	四尺	二寸	二寸	
六線用腕木	六尺	二寸五分	二寸五分	
八線用腕木	八尺四寸	二寸五分	二寸五分	
八線用腕金	八尺五寸	二寸一分	二寸一分	二分五厘
十二線用腕木	十尺六寸	二寸二分	二寸二分	
十二線用腕金	十尺六寸	一寸七分	一寸七分	二分

第三十條　二線ヨリ六線迄ヲ架スル線路ニハ二線用腕木、七線ヨリ十六線迄ヲ架スル線路ニハ四線用腕木、十七線以上ヲ架スル線路ニハ六線用腕木ヲ用キ土地ノ狀況其ノ他必要ニ應シH字柱ヲ用キテ八線用腕木若ハ腕金ヲ用ウルコトヲ得但シ十二線以下ヲ架スル本柱ニハ便宜二線用ト四線用トノ腕木ヲ、二十線以下ヲ架スル本柱ニハ四線用ト六線用トノ腕木ヲ混用シ又二線以上ヲ架スル見込ナキ線路ニハ「ブラッケット」ヲ使用スルコトヲ得

直徑小ナル線條ヲ多數ニ架スル線路ハ前項ニ拘ラス便宜十二線用腕木若ハ腕金ヲ用ウルコトヲ得

第三十一條　本柱ノ頭部ト第一腕木若ハ腕金ノ中心間距離ハ約七寸トシ各腕木ノ中心間ノ距離ハ一尺二寸トスヘシ但シ柱間距離長遠ナル谷越、河越ノ場所若ハ風雪甚大ノ地方其ノ他特ニ强キ張力ヲ受クル場所等ニ建設スル本柱ニハ必要ニ應シ特殊ノ腕木ヲ用キ其ノ間隔亦適宜增加スヘシ

第三十二條　長短ノ腕木ヲ混用スルトキハ上部ニ短キモノヲ次ニ長キモノヲ順次交番ニ取附クヘシ

第三十三條　腕木若ハ腕金ハ電柱番號順序ノ上位ニ當ル側ニ取附クヘシ但シ極柱、角ド柱ニ在リテハ其ノ張力ニ反シタル側ニ、柱間距離長遠ナル谷越、河越等ノ場所ニ在リテハ其ノ谷河等ニ面セサル側ニ、又軌道横斷ノ場所ニ在リテハ其ノ軌道ニ面セサル側ニ取附クヘシ

第三十四條　腕木ヲ取附クヘキ本柱切缺ノ深サハ腕木ノ厚サ約二分ノ一トシ切缺ニハ混合「タール」若ハ適當ノ防腐劑ヲ塗リ間隙ヲ生セサル樣腕木ヲ敲殺シタル後堅固ニ取附クヘシ

第三十五條　六線用以上ノ腕木若ハ腕金ニハ必ス「アームタイ」ヲ取附クヘシ

第四章　地　線

第三十六條　本柱ニハ毎柱必ス地線ヲ附シH字柱ニハ兩柱共ニ之ヲ取附クヘシ

岩石砂礫等ニテ地氣不完全ナル場所ニ建設スル本柱ノ地線ハ水氣アル場所マテ之ヲ導クヘシ但シ場合ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

支線ニシテ完全ナル地氣ヲ得ラルルトキハ其ノ捲終ヨリ一線ヲ延ハシ地線ニ代用スルコトヲ得

第三十七條　地線ハ四百磅鐵線ヲ用キ腕木眞棒ト座鐵トノ間ニ挾ミ本柱ノ根本ニハ約一尺ヲ餘シテ頂上ニ至リ約三寸突出セシメ地表上七尺ニ至ル迄ハ約一尺毎ニ其ノ他ハ約二尺毎ニ鉤釘ヲ以テ之ヲ止ムヘシ

第三十八條　丹礬注入柱ニハ混合「タール」ヲ塗リタル四百磅鐵線ヲ用キ前條ニ準シ地線ヲ取附ケ根本ニ餘シタル一尺ハ本柱ニ觸レサル樣外ノ方ニ曲ケ其ノ一尺ト頂上ノ二寸竝腕木眞棒及座鐵ト接觸スル所ノ地線及座鐵ノ混合「タール」ハ之ヲ削リ去ルヘシ

第五章　碍子

第三十九條　碍子ハ第四十條第四十一條ノ場合ノ外ハ二重碍子ヲ使用スヘシ但シ場合ニ因リ單碍子ヲ使用スルコトヲ得

第四十條　線條カ相互ニ爲ス角度百三十六度以上百六十四度以下ノ場合ニハ二重「アングル」碍子ヲ用ヰ百三十五度以下ノ場合ニハ茶臺碍子ヲ用ウルカ若ハ抱合腕木ヲ取附ケ二重「アングル」碍子ヲ用ウヘシ

第四十一條　柱間距離長遠ナル本柱、軌道ヲ横斷スル本柱又ハ極柱ニハ茶臺碍子ヲ使用シ電話線ノ交叉スル本柱ニハ交叉用鐵物ヲ以テ二重「アングル」碍子ヲ取附クヘシ（第壹圖第貳圖參照）

第六章　支線及支柱

第四十二條　電線ノ合成張力强キ場所ニ建設スル本柱ニハ支線ヲ取附ケ支線ヲ取附クル餘地ナキトキハ支柱ヲ取附クヘシ支線ニ在リテハ合成張力ノ方向ニ反シタル側ニ支柱ニ在リテハ同方向ニ取附クヘシ（第參圖及第拾圖參照）

第四十三條　腕木七本以上ヲ有スル本柱ニ取附クル支線ハ叉形支線タルヘシ腕木六本以下ト雖特ニ張力强キ場合亦同シ（第四圖參照）

第四十四條　支線ノ電線ニ接近スル部分ハ竹若ハ相當ノ絶縁物ヲ以テ覆フヘシ

第四十五條　直線ノ場所ニ在リテハ左表ニ據リ本柱ニ兩側支線若ハ引留支柱及三方若ハ四方支線ヲ取附クヘシ但シ八線以下ヲ架シ障碍ノ虞ナキ場所ニ在リテハ其ノ取附箇所ヲ減少シ若ハ之ヲ省略スルコトヲ得（第五圖第六圖第拾壹圖參照）

架渉線數	兩側支線若ハ引留支柱 取附箇所	兩側支線若ハ引留支柱 支線束合數	三方支線若ハ四方支線 取附箇所	三方支線若ハ四方支線 支線束合數
四線マデ	三本隔	三	十一本隔	三
六線マデ	一本隔	三	同	三
十線マデ	一本隔	三	同	五
十六線マデ	毎柱	五	同	五
二十四線マデ	同	五	同	七
三十六線マデ	同	七	同	七
四十二線マデ	同	七	同	九
五十四線マデ	同	九	同	九
六十線マデ	同	九	同	一一
六十六線マデ	同	二	同	一一

第四十六條　緩ナル曲線ノ場所ニ建設スル本柱ニハ成ルヘク各柱ニ兩側支線若ハ引留支柱ヲ取附ケ尙前條ニ據リ三方若ハ四方支線ヲ取付クヘシ但シ八線以下ヲ架シ障碍ノ虞ナキ場所ニ在リテハ其ノ取附箇所ヲ減少シ若ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四十七條　柱間距離長遠ナル本柱若ハ直線ニシテ軌道ヲ横斷セル本柱ニハ前二條ニ拘ラス三方支線又ハ四方支線ヲ取附クヘシ但シ必要ナシト認メタル場合ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四十八條　三方支線ニ在リテハ其ノ内一本、四方支線ニ在リテハ其ノ内二本ハ必ス電線ト同一方向ニ取附クヘシ

第四十九條　線條相互ノ爲ス角度百二十度以下ノ本柱ニハ成ルヘク電線ト同方向ニ支線若ハ支柱ヲ取附クヘシ但シ百二十度以上ノ場合ト雖必要ナルトキ亦同シ

第五十條　本柱ノ頭部ニ高低アル場合ニシテ支線若ハ支柱ヲ要スルトキ線ト線トノ爲ス角度カ仰角ナルトキハ支線ヲ用キ俯角ナルトキハ支柱ヲ用ウルヲ良トス（第七圖參照）

第五十一條　支線ノ束合數ハ第四十五條ニ揭クルモノノ外ハ左表ニ準據シ支線ノ角度若ハ架線ノ種類土地ノ狀況等ヲ參酌シ適宜其ノ束合數ヲ定ムヘシ

架涉線數＼曲線角度	九十度 二方ノ場合	九十度 一方ノ場合	百二十度又ハ引留	百三十五度	百五十度	百六十度
二線マテ	三	三	三	三	三	三
四線マテ	三	五	三	三	三	三
八線マテ	七	一〇	七	六	五	四
十六線マテ	一七	二六	一七	一一	七	五
二十四線マテ	二七	四二	二七	一八	一〇	七
三十線マテ	三六	五四	三六	二五	一四	八
三十六線マテ	四三	六五	四三	三〇	一七	九
四十二線マテ	四九	七六	四九	三五	一九	一一
四十八線マテ	五六	八六	五六	三九	二一	一二
五十四線マテ	六四	九八	六四	四六	二六	一三
六十線マテ	七四	一一一	七四	五二	三〇	一五
六十六線マテ	八〇	一二一	八〇	五七	三三	一五

備考、本表ハ支線ト本柱トノ爲ス角度三十度ニシテ四百磅鐵線ヲ架涉セル場合ニ於ケル支線ノ安全率ヲ三トシ電柱ノ抵抗力ヲ酌量シテ計算シタルモノナリ

第五十二條　支線ハ四百磅鐵線ヲ用ヰ充分引伸ハシ弛張重合ナク各線平等ニ張力ヲ受クル樣取附ケ地表上約四尺每ニ六十磅鐵線ヲ以テ約五回纒捲シ其ノ兩端ヲ堅ク捻結スヘシ

第五十三條　支線ハ腕木ヲ避ケ成ルヘク之ヲ本柱ノ張力合成點ニ取附ケ下端ニハ土地ノ硬軟、張力ノ强弱若ハ本柱ノ長短ニ應シ末口五寸以上長サ三尺五寸以上ノ丸太一本又ハ數本ヲ緊縛シテ之ヲ四尺五寸以上ノ深サニ埋ムヘシ但シ場合ニ依リ石材ヲ丸太ニ代用シ若ハ堅牢ニ打込ミタル杭ニ支線ノ下端ヲ緊縛スル等適當ノ方法ニ據ルコトヲ得

前項ノ取附ケヲ爲スニハ支線ノ柱身ニ纒捲セル部分ヲ鉤釘ニテ止メ且其ノ捲尾ヲ支線ニ密接纒捲スルコト六寸以上タラシムヘシ

第五十四條　支線ハ道路又ハ軌道ヲ橫斷シテ取附クヘカラス適當ノ餘地ナクシテ已ムヲ得ス橫斷シテ取附クル必要アルトキハ道路又ハ軌道ヲ挾ミ適當ナル支線柱ヲ張力ノ反對ノ方ニ少シク傾斜シテ堅固ニ建設シ之ニ追支線ヲ附シ本支線ハ之ヲ其ノ直下ニ取附ケ道路又ハ軌道ヲ毫モ支障スヘカラス（第八圖參照）

第五十五條　兩側支線、三方支線及四方支線ニハ其ノ張力ヲ調整スル爲必要ニ應シ締金物若ハ環繫ヲ取附クルカ又ハ相當ノ裝置ヲ爲スヘシ

第五十六條　支線ヲ路傍又ハ毀損ヲ受クル虞アル場所ニ設クルトキハ地表上約五尺ノ所迄支線ニ沿フテ適當ノ木材ヲ建設シ其ノ保護ヲ爲スヘシ（第九圖參照）

第五十七條　軌道ニ接近シテ建設スル本柱ニ引留支柱ヲ取附クルニハ成ルヘク本柱ノ軌道ニ面セサル方ニ於テスヘシ

第五十八條　支柱ハ成ルヘク張力ノ合成點ニ近ク取附クヘシ

第五十九條　支柱ヲ本柱ニ吻合セシムル爲削リタル部分及本柱ノ切込ニハ混合「タール」若ハ適當ノ防腐劑ヲ塗リ頂上ヨリ約四寸ノ所ニ眞棒ヲ以テ固定シ尙其ノ下ニ四百磅鐵線ヲ以テ本支兩柱ヲ堅固ニ綁縛スヘシ

第六十條　尋常支柱ハ土地ノ硬軟張力ノ强弱ニ依リ根本ニ末口五寸以上長サ三尺五寸以上ノ丸太ヲ四百磅鐵線ヲ以テ堅固ニ綁縛シ三尺五寸以上ノ深サニ埋メ根固メヲ爲スヘシ（第拾圖參照）

第六十一條　引留支柱ハ土地ノ硬軟張力ノ强弱ニ依リ根本ニ末口五寸以上長サ四尺以上ノ丸太ヲ四百磅鐵線ヲ以テ堅固ニ綁縛シ四尺以上ノ深サニ埋メ根固メヲ爲スヘシ（第拾壹圖參照）

第六十二條　强キ張力ヲ受クル支柱又ハ土地柔軟ナル所ノ本柱ニ附シタル支柱ハ適宜四百磅鐵線若ハ適當ノ材料ヲ以テ地表面下約一尺ノ所ニ於テ本柱ト支柱トヲ堅固ニ結合スヘシ（第拾圖第拾壹圖參照）但シ場合ニ依リ支柱取附點ト地表面トノ中間ヲ適當ノ材料ニテ締結スルコトヲ得

第七章　電柱建設

第六十三條　建柱ノ際腕木ノ方向ヲ定ムルニハ曲線ノ場合ハ其ノ角度ヲ等分ナラシメ直線ノ場合ハ線條ト直角ナラシムヘシ

第六十四條　電柱ヲ建設スル穴ハ狹少ニ掘リ亂鑿スヘカラス

第六十五條　直線又ハ緩ナル曲線ノ場合ニシテ普通ノ土地ニ建設スル本柱ニハ地表面下約一尺五寸ノ所ニ成ルヘク腕木ト直角ニ末口五寸以上長サ三尺以上ノ丸太一本ヲ四百磅鐵線ヲ以テ堅固ニ綁縛スヘシ

第六十六條　架線數多キ本柱又ハ張力强キ場所若ハ柔軟ノ土地ニ建設スル本柱ニハ其ノ線數張力ノ强弱土地柔軟ノ度ニ應シテ地表面下約一尺五寸ノ所ニハ腕木ト直角ニ、本口ヲ距ル約一尺五寸ノ所ニハ同方向ニ末口五寸以上長サ三尺五寸以上ノ丸太各一本ヲ四百磅鐵線ヲ以テ堅固ニ緥縛スヘシ但シ必要ト認ムル場合ハ丸太三本以上ヲ用ウルコトヲ得

第六十七條　H字柱ニ在リテハ地表面下約一尺五寸及本口ヲ距ル約一尺五寸ノ所ニ相當ノ丸太各一本ヲ取附ケ上部ノ丸太ハ幾分カ地平線ニ傾斜セシメ尙地表面下ニ於テ各柱ニ丸太一本ヲ腕木ト直角ニ緥縛スヘシ但シ場合ニ依リ特別ノ設備ヲ爲スコトヲ得（第拾貳圖參照）

第六十八條　支線若ハ支柱ヲ取附クル本柱ニ第六十六條ニ據リ丸太二本ヲ取附クルトキハ上部ノ一本ハ支線ノ場合ニハ其ノ反對ノ側ニ、支柱ノ場合ニハ其ノ同側ニ取附クヘシ（第四圖參照）

第六十九條　柱間距離長遠ナル谷越、河越等ノ場所ニ建設スル本柱ニハ第六十五條ニ依リ取附ケタル丸太ノ外ニ更ニ地表面下約一尺ノ所ニ末口五寸以上長サ三尺五寸以上ノ丸太一本ヲ本柱ノ谷若ハ河等ニ面スル側ニ取附クヘシ

第七十條　根枷用丸太ハ松材又ハ杉材ヲ用キ松材ハ濕氣アル土地ノ外用ウヘカラス但シ場合ニ依リ松杉以外ノ材料ヲ用ウルコトヲ得

第七十一條　地盤崩壞ノ虞アル場所又ハ水田、沼池等ニ建設スル本柱、支柱及支線ノ地際ニハ必要ニ應シ柵ヲ設ケ土留ヲ爲スヘシ

第七十二條　已ムヲ得ス河中若クハ波浪襲來ノ虞アル海岸等ニ建設スル本柱、支柱及支線ハ特ニ根固メヲ堅牢ニシ必要ニ應シ流木除ヲ設クヘシ

第七十三條　本柱、支柱及支線ノ根固メヲ爲スニハ徐々ニ土塊ヲ投入シテ間斷ナク之ヲ搗キ固メ雜草塵埃等ヲ混入セシムヘカラス

第七十四條　車ノ爲毀損セラルル虞アル本支柱ニハ石若ハ木材ノ車除ヲ設クルカ又ハ毀損ノ虞アル部分ニ四百磅鐵線ヲ纒捲スル等相當ノ保護ヲ爲スヘシ

第七十五條　屈曲又ハ曲線ノ場所ニ建設スル本柱ハ合成張力ノ反對ノ方向ニ少シク傾斜セシムヘシ其ノ傾斜ノ度ハ張力ニ應シテ之ヲ增減スヘシ

第八章　電線及架線

第七十六條　架空電線ハ四百磅鐵線ヲ使用スヘシ但シ土地又ハ線路ノ狀況等ニ依リ之ニ據リ難キ場合ハ百磅以上四百磅以下ノ鐵線、鋼線、銅覆鋼線又ハ五十磅以上四百磅以下ノ硬銅線、硅銅線中必要ニ應シ適宜ノ電線ヲ使用スルコトヲ得又特別ノ事由アルトキハ相當ノ導電力絕緣力ヲ有スル被覆線若ハ電纜ヲ使用スルコトヲ得

第七十七條　引込環線若ハ其ノ他ノ場合ニ於テ特ニ多數ノ架設ヲ要スル場所ハ本線ニ比シ直徑小ナル電線ヲ使用スルコトヲ得

第七十八條　柱間ノ距離五十間以上ナルトキハ已ムヲ得サル場合ノ外同一樣ノ線條ヲ使用スヘシ

第七十九條　柱間距離八十間以上ノ場所ニハ百七十磅鋼線若ハ百七十磅銅覆鋼線ヲ使用シ四百磅鐵線若ハ四百磅硬銅線ヲ茶臺碍子ニ取附ケ腕木ヲ距ルコト約六尺ノ所ニ於テ接續スヘシ

第八十條　電話回線等ニシテ誘導作用ノ妨害ヲ受クル虞アルモノハ往復線ト爲シ交叉ヲ施スコトヲ得

第八十一條　電信、電話及信號線等ヲ併架スル場合ハ電信線電話線ヲ上部ニ、信號線ヲ下部ニ架スヘシ但シ工事上已ムヲ得サル場合ハ此限ニ在ラス

第八十二條　列車ヨリノ通信ニ用ウル電線ハ最下腕木ノ軌道側ニ於ケル最電柱ニ近キ位置ニ架設スヘシ

第八十三條　線條ヲ繰出スニハ成ルヘク繰線臺ノ類ヲ使用シ線條ニ「キンク」疵等ノ生セサル樣特ニ注意スヘシ

第八十四條　百七十磅以上ノ鐵線又ハ鋼線ヲ接續スルニハ六十磅鐵線ヲ以テシ接續ノ長サヲ約二寸二分トシ完全ニ鑞附ヲ施シ自然ニ冷却セシメ鑞附ノ際鹽化亞鉛液ヲ使用シタルトキハ冷却後淸水ニテ洗滌スヘシ（第拾參圖參照）

第八十五條　百五十磅以上ノ硬銅線又ハ銅覆鋼線ヲ接續スルニハ五十磅軟銅線ヲ以テシ接續ノ長サヲ約二寸

二分トシ其ノ中間約一寸ノ間完全ニ鑞附ヲ施シ自然ニ冷却セシムヘシ但シ硬銅線ニハ便宜「マッキンタイヤー、スリーブ」ヲ使用スルコトヲ得

第八十六條 百磅以下ノ電線ヲ接續スルニハ銅線ノ場合ハ「マッキンタイヤー、スリーブ」ヲ用ウルカ又ハ「ツウイスト、ジョイント」ト爲シ鐵線ノ場合ハ「ツウイスト、ジョイント」ト爲スヘシ

第八十七條 前條「マッキンタイヤー、スリーブ」ノ長サハ約二寸五分トシ二回乃至三回捻回シテ接續シ「ツウイスト、ジョイント」ノ長サハ約二寸トシ其ノ中間約一寸ノ間完全ニ鑞附ヲ施シ自然ニ冷却セシメ鑞附ノ際鹽化亞鉛液ヲ使用シタルトキハ冷却後清水ニテ洗滌スヘシ（第拾四圖參照）

第八十八條 電線ノ接續點ハ成ルヘク本柱ニ接近スル樣架設スヘシ

第八十九條 腕木ニ電線ヲ架スルニハ電柱番號順序ノ上位ノ方向ニ面シ二線用腕木ニ在リテハ其ノ右側ヲ先ニシ左側ヲ後ニシ四線用腕木ニ在リテハ右方ノ内側ヨリ始メ次ニ左方ノ内側次ニ右方ノ外側次ニ左方ノ外側ニ架シ線數増加スルトキモ同樣ノ順序ニ據リ左右交番ニ架スヘシ六線用其ノ他ノ腕木腕金ニ在リテモ之ニ準ス

第九十條 電線ノ弛度ハ左表ニ準據シ溫度柱間距離ヲ參酌シ之ヲ調整スヘシ

鐵線ノ弛度（尺） 安全率華氏二十二度ニ於テ四、

華氏 ＼ 距離（間）	二〇	二五	三〇	三五	四〇	四五	五〇	五五
二二度	〇・四四	〇・六八	〇・九九	一・三四	一・七六	二・二三	二・七五	三・三三
三二度	〇・四九	〇・七六	一・〇九	一・四七	一・九一	二・四〇	二・九四	三・五四
四二度	〇・五六	〇・八六	一・二一	一・六一	二・〇七	二・五九	三・一五	三・七六
五二度	〇・六四	〇・九七	一・三四	一・七七	二・二五	二・七八	三・三六	三・九九
六二度	〇・七三	一・〇八	一・四八	一・九二	二・四三	二・九七	三・五七	四・二一
七二度	〇・八四	一・二一	一・六三	二・〇八	二・六一	三・一七	三・七七	四・四三
八二度	〇・九五	一・三四	一・七八	二・二六	二・七九	三・三七	三・九九	四・六六
九二度	一・〇六	一・四八	一・九三	二・四二	二・九八	三・五七	四・二〇	四・八八
一〇二度	一・一八	一・六一	二・〇八	二・五九	三・一六	三・七六	四・四一	五・一〇
一一二度	一・二九	一・七四	二・二三	二・七五	三・三三	三・九五	四・六一	五・三二
一二二度	一・四〇	一・八七	二・三七	二・九一	三・五一	四・一四	四・八一	五・五三
一三二度	一・五一	二・〇〇	二・五一	三・〇七	三・六八	四・三二	五・〇一	五・七四

鋼線ノ弛度（尺）安全率華氏二十二度ニ於テ四、

距離（間）＼華氏	二二度	三二度	四二度	五二度	六二度	七二度	八二度	九二度	一〇二度	一一二度	一二二度	一三二度
五〇	一・四五	一・五四	一・六五	一・七七	一・九一	二・〇五	二・二一	二・三八	二・五六	二・七四	二・九四	三・一三
七五	三・二六	三・四五	三・六五	三・八六	四・〇八	四・三一	四・五六	四・八〇	五・〇六	五・三二	五・五八	五・八四
一〇〇	五・八〇	六・〇七	六・三六	六・六五	六・九五	七・二六	七・五七	七・八九	八・二〇	八・五二	八・八四	九・一六
一二五	九・〇七	九・四二	九・七七	一〇・一三	一〇・五〇	一〇・八七	一一・二四	一一・六一	一一・九八	一二・三五	一二・七二	一三・〇九
一五〇	一三・〇六	一三・四七	一三・八九	一四・三〇	一四・七二	一五・一四	一五・五六	一五・九八	一六・四〇	一六・八一	一七・二二	一七・六三
一七五	一七・七七	一八・二四	一八・七〇	一九・一七	一九・六三	二〇・〇九	二〇・五五	二一・〇一	二一・四六	二一・九一	二二・三六	二二・八一
二〇〇	二三・二二	二三・七二	二四・二二	二四・七三	二五・二三	二五・七二	二六・二二	二六・七一	二七・二〇	二七・六八	二八・一六	二八・六四
二二五	二九・三八	二九・九二	三〇・四六	三〇・九九	三一・五二	三二・〇四	三二・五七	三三・〇九	三三・六〇	三四・一一	三四・六二	三五・一三
二五〇	三六・二八	三六・八四	三七・四〇	三七・九六	三八・五一	三九・〇六	三九・六一	四〇・一五	四〇・六九	四一・二三	四一・七六	四二・二九
二七五	四三・九〇	四四・四八	四五・〇六	四五・六四	四六・二二	四六・七九	四七・三六	四七・九二	四八・四八	四九・〇三	四九・五九	五〇・一五
三〇〇	五二・二四	五二・八四	五三・四四	五四・〇四	五四・六三	五五・二二	五五・八〇	五六・三九	五六・九六	五七・五四	五八・一一	五八・六八

四百磅硬銅線ノ弛度（尺）安全率華氏二十二度ニ於テ四、

距離（間）＼華氏	二二度	三二度	四二度	五二度	六二度	七二度	八二度	九二度	一〇二度	一一二度	一二二度	一三二度
二〇〇	〇・四七	〇・五三	〇・六〇	〇・六八	〇・七七	〇・八九	一・〇七	一・一四	一・二八	一・四一	一・五四	一・六六
二五〇	〇・七四	〇・八二	〇・九二	一・〇四	一・一六	一・三〇	一・四四	一・六〇	一・七六	一・九一	二・〇七	二・二一
三〇〇	一・〇六	一・一八	一・三〇	一・四四	一・六〇	一・七六	一・九三	二・一一	二・二九	二・四六	二・六四	二・七九
三五〇	一・四五	一・五九	一・七五	一・九一	二・一〇	二・二九	二・四八	二・六八	二・八七	三・〇六	三・二五	三・四四
四〇〇	一・九〇	二・〇六	二・二五	二・四四	二・六四	二・八五	三・〇五	三・二七	三・五〇	三・七二	三・九一	四・一二
四五〇	二・四〇	二・五九	二・八〇	三・〇二	三・二五	三・四八	三・七一	三・九四	四・一七	四・四〇	四・六三	四・八五
五〇〇	二・九七	三・一九	三・四三	三・六九	三・九三	四・一八	四・四四	四・七〇	四・九五	五・二〇	五・四四	五・六二
五五〇	三・五九	三・八三	四・〇八	四・三四	四・六一	四・八八	五・一四	五・四〇	五・六七	五・九三	六・一八	六・四三

二百磅硬銅線ノ弛度(尺) 安全率華氏二十二度ニ於テ四、

距離(間)＼華氏	二二度	三二度	四二度	五二度	六二度	七二度	八二度	九二度	一〇二度	一一二度	一二二度	一三二度
二〇	〇・四五	〇・五〇	〇・五六	〇・六四	〇・七三	〇・八三	〇・九五	一・〇八	一・二一	一・三四	一・四八	一・六〇
二五	〇・七一	〇・七八	〇・八八	〇・九八	一・一〇	一・二三	一・三八	一・五三	一・六九	一・八四	二・〇〇	二・一五
三〇	一・〇二	一・一二	一・二四	一・三七	一・五二	一・六八	一・八五	二・〇三	二・二〇	二・三七	二・五五	二・七二
三五	一・三九	一・五二	一・六六	一・八二	二・〇〇	二・一八	二・三七	二・五七	二・七六	二・九六	三・一五	三・三四
四〇	一・八二	一・九八	二・一五	二・三二	二・五四	二・七四	二・九六	三・一八	三・三八	三・六〇	三・八一	四・〇一
四五	二・三〇	二・四九	二・六九	二・九〇	三・一二	三・三五	三・五八	三・八二	四・〇五	四・二八	四・五〇	四・七二
五〇	二・八四	三・〇六	三・二八	三・五二	三・七七	四・〇一	四・二五	四・五〇	四・七五	五・〇〇	五・二四	五・四七
五五	三・四四	三・六八	三・九三	四・一九	四・四五	四・七一	四・九八	五・二四	五・五〇	五・七六	六・〇二	六・二七

百磅硬銅線ノ弛度(尺) 安全率華氏二十二度ニ於テ四、

距離(間)＼華氏	二二度	三二度	四二度	五二度	六二度	七二度	八二度	九二度	一〇二度	一一二度	一二二度	一三二度
二〇	〇・四四	〇・四九	〇・五五	〇・六二	〇・七一	〇・八一	〇・九二	一・〇五	一・一八	一・三一	一・四五	一・五七
二五	〇・六八	〇・七六	〇・八四	〇・九四	一・〇六	一・一九	一・三三	一・四八	一・六三	一・七八	一・九三	二・〇七
三〇	〇・九九	一・〇九	一・二〇	一・三三	一・四七	一・六三	一・八〇	一・九七	二・一四	二・三二	二・四八	二・六五
三五	一・三五	一・四七	一・六一	一・七六	一・九三	二・一一	二・三〇	二・四九	二・六八	二・八八	三・〇八	三・二七
四〇	一・七六	一・九一	二・〇七	二・二五	二・四四	二・六四	二・八五	三・〇七	三・二九	三・四九	三・七〇	三・九一
四五	二・二三	二・四〇	二・五九	二・八〇	三・〇一	三・二四	三・四七	三・七〇	三・九三	四・一六	四・三九	四・六一
五〇	二・七六	二・九六	三・一八	三・四一	三・六四	三・八九	四・一三	四・三八	四・六三	四・八七	五・一二	五・三六
五五	三・三四	三・五七	三・八一	四・〇六	四・三二	四・五八	四・八四	五・一〇	五・三七	五・六三	五・八八	六・一四

五拾磅硬銅線ノ弛度(尺) 安全率華氏二十二度ニ於テ四、

距離(間) ＼ 華氏	二二度	三二度	四二度	五二度	六二度	七二度	八二度	九二度	一〇二度	一一二度	一二二度	一三二度
一六	〇・二七	〇・三〇	〇・三四	〇・三九	〇・四四	〇・五一	〇・五九	〇・六九	〇・八〇	〇・九一	一・〇三	一・一三
一八	〇・三五	〇・三八	〇・四三	〇・四八	〇・五五	〇・六三	〇・七三	〇・八四	〇・九六	一・〇八	一・二一	一・三三
二〇	〇・四三	〇・四七	〇・五三	〇・五九	〇・六七	〇・七七	〇・八七	〇・九九	一・一二	一・二六	一・三九	一・五二
二二	〇・五二	〇・五七	〇・六四	〇・七一	〇・八〇	〇・九〇	一・〇三	一・一六	一・三〇	一・四四	一・五八	一・七二
二四	〇・六二	〇・六八	〇・七五	〇・八四	〇・九四	一・〇六	一・一九	一・三三	一・四八	一・六三	一・七八	一・九三
二六	〇・七二	〇・八〇	〇・八八	〇・九八	一・〇九	一・二二	一・三六	一・五一	一・六七	一・八三	一・九九	二・一三
二八	〇・八四	〇・九二	一・〇二	一・一三	一・二五	一・三九	一・五四	一・七〇	一・八七	二・〇三	二・二〇	二・三七
三〇	〇・九六	一・〇五	一・一六	一・二八	一・四二	一・五七	一・七三	一・九〇	二・〇七	二・二五	二・四二	二・六〇
三二	一・〇九	一・二〇	一・三一	一・四五	一・五九	一・七五	一・九二	二・一〇	二・二八	二・四七	二・六五	二・八二
三四	一・二三	一・三五	一・四八	一・六二	一・七八	一・九五	二・一二	二・三一	二・五〇	二・六九	二・八八	三・〇六

五拾磅硅銅線ノ弛度(尺) 安全率華氏二十二度ニ於テ四、

距離(間) ＼ 華氏	二二度	三二度	四二度	五二度	六二度	七二度	八二度	九二度	一〇二度	一一二度	一二二度	一三二度
一六	〇・二〇	〇・二二	〇・二五	〇・二九	〇・三四	〇・四〇	〇・四八	〇・五九	〇・七二	〇・八六	一・〇〇	一・一四
一八	〇・二五	〇・二八	〇・三二	〇・三六	〇・四二	〇・五〇	〇・五九	〇・七二	〇・八六	一・〇一	一・一六	一・三〇
二〇	〇・三一	〇・三五	〇・三九	〇・四五	〇・五二	〇・六〇	〇・七二	〇・八五	一・〇一	一・一七	一・三四	一・四九
二二	〇・三八	〇・四二	〇・四七	〇・五四	〇・六二	〇・七二	〇・八四	一・〇〇	一・一六	一・三四	一・五一	一・六九
二四	〇・四五	〇・五〇	〇・五六	〇・六三	〇・七三	〇・八四	〇・九八	一・一四	一・三二	一・五一	一・七〇	一・八九
二六	〇・五三	〇・五八	〇・六五	〇・七四	〇・八五	〇・九七	一・一三	一・三〇	一・五〇	一・六九	一・八九	二・〇九
二八	〇・六一	〇・六八	〇・七六	〇・八六	〇・九七	一・一一	一・二八	一・四七	一・六七	一・八七	二・〇八	二・二八
三〇	〇・七〇	〇・七八	〇・八七	〇・九七	一・一一	一・二六	一・四四	一・六四	一・八五	二・〇七	二・二八	二・四九
三二	〇・八〇	〇・八八	〇・九八	一・一〇	一・二五	一・四一	一・六〇	一・八一	二・〇四	二・二六	二・四九	二・七二
三四	〇・九〇	〇・九九	一・一一	一・二四	一・四〇	一・五八	一・七八	二・〇〇	二・二三	二・四七	二・七〇	二・九三

第九十一條 電線ヲ碍子ニ綁縛スルニハ曲線ノ場所ニ在リテハ本柱傾斜ノ方向ニ、直線ノ場所ニ在リテハ成ルヘク左右交番ニ之ヲ綁縛スヘシ

第九十二條 電線ヲ碍子ニ綁縛スルニハ百七十磅以上ノ鐵線又ハ鋼線ニハ六十磅、百磅鐵線ニハ三十磅鐵線ヲ、百五十磅以上ノ硬銅線又ハ銅覆鋼線ニハ五十磅、百磅硬銅線ニハ三十七磅、五十磅硬銅線若ハ五十磅硅銅線ニハ二十磅軟銅線ヲ以テ線條ニ反シタル碍子ノ線溝ヨリ兩端ヲ線條ニ纒捲シ更ニ交叉シ再ヒ線條ニ長サ約七分ノ間堅固ニ密著纒捲スヘシ(第拾五圖參照)

第九十三條 電線ヲ茶臺碍子ニ綁縛スルニハ之ヲ線溝ニ入レ碍子ヲ距ル約七寸ノ處ニ於テ併合シ接續用線ヲ以テ約二寸ノ間堅固ニ密著纒捲シ更ニ鑞附ヲ施シ固著セシムヘシ但シ特別ノ場合ノ外ハ兩茶臺碍子間ハ必ス繼目ナキ線條ヲ用ウヘシ

第九十四條 交叉金物ヲ用キタル本柱ニ在リテ線條ヲ「アングル」碍子ニ綁縛スルニハ前條茶臺碍子ノ例ニ準スヘシ

第九十五條 極柱及架線數多キ角ド柱ニ於テハ回線ヲ識別シ易カラシムル爲ニ線名札ヲ取附ケ置クヘシ

第九章 地中導體

第九十六條 地中導體ニハ面積一●二五平方尺以上厚サ約三厘ノ銅板若ハ之ト同等以上ノ面積ヲ有スル銅體ニ六十五磅銅線七箇撚線ヲ鑞附シタルモノ又ハ六十五磅銅線七箇撚線又ハ之ト同等以上ノ切斷面ヲ有スル他ノ撚銅線ヲ充用スヘシ

撚線ヲ使用スルトキハ地中ニ埋ムル一端ヲ直徑約三尺ノ輪形ニ凡ソ三回捲クモノトス但シ場合ニ依リ軌條ヲ以テ地中導體ニ代用スルコトヲ得

第九十七條 地中導體ハ成ルヘク避雷器裝置ノ場所ニ近クシテ濕氣多キ所ヲ選ヒ乾燥ノ時季ニ於テモ充分ナル水氣ヲ有スル深サ五尺以上ノ穴ヲ掘リ之ヲ埋ムヘシ但シ水氣乏キ虞アル場所ハ輪部若ハ銅板又ハ銅體ノ周圍ニ木炭或ハ「コークス」ヲ塡充シ埋設スヘシ

第九十八條 前條ニ依リ埋設シタル地中導體ノ電氣抵抗多クシテ通信ニ使用スルコトヲ得ス且近傍ニ適當ナル地所ナキトキハ之ヲ避雷器ニ專用シ通信用地中導體ハ成ルヘク近距離ノ岩石少ク濕氣多キ地所ニ埋設シ四百磅鐵線若ハ二百磅以上ノ硬銅線ヲ以テ屋内ニ導クヘシ通信用地中導體ヲ別ニ埋設シタルトキハ屋内ニ於テ避雷器用地中導體ニ接續シ置クモノトス

第九十九條 地中導體ノ撚線ノ部分ハ地上約三尺以内及地中ニ於テハ接續ノ箇所ナキモノタルヘシ

第百條 地中導體ハ之ニ接續スル回線數約十回線毎ニ一個ヲ設置スヘシ但シ閉塞器、電話機二座以上若ハ電話機ト電信機トヲ併用セル驛所ニ在リテ地中導體ヲ兼用スルカ爲通信ヲ妨碍スル虞アル場合ニ於テハ單獨ノ地中導體ヲ用ウルコトヲ得

第百一條 地中導體ト避雷器トヲ接續スル導線ハ五十磅銅線五箇撚線若ハ之ト同等以上ノ切斷面ヲ有スル他ノ撚銅線ヲ用キ成ルヘク短ク且決シテ急激ナル屈曲ナキ樣敷設スヘシ但シ場合ニ依リ電信編組「ラバー」線三本以上ヲ撚合セ使用スルコトヲ得

第百二條 地中導體及之ト接續セル導線ハ成ルヘク他ノ電線、瓦斯管ヨリ隔離スヘシ

第百三條 地中導體ハ地下約一尺ヨリ地上約一尺マテ充分「タール」ヲ塗布シ置クヘシ但シ特ニ導體ヲ腐蝕セシムヘキ虞アル場所ニ於テハ「タール」ヲ塗布スル代リニ適當ノ鉛管ニ入レ「ピッチ」若ハ「アスファルト」ノ類ヲ塡充スヘシ

第百四條 地中導體埋設ノ位置ハ容易ニ識別シ得ル樣適宜ノ標識ヲ設クヘシ

第十章 屋内引込及機械裝置

第百五條 電線ハ機械ヲ裝置スルト否トニ拘ラス試驗上必要ト認ムル驛所ノ試驗盤ニ引込ミ置クヘシ

第百六條 屋外裸線ヲ屋内ヘ引込ムニハ屋舍ノ壁面又ハ庇等便宜ノ箇所ニ腕木又ハ「ブラッケット」ヲ取附ケ之ト極柱トノ間ニ裸線ヲ架シ其ノ一端ヲ屋外線ニ他端ヲ屋内被覆線ニ接續スヘシ但シ裸線ヲ以テ引込ミ難キ場合ハ被覆線ヲ用キ屋外線ニ接續シ引込樋ヲ經テ屋内ニ導クコトヲ得又引込ムヘキ電線夥多ナルトキハ電纜ヲ用キ屋外線ニ接續シテ引込ムコトヲ得

第百七條 屋内ニ敷設スル電線ハ別々ニ小皷形碍子ニ綁縛スヘシ但シ已ムヲ得サル場合ハ碍子ヲ使用セサル

コトヲ得ルモ電線ノ混亂セサル樣敷設スヘシ

第百八條　屋內ニ敷設スル電線ハ電燈、電力線ト充分隔離スヘシ已ムヲ得ス接近若ハ交叉スル場合ハ其ノ部分ヲ碍管內ニ藏ムルカ又ハ特別ノ裝置ヲ爲シ電氣的混觸ヲ豫防スヘシ

第百九條　屋內ニ使用スル被覆線ハ電信編組「ラバー」線若ハ之ト同等以上ノ導電力及絕緣力ヲ有スルモノヲ用ウヘシ但シ濕氣若ハ絕緣降下ノ虞ナキ場所ニハ「パラヒン」線ヲ使用スルコトヲ得

第百十條　屋內ニ使用スル被覆線ヲ接續スルニハ心線ヲ磨キ之ヲ捻合セ其ノ兩端ヲ凡ソ三四回捲附ケ完全ニ鑞附ヲ施シ「ラバー」線ハ「ゴムテープ」、「パラヒン」線ハ絕緣紙又ハ布ヲ以テ之ヲ覆ヒ其ノ上ヲ「タール」、「コンパウンド」類ニ浸シタル布「テープ」ニテ捲クヘシ

第百十一條　屋外ニ於テ電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉若ハ接近シテ架設シタル電線ヲ屋內ニ引込ムトキハ屋外線ト之ニ接續スル機械トノ間ニ於テ五「アムペア」以下ニテ熔解スル可熔遮斷器三百「ヴォルト」ニテ放電スル避雷器及二百五十「ミリアムペア」以下ニテ働作スル熱線輪ヲ裝置スヘシ

第百十二條　前條以外ノ場合ニ於テハ屋外線ト之ニ接續スル機械トノ間ニ於テ「ピーオー」形若ハ相當ノ避雷器ヲ裝置スヘシ

第百十三條　避雷器及保安器ハ極柱ト試驗盤トノ中間ニ於テ成ルヘク引込ミ口ニ近キ場所ニ裝置スヘシ

第百十四條　避雷器ヲ裝置スルトキハ避雷器ト試驗盤トノ間ニ被覆線ヲ以テ長サ凡ソ一尺ノ「チョーキングコイル」ヲ作ルヘシ

第百十五條　「ピーオー」形避雷器ハ本線ト竝列ニ接續シ被覆線ハ兩斷スルコトナク取附ケ部分ノミ被覆物ヲ削去リ該器ニ取附クヘシ

第百十六條　十二號形保安器ハ垂直ニ取附ケ「テルミナル」三個ヲ有スル側ニ機械ニ至ル線ヲ接續シ反對ノ側ニ外部ニ至ル線ヲ接續スヘシ

第百十七條　電池線ハ試驗盤ヲ經スシテ直接機械ニ接續スヘシ但シ電池ノ增減又ハ電池試驗等ノ爲必要ト認ムルトキハ試驗盤ニ接續スルコトヲ得

第百十八條　機械ノ地氣線ハ之ヲ兼用セス各別ニ地中導體ヨリ導クヘシ

第百十九條　被覆線ノ壁天井等ヲ貫通スル所ハ成ルヘク碍管ヲ使用スヘシ

第百二十條　試驗盤ハ成ルヘク機械ニ近キ位置ヲ選ヒ取扱ニ便利ナル高サニ裝置スヘシ

第百二十一條　電池室ニハ空氣ノ流通良クシテ塵埃及濕氣少ク且明クシテ掃除ニ便ナル場所ヲ選フヘシ

第百二十二條　蓄電池ヲ用ウルトキハ短絡其ノ他危險ノ虞ナキ樣相當ノ裝置ヲ爲スヘシ

第百二十三條　働作電流ノ方向ハ信號回線ニ在リテハ適宜之ヲ定メ電信回線ニ在リテハ東方ヨリ西方又ハ北方ヨリ南方ニ向ヒタル陰極電流ト爲スヘシ但シ特別ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百二十四條　線條ニハ試驗盤若ハ其ノ近傍適當ノ場所ニ於テ回線名及其ノ方向ヲ記載セル小札ヲ取附ケ點檢ヲ容易ナラシムヘシ電池線ニ在リテハ電池竝器械ノ近傍目擊シ易キ點ニ孰レモ其ノ用途及極名等ヲ記載セル小札ヲ取附ケ置クヘシ

第十一章　保守及雜件

第百二十五條　線路ハ常ニ本柱、支柱、支線、腕木、碍子、線條及其ノ弛度竝引込線其ノ他ノ實況ヲ詳細檢査シ通信ニ障碍ヲ來スノ虞ナキ樣保守スヘシ

第百二十六條　本柱ノ根際腐朽シタルモ未タ挫折顚倒ノ虞アラスト認ムルトキハ古柱若ハ相當ノ木材ヲ以テ堅固ニ副木ヲ施シ又ハ時宜ニ依リ根繼ヲ爲シ頭部ノ腐朽シタルトキハ其ノ部分ヲ切斷シ腕木ヲ繰下クヘシ

第百二十七條　前條ノ副木又ハ根繼ヲ爲ストキハ本柱ノ腐朽シタル部分ヲ削リ相當ノ防腐法ヲ施スヘシ

第百二十八條　柱材ヲ保存スルニハ地上ニ横木ヲ置キ其ノ上ニ排列スルカ又ハ地表面ニ大ナル角度ヲ存シ其ノ本口ヲ下ニシテ立掛ケ置キ成ルヘク雨露ニ曝サレサル樣適宜ノ設備ヲ爲スヘシ

第百二十九條　碍子ニ掛リタル蜘網、煤烟等ハ平常之ヲ取除クハ勿論一年二回以上掃除ヲ爲シ電氣漏洩ヲ防クヘシ

第百三十條　隧道內ノ碍子ハ前條ニ拘ラス屢掃除ヲ爲シ煤烟、塵埃等ノ附著物ヲ去リ常ニ其ノ絕緣力ヲ完全ニ保ツ樣特ニ注意スヘシ

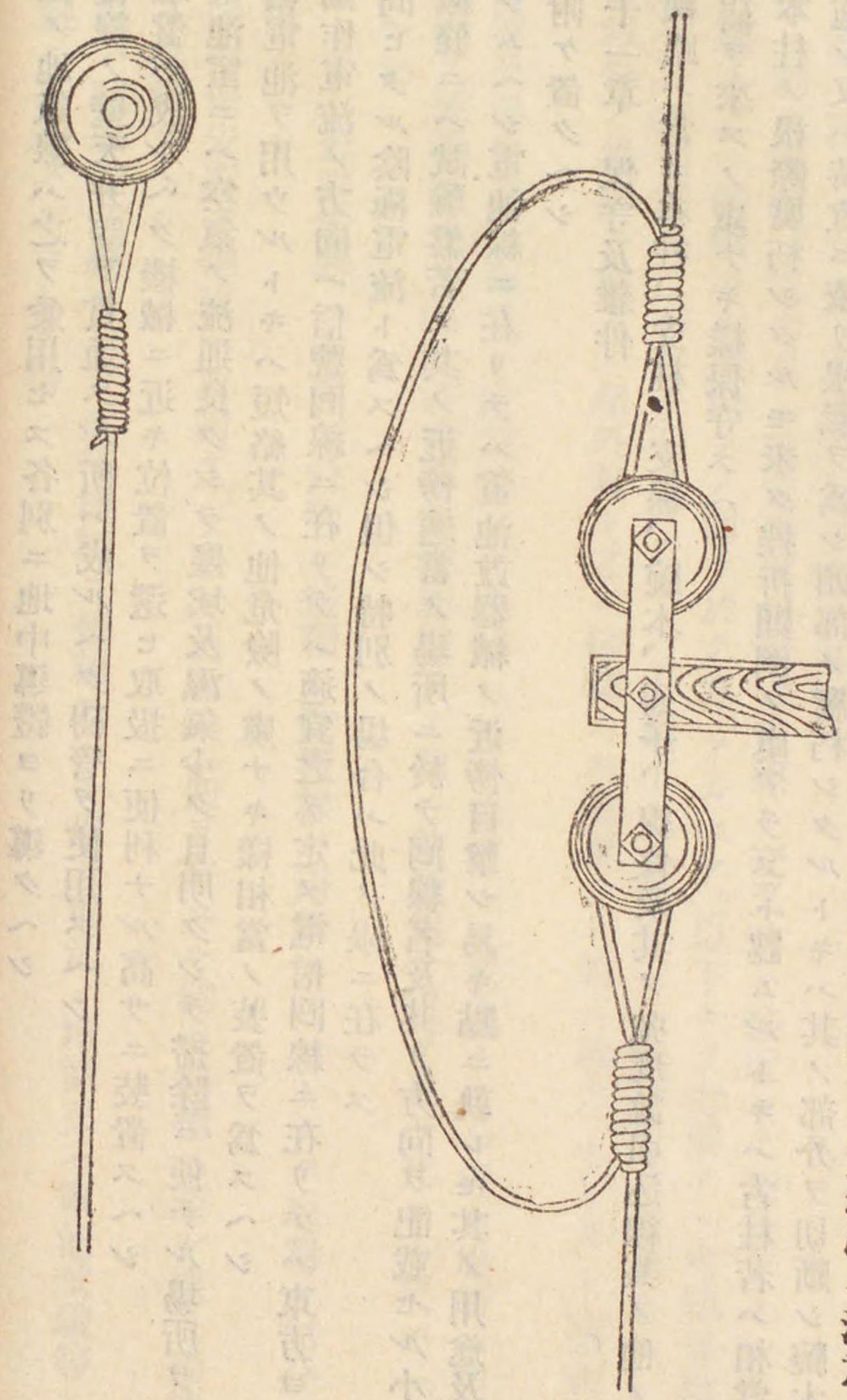
第百三十一條 碍子掃除ヲ爲スニハ蛛網其ノ他ノ附著物ヲ除去シ綿布ヲ清水若ハ石油ニ浸シ碍子ノ全體ヲ拭ヒ内部ハ殊ニ注意シ布切ヲ捲キタル竹篦ノ類ヲ以テ叮嚀ニ掃除スヘシ但シ海濱ニ沿ヒ若ハ隧道内ニ建設シタル線路ニ在リテハ掃除ノ際成ルヘク「バインド」ヲ取外シ碍子ノ全部ヲ叮嚀ニ掃除スヘシ

第百三十二條 屋内線被覆物ノ罅裂又ハ破損セルモノハ速ニ完全ナルモノニ取換フルカ又ハ相當修理ヲ爲スヘシ

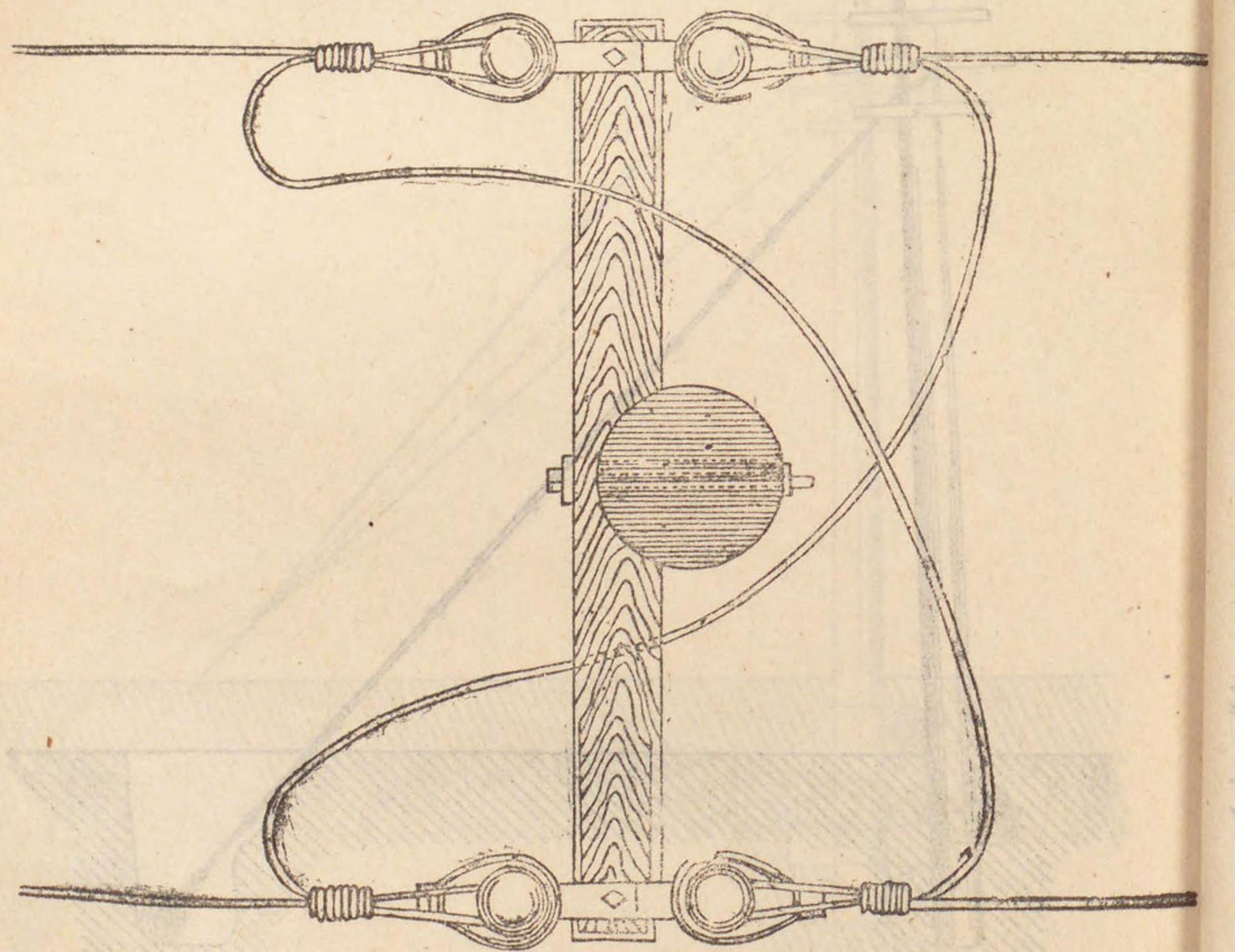
第百三十三條 本柱、支柱及支線ノ地際ハ塵埃積リ又ハ雜草繁生セサル樣注意スヘシ

第百三十四條 電柱建換、線條切換其ノ他工事ノ際之カ爲通信ニ障碍ヲ來ササル樣特ニ注意スヘシ

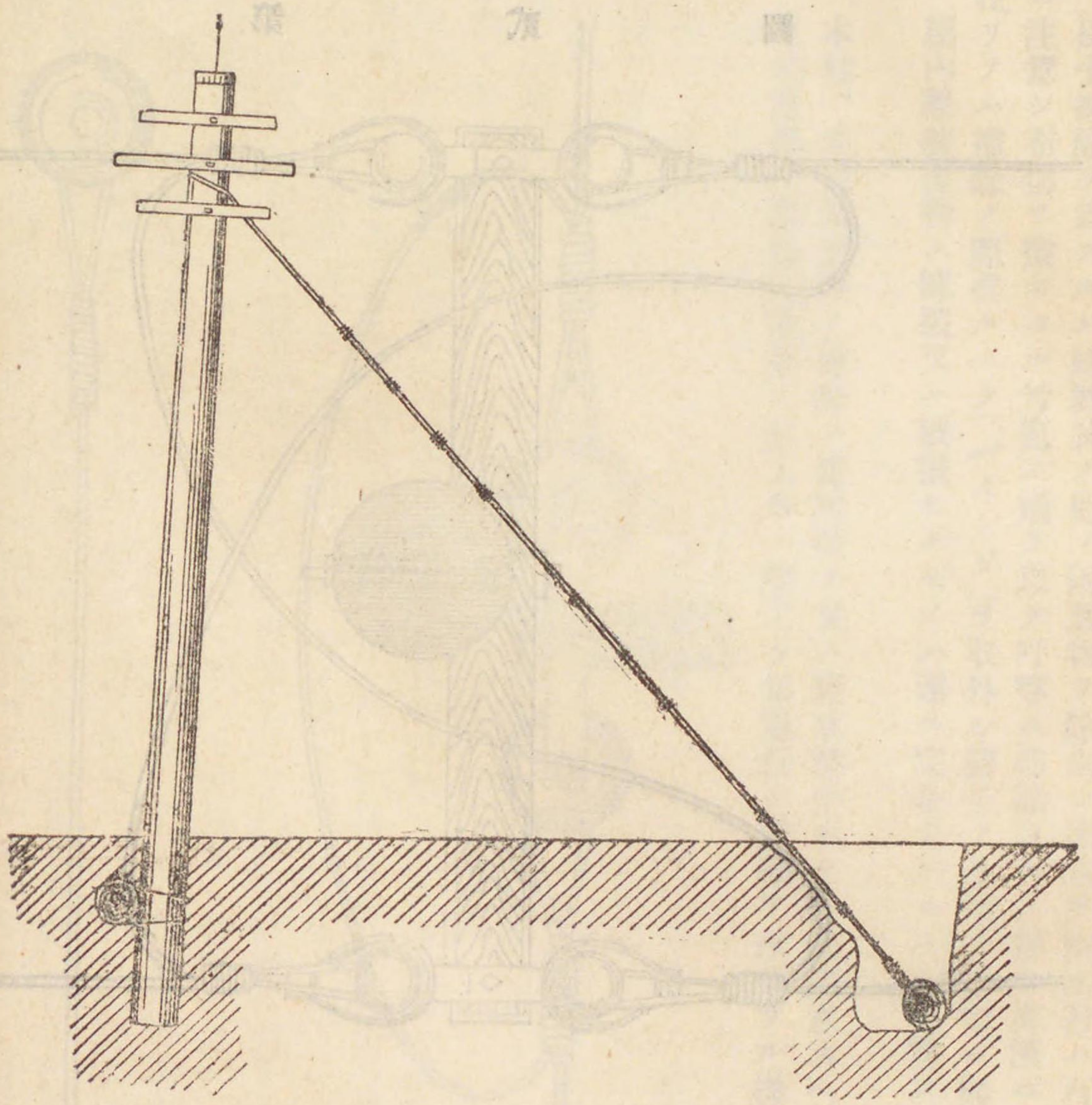
第壹圖



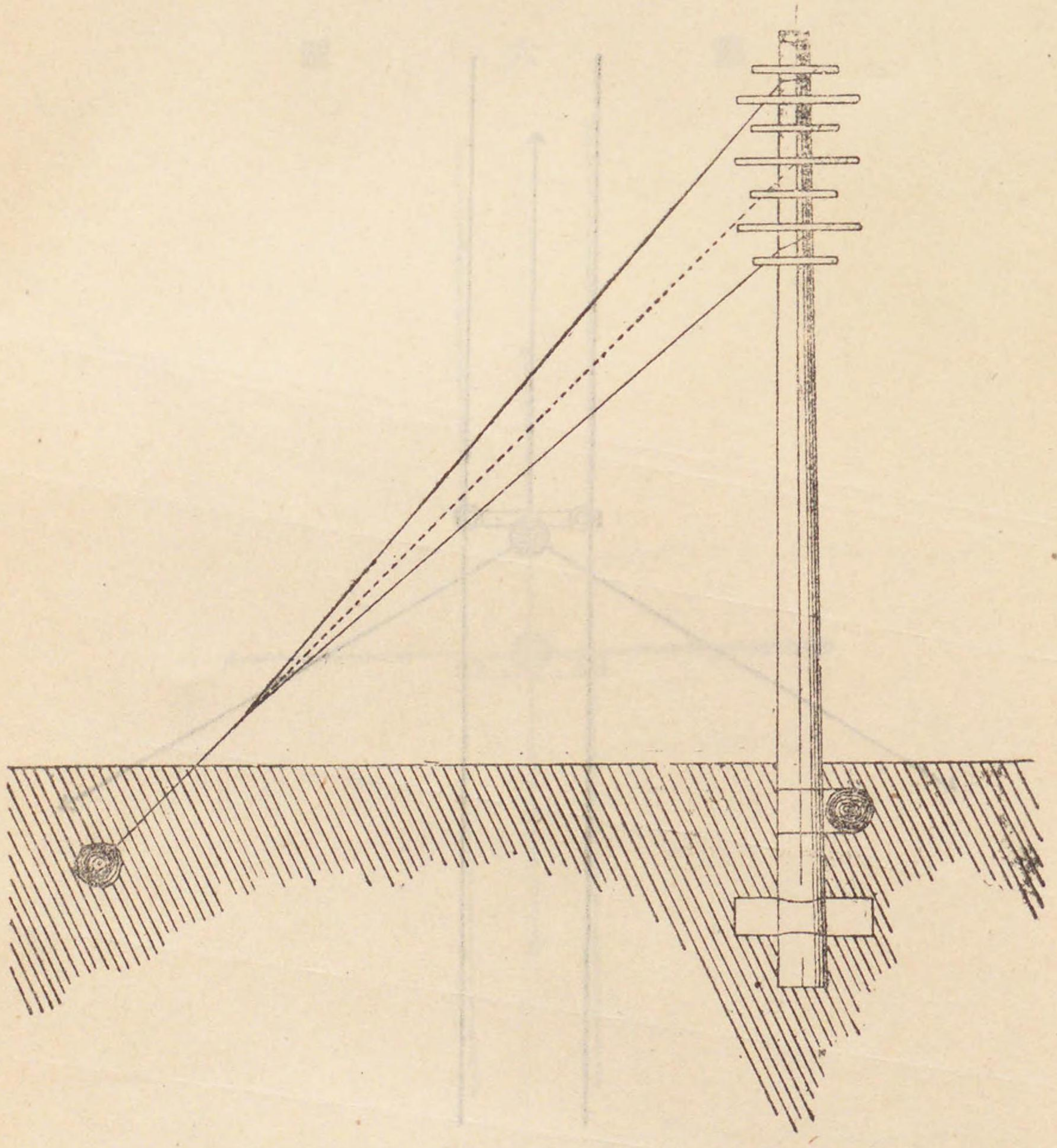
第貳圖



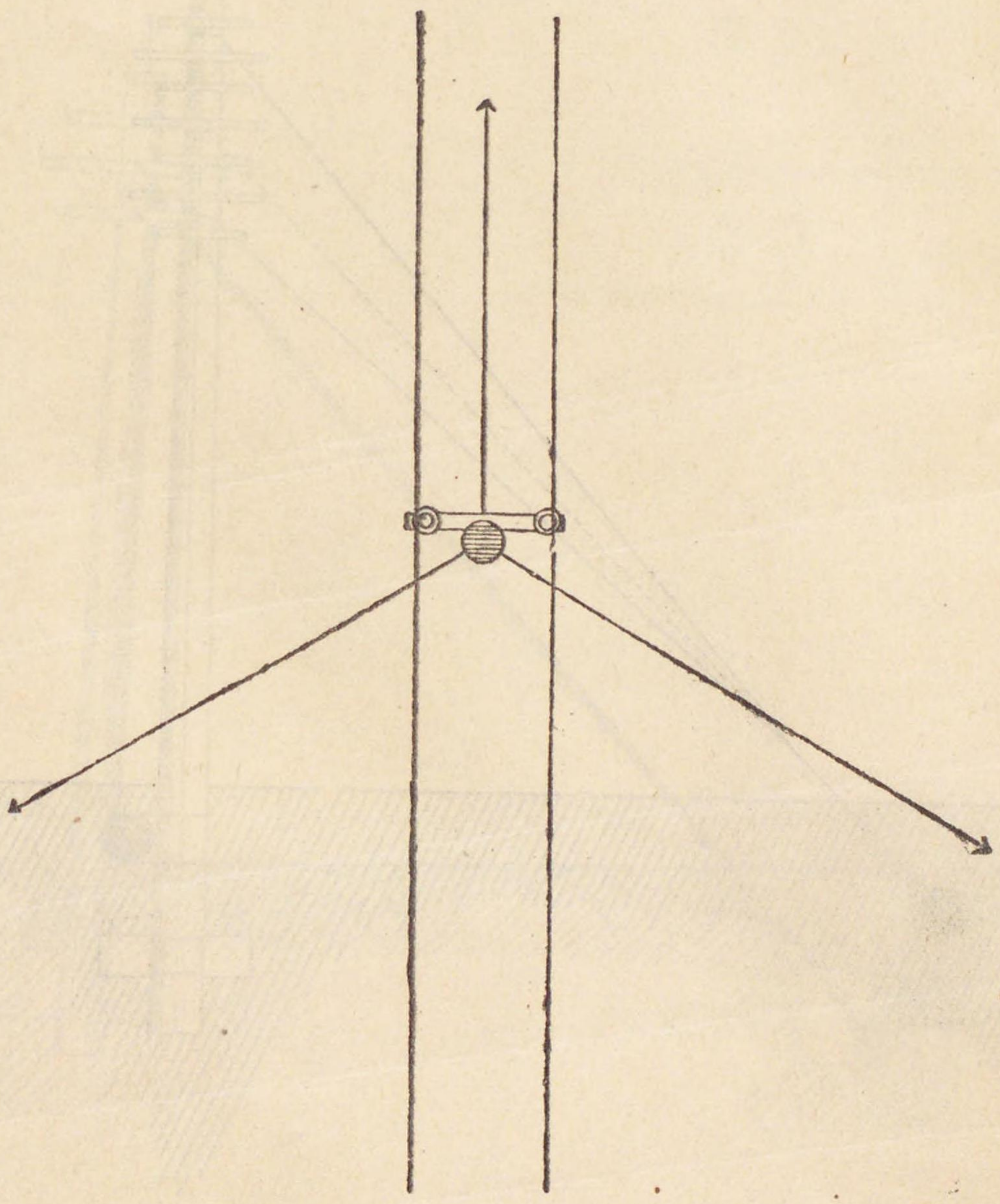
第参圖



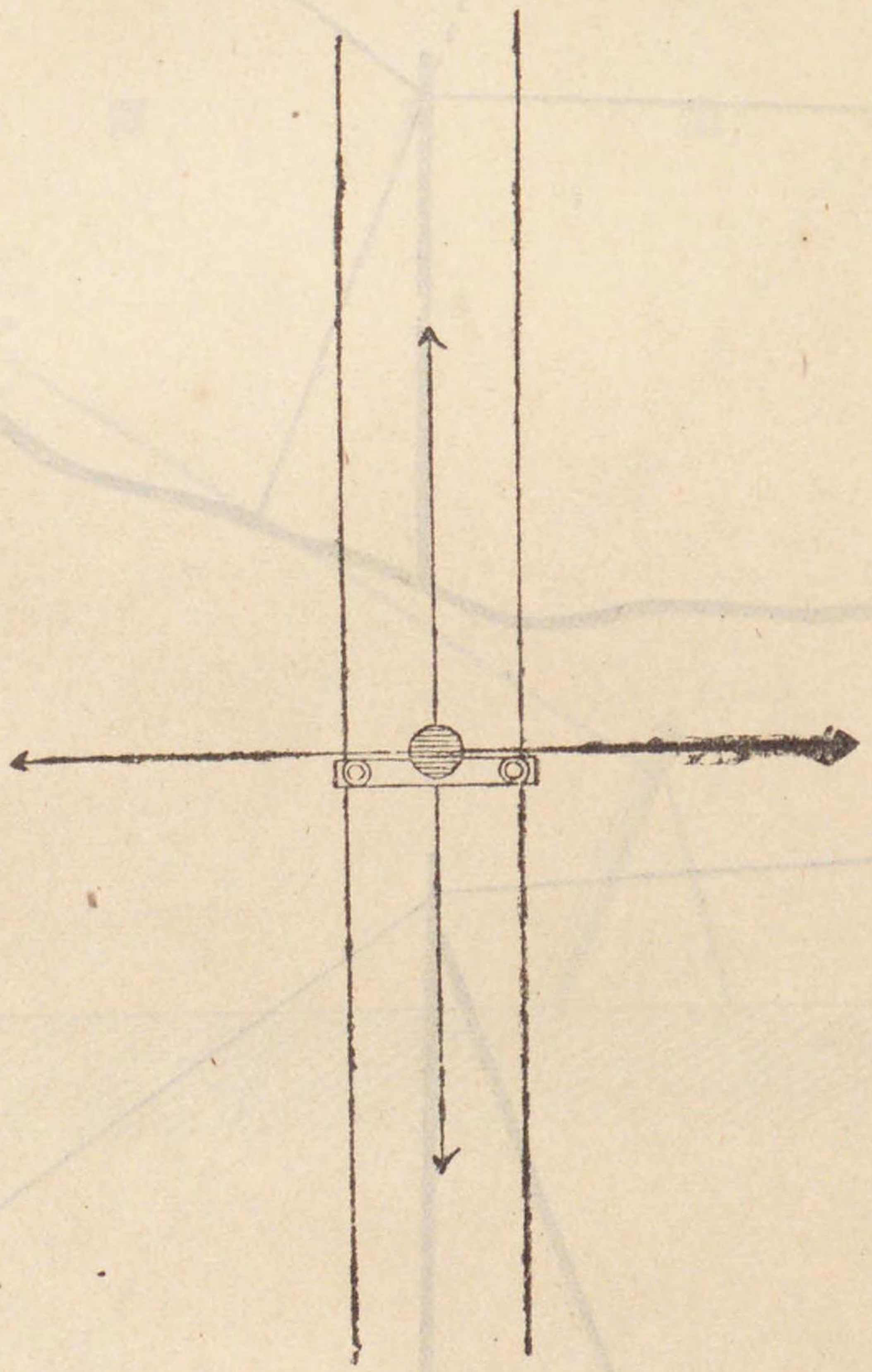
第四圖



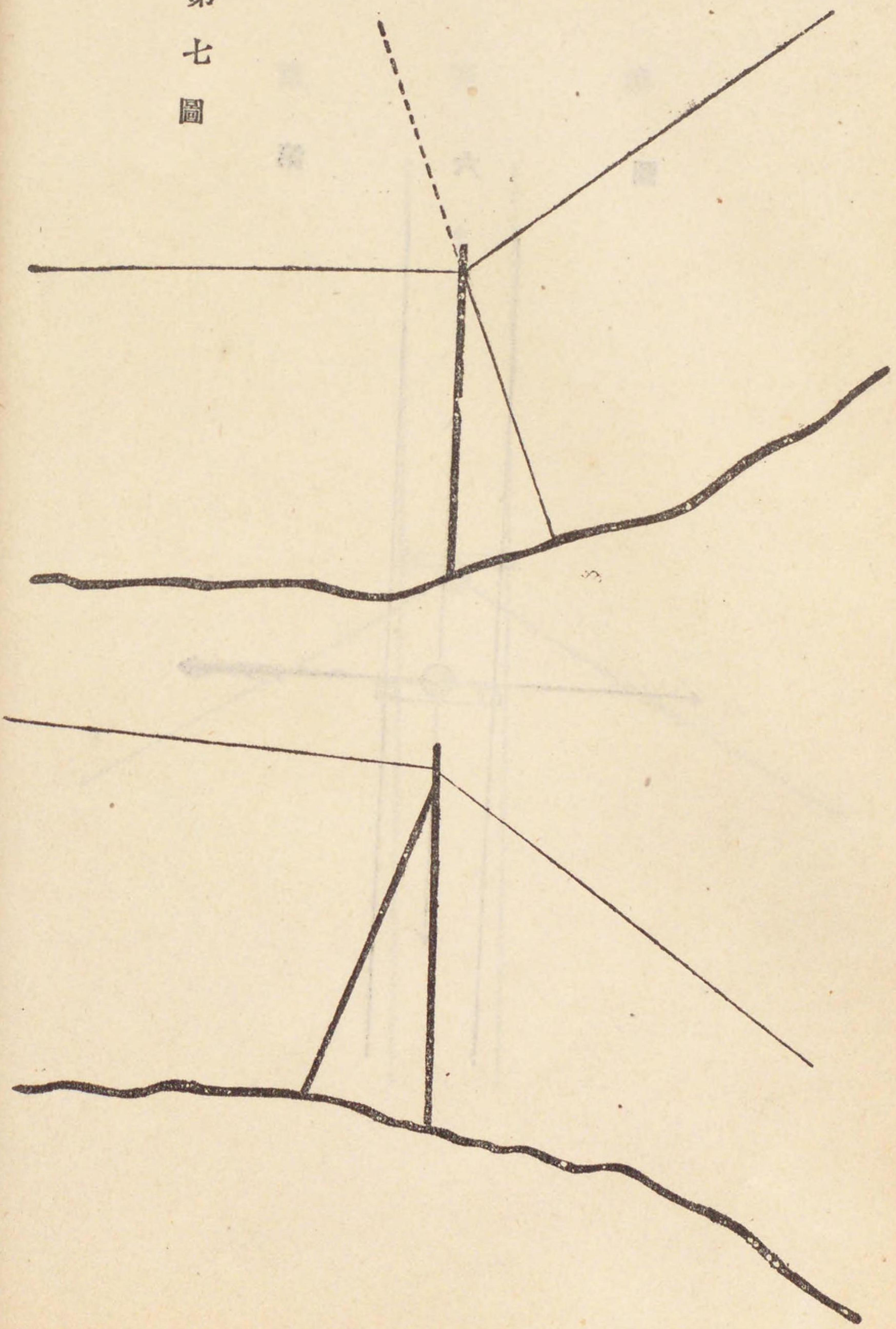
第五圖



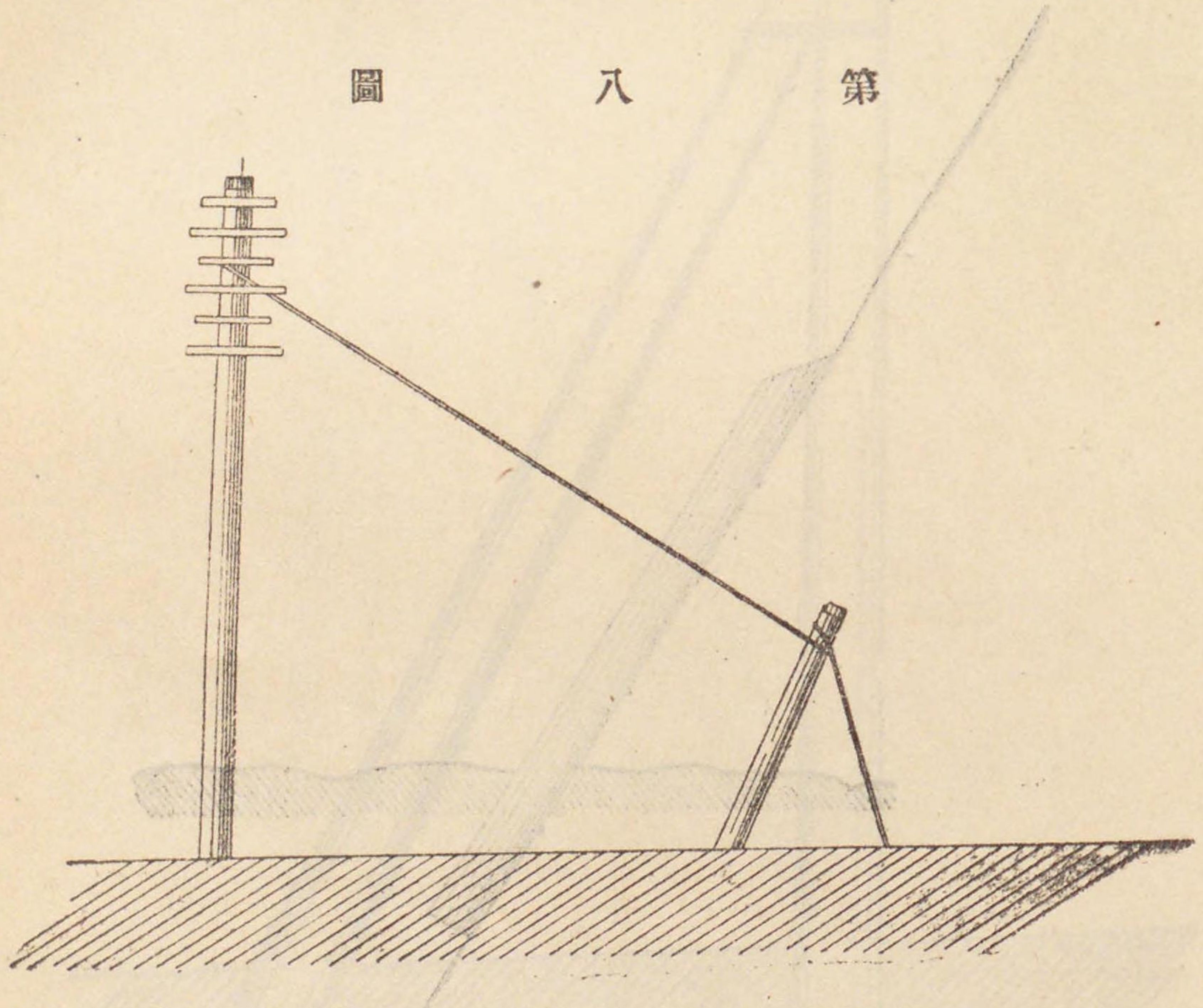
第六圖



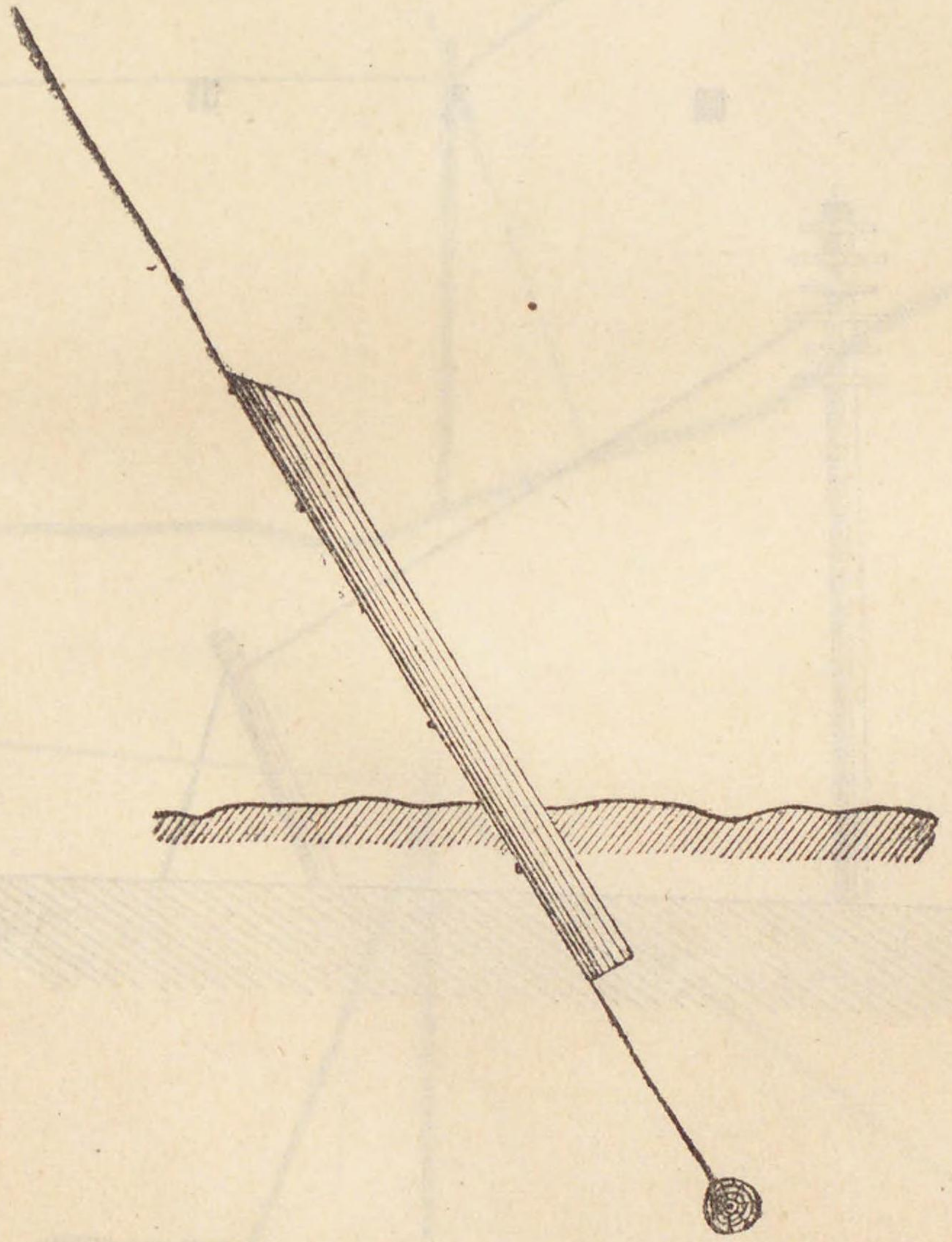
第七圖



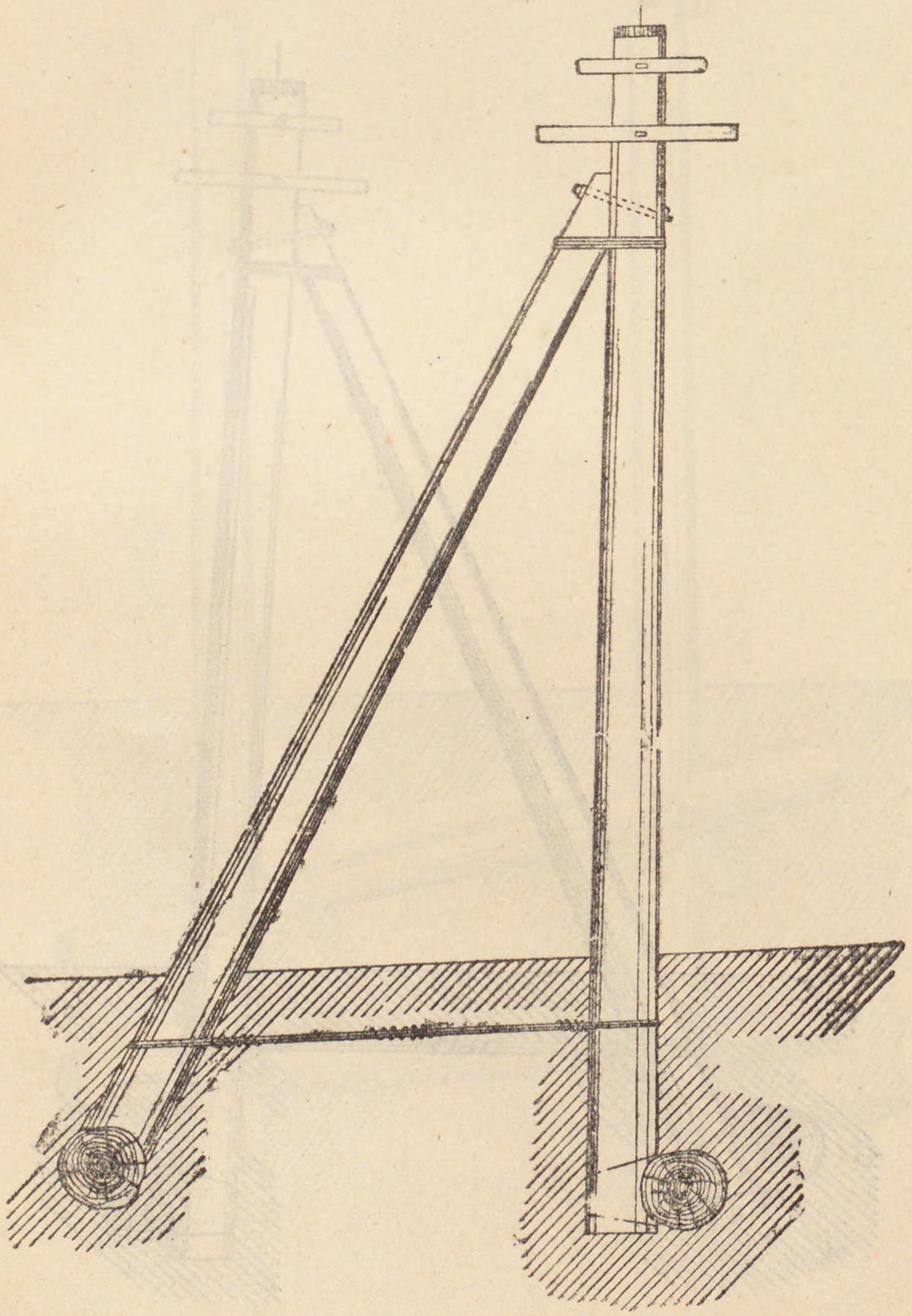
第八圖



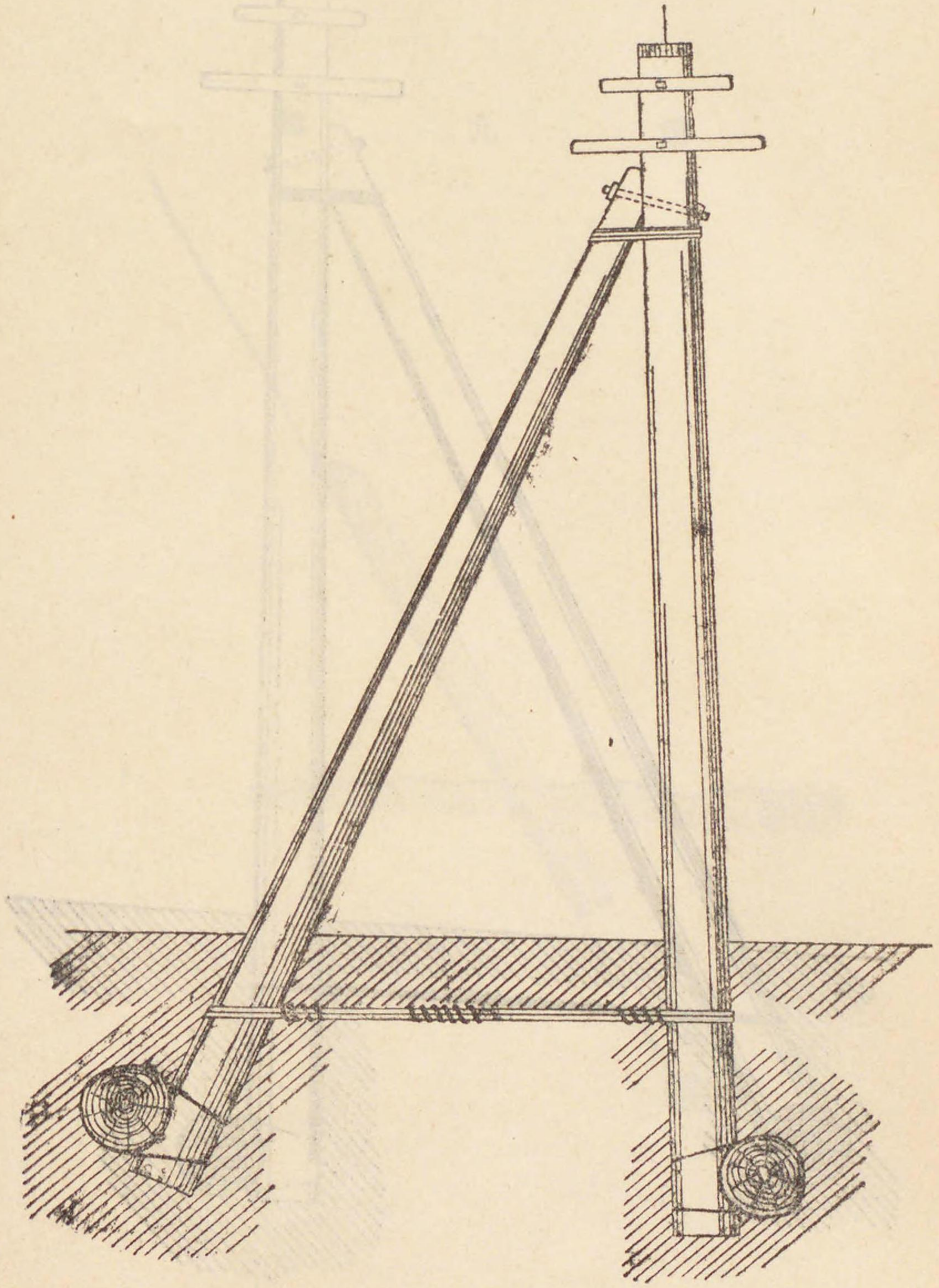
第九圖



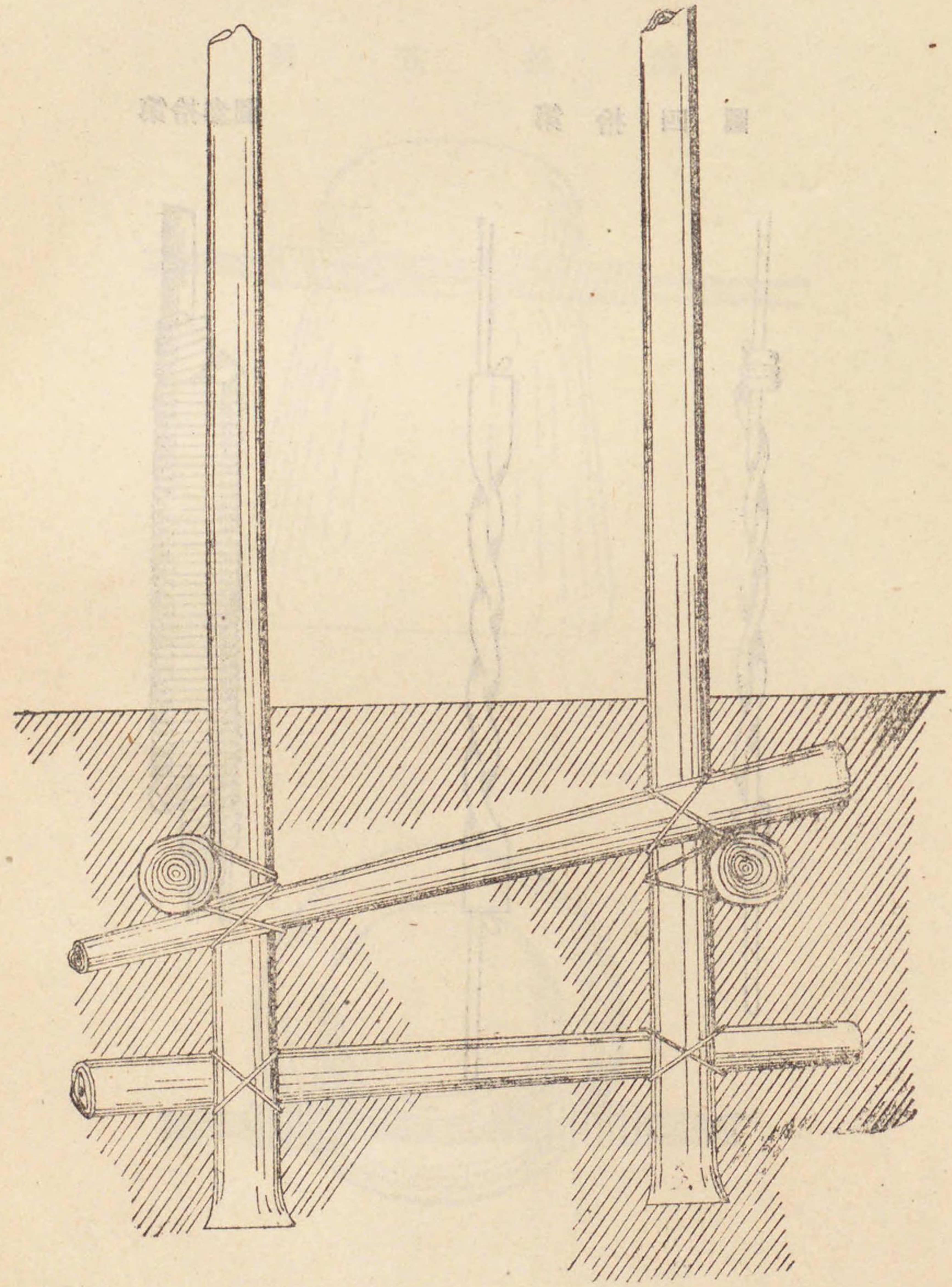
第拾圖



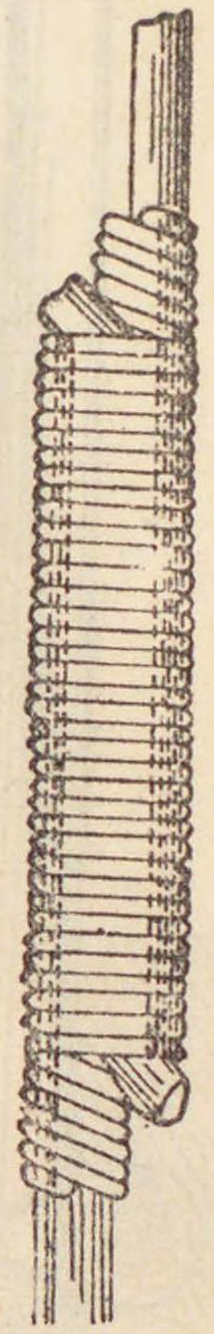
第拾壹圖



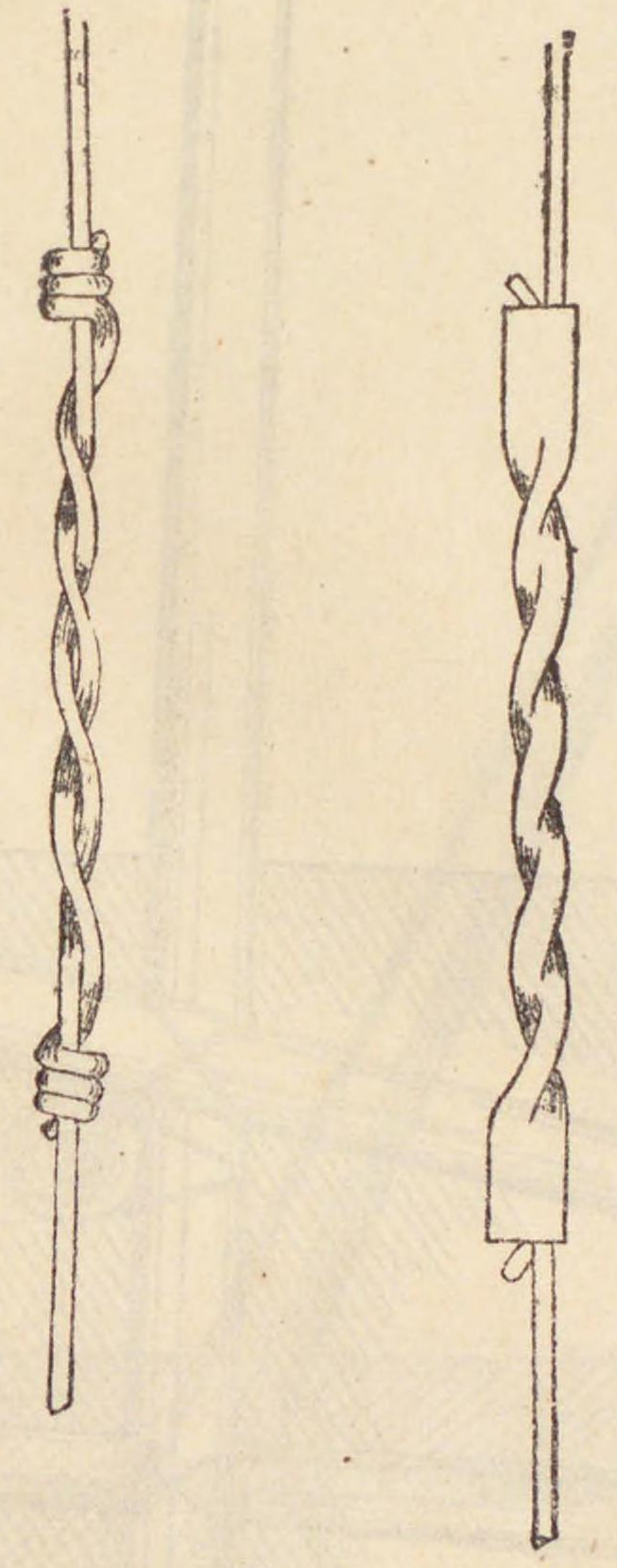
第拾貳圖



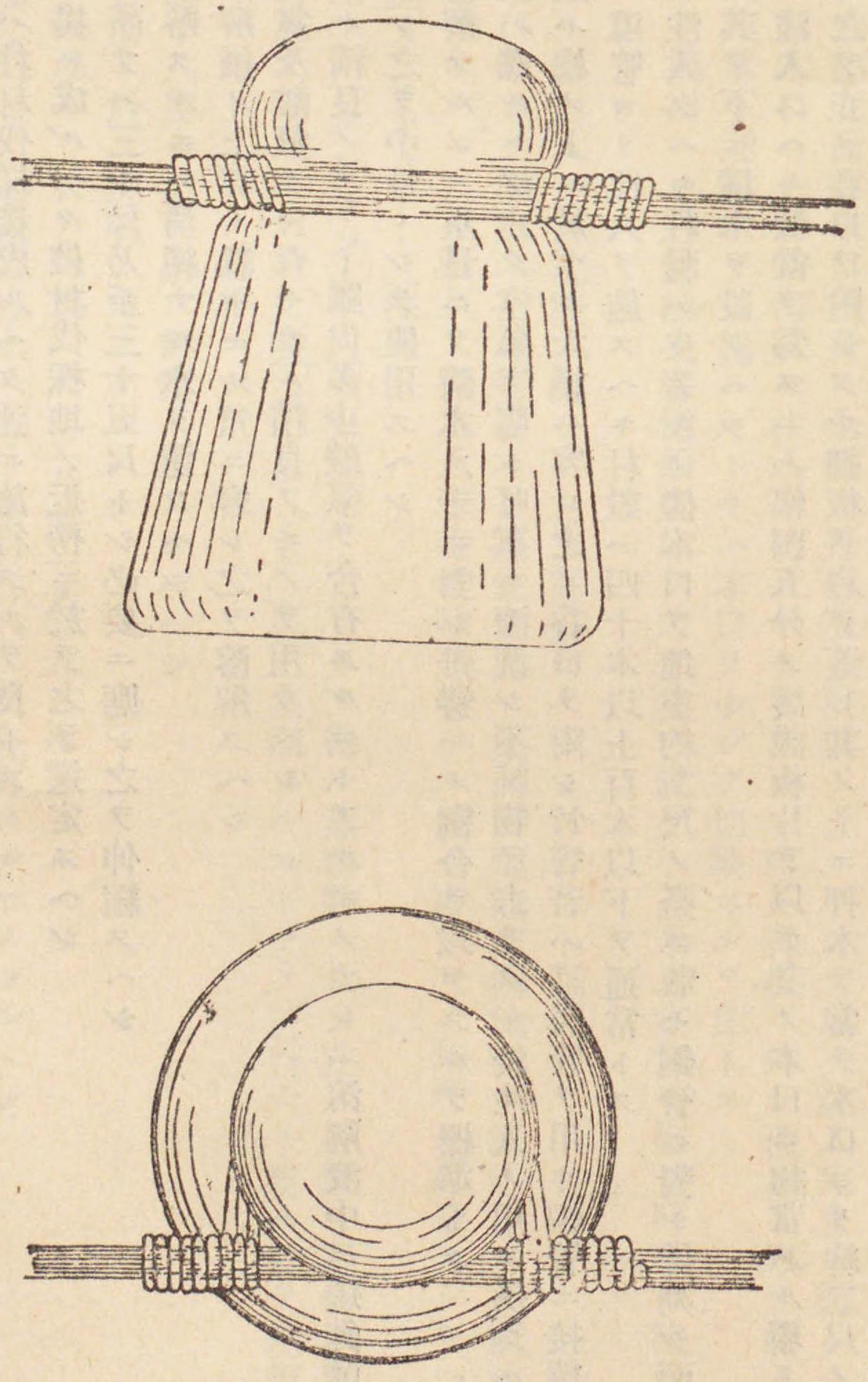
第拾参圖



第拾四圖



第拾五圖



（附錄）參考

丹礬注入

一、丹礬注入ノ季節ハ四月ヨリ十一月ニ至ル間ヲ良トス
二、丹礬注入ハ柱材伐採後成ルヘク速ニ施行スルヲ良トス
三、丹礬注入場ハ成ルヘク柱材伐採地ノ近傍ニ於テ之ヲ選定スヘシ
四、注入櫓ノ高サハ三十尺乃至三十五尺トシ必要ニ應シ之ヲ伸縮スヘシ
五、丹礬ヲ溶解スルニハ清純ナル水ヲ選フヘシ
六、丹礬ハ溶解桶ノ上部ニ懸垂セル笊ニ容レ之ヲ溶解スヘシ
七、丹礬ハ鐵氣及酸氣ヲ含有セサル精良ノモノヲ用ウヘシ
八、丹礬中ニハ精良ノモノト雖尚多少酸氣ヲ含有スルコトアルモノナレハ溶解液中ニ燒鈍酸化セシメタル銅片ヲ懸垂シ之ヲ中性トシテ使用スヘシ
九、丹礬ヲ溶解スルニハ重量ニテ清水八十ニ對シ丹礬一ノ割合ヲ以テスルヲ標準トス
一〇、丹礬液ハ成ルヘク永ク空氣ニ曝シ叮嚀ニ滲漉シ不純物ヲ去リタル後注入ノ用ニ供スヘシ
一一、丹礬液ハ櫓ノ上ニ於ケル大桶ニ容レ之ニ呑口ヲ附シ竹管若ハ護謨管ヲ用ヰ銅管ニ接續スヘシ
一二、一本ノ導管ヨリ注入ヲ施スヘキ柱數ハ四十本以上百本以下ヲ通常トス
一三、丹礬ヲ注入スヘキ柱材ハ皮著キノ儘本口ヲ地上約二尺ノ臺ニ載セ銅管ニ對シ排列シ而シテ末口ハ斜ニ低下シ其ノ下ニ横木ヲ設クヘシ
一四、丹礬ヲ注入スヘキ裝置ヲ爲スニハ幅四五分ノ護謨板片ヲ以テ其ノ本口ニ相當スル環ト爲シ銅釘又ハ竹釘ニテ之ヲ止メ呑口ヲ附シタル押板ヲ以テ蓋ヒ其ノ上ニ押木ヲ當テ本口ヨリ約二尺ノ所ニ鐵線ヲ以テ緊結シタル鍵形眞棒ニ依リ押木ヲ捻締ムヘシ而シテ護謨環ト本口トノ間ノ上部ニ竹又ハ銅線ノ小片ヲ挾ミ置クヘシ（甲圖乙圖參考）
一五、銅管ノ支管ト押板ノ呑口トハ小護謨管ヲ以テ連續シ其ノ間ニハ小挾木ヲ附シ又導管ト銅管トヲ連續スル大護謨管ニハ大挾木ヲ附スヘシ
一六、注入セムトスルトキハ始ニ挾木ヲ緩メ本口ト護謨環トノ間ニ挾ミタル竹又ハ銅線ノ小片ニ依リテ空氣ヲ排除シ丹礬液ヲシテ本口ノ全面ニ注カシメ然ル後其ノ小片ヲ扱取ルヘシ
一七、柱材ノ外部表面及末口白身ノ全部ニ丹礬液ノ浸染シタルトキヲ以テ注入完全ト認ムヘシ
一八、注入ノ際本口ニハ汚物附著シ注入ヲ妨クルモノナレハ時々押板ヲ外シ清水ヲ以テ能ク洗滌スヘシ而シテ注入非常ニ遲緩ナリト認ムルトキハ本口ヲ少シク切斷スルヲ良トス
一九、本口ヨリ漏出スル丹礬液ハ木樋類ヲ以テ之ヲ集メ成ルヘク永ク空氣ニ曝シ叮嚀ニ滲漉シタル後再用スヘシ
二〇、末口ヨリ排出スル丹礬液ハ決シテ之ヲ再用スヘカラス
二一、本口末口等ヨリ漏出スル丹礬液ハ各適宜ノ器ニ集メ田畑池沼溪流等ニ流込マサル樣注意スヘシ其ノ再用ニ適セサルモノハ石灰ヲ投入シ礬毒ヲ除却シタル後ニ非サレハ地中ニ浸染セシムヘカラス

「クレオソート」注入

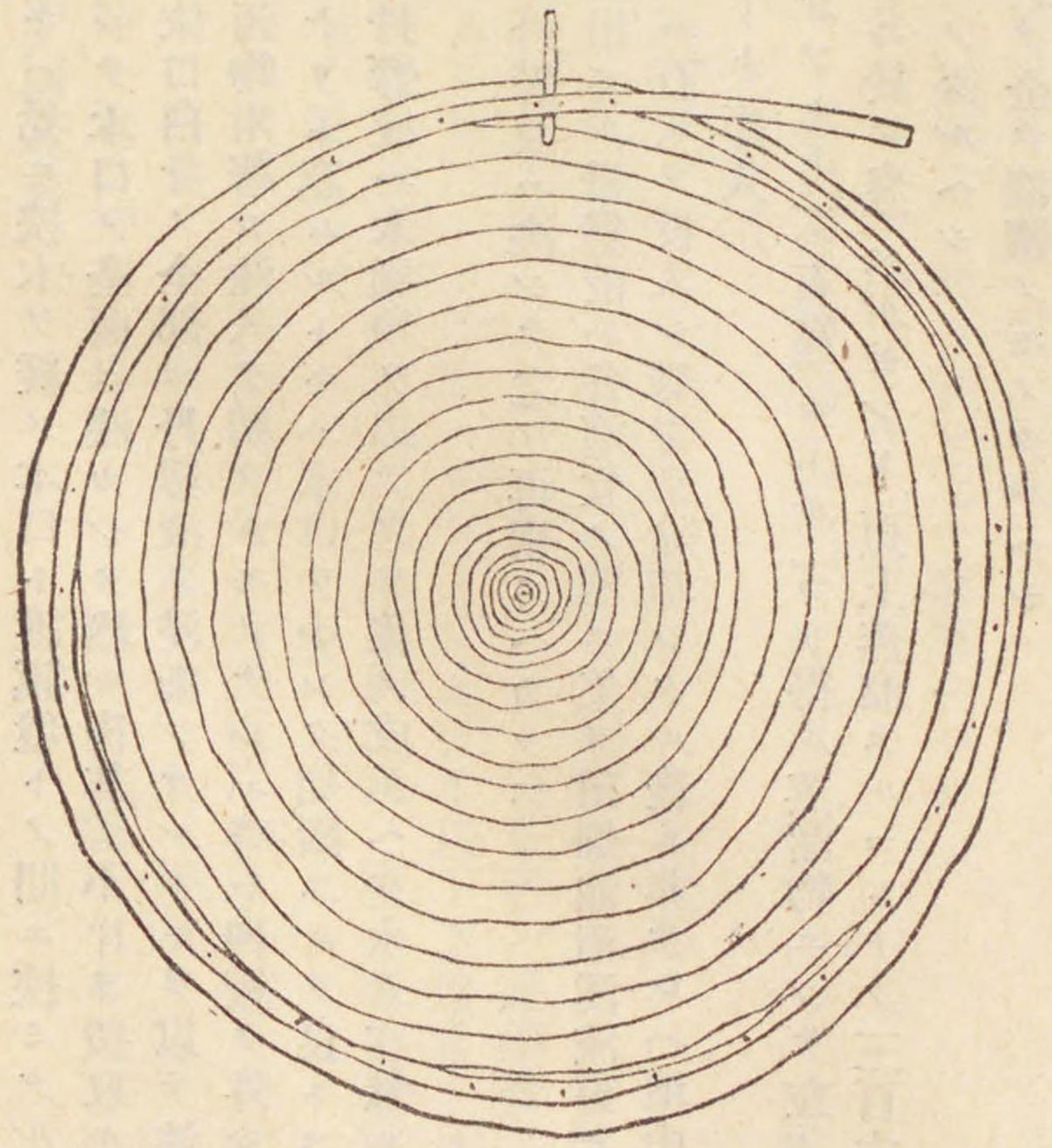
一、注入ニ用ウル「クレオソート」ハ石炭「タール」ヨリ得ル蒸溜物ニシテ左ノ各號ニ適合スルモノタルヘシ
一、攝氏百五十度以下ニ於テ參「ペルセント」以上蒸溜スルコトナク三百六十度ニ於テ殘溜物ハ參拾「ペルセント」以下ノモノタルヘシ
二、攝氏三十八度ニ於テ全ク液體ノモノタルヘシ
三、分溜各度ニ於テ透明ノモノタルヘシ
四、攝氏十五度半ニ於テ比重一・〇三乃至一・〇五ノモノタルヘシ
五、九「ペルセント」（容積）以上ノ「ターアシッド」ヲ含有スルモノタルヘシ
六、十五「ペルセント」以上三十「ペルセント」以下ノ「ナフタリン」ヲ含有スルモノタルヘシ
二、柱材ハ注入著手前充分乾燥セシムヘシ若蒸汽乾燥法ヲ施ス場合ハ汽壓ヲ加ヘ三十封度ノ壓力ヲ以テ三時間乃至五時間繼續シタル後、又熱氣乾燥法ヲ施ス場合ハ攝氏六十度乃至八十度ニ加熱シタル空氣ヲ流通

シ一晝夜以上經過シタル後成ルヘク風通シ惡シキ場所ニ約二晝夜以上積載シ置クモノトス

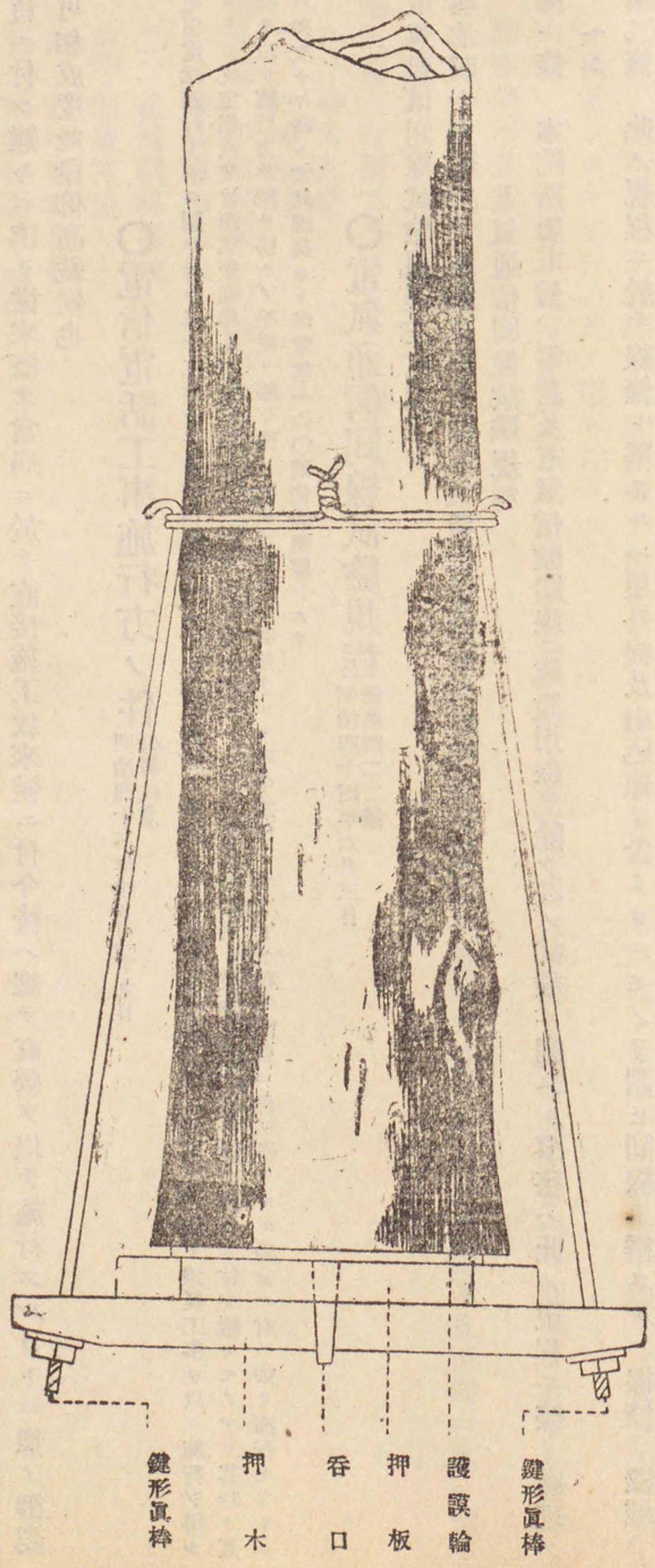
三、注入ノ際ハ充分罐内ノ空氣ヲ排除シ百封度乃至百五十封度ノ壓力ヲ以テ攝氏八十度ニ加熱シタル「クレオソート」液ヲ注入スヘシ

四、柱材ニ注入スル「クレオソート」液ノ注入量ハ柱材ノ品質ニ依リ異レトモ少クトモ柱材一立方尺ニ對シ三升以上ト爲スヘシ

甲圖



乙圖



○電信及電話施設工事直營施工ノ件（明治三十三年十一月七日鐵作第八八九號遞信大臣決裁）

私設電信規則及官廳用電信電話規程ニ依リ鐵道事業ノ專用ニ供スル爲メ私設電信規則第四條但書ノ電信及電話ヲ施設スルトキハ別ニ大臣ノ認可ヲ要セサルコトニ相成候處該工事ノ如キハ特別ノ技能ヲ要シ從テ競爭請負ニ付シ難キニ依リ從來概ネ當局ニ於テ直接施工致來候ニ付今後ハ總テ直營ヲ以テ施行スルコトニ豫メ御認可相成度此段仰高裁候也

○電信電話工事施行方ノ件（明治四十三年四月二十九日公報注意）

電信電話施行工事ニ關シテハ三十三年十一月鐵作第八八九號ヲ以テ直營ト決定セラレ居ルモ不便不尠ニ付場合ニ依リ請負工事ヲ以テ施行シ得ルコトニ改定相成度旨西部管理局長西管電第一九一號具申ニ對シ該達ノ主旨ハ其當時特別ノ技術ヲ要シ隨テ競爭請負ニ付シ難キモノアリ其時々直營ヲ以テ施行方承認ヲ得ルノ手數ヲ略シ豫メ認可ヲ得タル次第ナルモ現今適當ノ者アリテ競爭請負ニ付シ得ラルル場合ハ右ニ依リ施行セラルルハ差支ナキ義ト電氣課長ヨリ鐵電第一六〇號依命通牒シタリ

○電氣通信回線試驗規程（明治四十四年六月三日達第四二二號）

電氣通信回線試驗規程左ノ通定ム

明治四十二年二月達第一一七號電氣通信機回線試驗規程ハ廢止ス

電氣通信回線試驗規程

第一條　本院所屬電信、電話及電氣信號回線（建設用線ヲ除ク）ノ試驗ニ關スル事務ハ此ノ規程ニ據リ處理スヘシ

第二條　此ノ規程ニ於テ線條ト稱スルハ屋外線及引込線ヲ含ミタルモノヲ謂ヒ回線ト稱スルハ線條、機械、電池及地中導體等電流ノ通スル一全路ヲ謂フ

第三條　此ノ規程ニ於テ試驗驛及試驗區域ト稱スルハ鐵道管理局（以下單ニ局ト稱ス）長若ハ本院出張所（以下單ニ所ト稱ス）長ノ指定ニ依リ此ノ規程ノ電氣試驗ヲ行フ驛所及其ノ試驗擔當區域ヲ、通常驛ト稱スルハ指定外ノ驛所ヲ、單ニ驛ト稱スルハ回線ニ關係アル一般ノ驛所ヲ謂フ

第四條　局所長ハ其ノ局所所在驛及運輸事務所（以下單ニ事務所ト稱ス）若ハ鐵道管理局出張所（以下單ニ出張所ト稱ス）所在適宜ノ驛ヲ試驗驛ト定メ試驗區域ヲ指定シ此ノ規程ノ試驗ヲ行ハシムヘシ

局所長ハ必要ニ應シ前項以外ノ驛ヲ試驗驛ニ指定シ若ハ特ニ試驗驛員以外ノ職員ヲシテ此ノ規程ノ試驗ニ從事セシムルコトヲ得

第五條　局所長ハ試驗驛及試驗區域ヲ設定シ若ハ變更シタルトキハ其ノ都度之ヲ總裁ニ報告スヘシ但シ局報ニ掲載シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條　試驗區域ノ設定變更若ハ第十條第四號後段ノ指定ヲ爲スニ當リ鄰接地所管內ニ關係ヲ有スル箇所ハ關係局所長ニ於テ之ヲ協定スヘシ

第七條　試驗執行ノ爲線條ノ接地、切斷、環線、直通、交叉等ノ要求ヲ受ケタル驛ハ迅速且正確ニ其ノ要求ニ應スヘシ

第八條　試驗ヲ分テ左ノ二種トス

一、平常試驗

二、障碍試驗

第九條　平常試驗ハ回線平時ノ狀態ヲ檢測スルモノニシテ左記各號ノ試驗ヲ謂フ

一、線條導體抵抗

二、線條絕緣抵抗

三、回線電流

四、地中導體抵抗

五、電池良否ノ概況

第十條　線條導體抵抗、同絕緣抵抗ハ每三箇月一回試驗區域ニ拘ハラス左ニ該當ノ試驗驛ニ於テ之ヲ檢測スヘシ

一、回線ノ一端試驗驛ニ引込ミアルモノハ其ノ試驗驛

二、回線ノ兩端試驗驛ニ引込ミアルモノハ各其ノ試驗驛
三、回線ノ兩端共ニ試驗驛ニ引込ミナキモノハ該回線ノ引込ミヲ有スル試驗驛中其ノ最中央ニ近キ驛
四、試驗驛ニ引込ミナキ回線ニシテ一試驗區域內ニ屬スルモノハ其ノ擔當試驗驛、二試驗區域以上ニ跨ルモノハ所管局所長ノ指定シタル試驗驛

第十一條　前條第一號第二號ノ場合ハ回線ヲ構成セル線種ノ如何ヲ問ハス其ノ線條ノ終端迄檢測スヘシ但シ線條ノ狀態ニシテ之ヲ分割檢測スルノ必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
前條第三號ノ場合ハ其ノ回線ヲ兩分シ前項ニ準シ左右各別ニ檢測スヘシ
前條第四號ノ場合ハ便宜ノ方法ニ依リ檢測スヘシ

第十二條　前條ノ試驗ハ其ノ回線ニ接續シアル機械ヲ包含ノ儘執行スルコトヲ得但シ此ノ場合ハ其ノ旨第十二條ノ成績表ニ附記シ置クヘシ

第十三條　短距離ノ回線ニシテ其ノ狀態變化少キモノ又ハ試驗驛ニ引込ミナキモノハ局所長ニ於テ第十條ノ試驗回數ヲ減少シ又ハ之ヲ省略セシムルコトヲ得

第十四條　回線ノ電流ハ毎月一回第十條ノ試驗驛ニ於テ之ヲ檢測スヘシ但シ電話並信號回線及試驗驛ニ引込ミナキ電信回線ハ局所長ニ於テ適宜試驗回數ヲ減少シ又ハ之ヲ省略セシムルコトヲ得

第十五條　前條ノ試驗ハ閉電路式回線ニ在リテハ之ニ通スル電流ヲ檢測シ開電路式回線ニ在リテハ接續驛所ヲシテ電鍵ヲ按下セシメ之ニ通スル各電流ヲ檢測スヘシ但シ接續驛多數ノ回線ニ在リテハ其ノ幾分ヲ省略スルコトヲ得

第十六條　第十一條又ハ第十五條ノ試驗ヲ執行スル場合自働中繼器ノ裝置シアル回線ハ其ノ裝置シアル驛ヲ以テ回線ノ端驛ト看做ス

第十七條　第九條第一號乃至第三號ノ試驗ハ通信閑散ノ時ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第十八條　地中導體抵抗ハ毎二箇年一回以上濕氣少キ時ヲ選ヒ之ヲ檢測スヘシ

第十九條　電池良否ノ概況ハ回線毎ニ送信若ハ受信用等ノ區別ニ從ヒ各其ノ電池全數ニ就毎月一回之ヲ檢測スヘシ但シ蓄電池ハ本條ニ拘ラス必要ナル檢測ヲ爲スヘシ
通常驛ニ於ケル前項ノ試驗ハ局所長ニ於テ便宜當該驛ヲシテ之ヲ執行セシメ若ハ其ノ回數ヲ減少シ又ハ之ヲ省略セシムルコトヲ得

第二十條　回線ノ狀態ニ關シ特ニ調查ヲ要シ前各條ニ規定セルモノノ外尚他ニ試驗ノ必要アルトキハ隨時適宜ノ方法ニ依リ之ヲ執行スヘシ

第二十一條　第九條各號ノ試驗ニ於テ異狀ヲ認メタルトキハ之カ原因ヲ探究シ恢復ノ途ヲ圖ルヘシ

第二十二條　第九條ノ試驗成績ハ執行月日、天候等ト共ニ正確ニ記錄シ置クヘシ

第二十三條　障碍試驗ハ回線ニ障碍アルニ當リ適宜ノ方法ヲ以テ其ノ性質位置ヲ檢測スルモノヲ謂フ
前項ノ試驗ハ各擔當試驗驛ニ於テ之ヲ執行シ引込ミヲ有セサル試驗驛ノ擔當區域ニ對シテハ鄰接試驗驛（二試驗驛ノ中間ニ引込ミヲ有セサル試驗驛ノ擔當區域ヲ介在セル箇所ハ兩鄰試驗驛ヨリ該區域ニ至ル距離ヲ比較シ其ノ近キ方）ニ於テ之ヲ執行スヘシ
試驗驛ニ全ク引込ナキ回線若ハ引込ミアルモ其ノ試驗驛ヘ不通トナリ一時之ヲ活用セル回線ニ障碍ヲ生シ試驗驛ニ於テ檢測スルノ途ナキ場合ハ該回線接續驛中試驗驛ニ最近キ通常驛ニ於テ之ヲ檢測スヘシ

第二十四條　障碍試驗ヲ執行シ自驛ノ試驗執行區域內ニ障碍ヲ認メタル驛ハ至急報若ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ左ノ事項ヲ障碍地ノ所管局所長、事務所長、擔當通信區主任並關係驛ニ卽報スヘシ障碍ノ恢復シタル場合亦同シ

障碍ノ起リタル時
一、障碍ノ起リタル日時
二、障碍ニ罹リタル回線名
三、障碍ノ位置及種類
障碍ノ恢復シタル時
一、恢復シタル日時

二、恢復シタル回線名

通常驛ニ於テ障碍試驗ヲ執行シタル場合ハ前項ノ外擔當試驗驛ヘモ同樣ノ報告ヲ爲スヘシ

第二十五條 障碍地前後ノ兩驛各其ノ所管ヲ異ニシ障碍ノ場所何レノ所管ニ屬スルヤ明瞭ナラサル場合ハ鄰接關係局所長及事務所長若ハ出張所長竝擔當通信區主任ニモ前條ノ報告ヲ爲スヘシ

第二十六條 回線ニ障碍アルニ當リ其ノ障碍ノ自驛內ニ在ルコトヲ認メタル驛ハ直ニ恢復ノ手配ヲ爲スト同時ニ其ノ旨ヲ附記シ第二十四條ノ報告ヲ爲スヘシ

第二十七條 二箇所以上ノ試驗驛ニ於テ障碍試驗ヲ執行スヘキ回線ニ對シ之ヲ執行シタル結果其ノ障碍自驛ノ試驗執行區域內ニ在ラサルコトヲ確メタル驛ハ便宜ノ方法ニ依リ其ノ旨關係試驗驛ニ急報スヘシ

第二十八條 一回線中二箇所以上障碍ニ罹リ後其ノ一部恢復シタルトキハ第二十四條ニ準シ何線ノ何所間（又ハ何驛迄）全通ト報告スヘシ

第二十九條 雷鳴ノ際本線ヲ接地又ハ直通ト爲サムトスルトキハ豫メ其ノ旨擔當試驗驛若ハ關係ノ驛ニ通知スヘシ通知ノ暇ナキトキハ其ノ儘施行シ復舊シタル後其ノ旨施行時間ト共ニ擔當試驗驛ニ通報スヘシ

第三十條 通信上特ニ異狀ナキモ電氣作用其ノ他ニ不完全ナル箇所アルコトヲ發見シタル驛ハ直ニ之ヲ擔當通信區主任ニ報告スヘシ

附 則

第三十一條 局所長ハ豫メ必要ノ試驗驛ヲ指定シ回線ニ障碍ヲ生シタル場合ニ於テ關係ノ向ト協議シ臨機回線又ハ通信法式ヲ變更シ及回線ヲ活用スル等通信上適當ノ措置ヲ擔任セシメ指定驛ニ於テ措置ヲ爲ス能ハサル回線（不通ノ爲措置不能トナリタル場合ヲ含ム）ニ對シテハ便宜ノ驛ヲシテ臨機之ヲ執行セシムヘシ

前項ノ措置ヲ爲シタル驛ハ其ノ事由、變更方法等ヲ所管局所長、事務所長若ハ出張所長ニ電報スヘシ

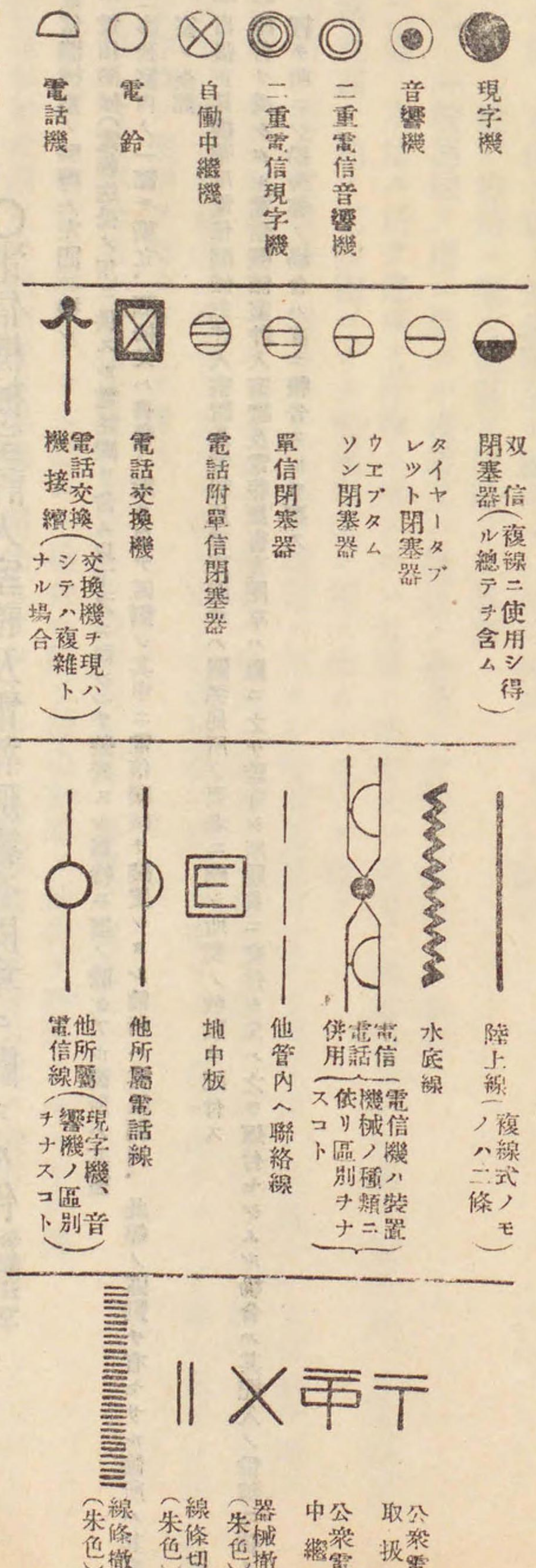
○電信電話回線名竝其接續驛所名ノ件 明治四十二年五月二十八日 達第四四一號

本院所屬（建設部所屬ヲ除ク）電信電話回線名竝ニ其接續驛所名左記ノ通相定ム

左記（省略）

○電氣通信回線圖符標凡例 明治四十二年五月四日 公報注意

電氣通信回線圖符標凡例左ノ通リ定メラレタリ



附記 新設スヘキ回線ハ前記ノ凡例ニ據リ朱色ヲ以テ圖示スルコト

○電信機械室許入ニ關スル件 明治四十三年四月二十七日 達第三六一號

電信機械室ハ電信機械室許入室證ヲ携帶スル者若クハ驛長（驛長ノアラサル個所ハ主務者以下之ニ同シ）ノ許諾ヲ得タル當該驛所職員ノ外入室スルコトヲ得ス

但シ遞信省又ハ統監府ヨリ派遣セラレタル監督官吏規定ノ證票ヲ示シ公衆電信取扱所ノ電信機械室ニ入室スル場合ハ此限ニ在ラス

電報取扱驛所ノ取扱又ハ保管中ニ係ル電報原書ハ電報原書査閲章ヲ携帶スル者ニアラサレハ之ヲ査閲スルコトヲ得ス

但シ遞信省又ハ統監府ヨリ派遣セラレタル監督官吏規定ノ證票ヲ示シ公衆電報原書ヲ査閲スル場合ハ此限ニ在ラス

電信機械室許入室證、電報原書査閲章ヲ示シ入室又ハ査閲ヲ求ムル者アル時ハ當該驛長ハ別ニ交付スル見合印鑑ニ照合シ相違ナキコトヲ確メタル上其要求ニ應スヘシ

○電信機械室許入室證及電報原書査閲章ニ關スル件 明治四十三年四月二十七日 公報注意

一電信機械室ノ解釋ハ左記ニ據ル

一電信機械（電報送受ノ用ニ供スル電話機ヲ含ム以下之ニ同シ）ヲ裝置スル爲特ニ室ノ設ケアル箇所ハ其室

二事務室内ノ一部ヲ衝立、隔柵又ハ書箱ノ類ヲ以テ區劃シ其中ニ電信機械ヲ裝置シタル箇所ハ其區劃内、此等ノ區劃ヲ有セサル箇所ハ其事務室ノ全部

一出張吏員携帶用電信機械室許入室證及電報原書査閲章ハ關係局所ノ要求ニ應シ所要ノ枚數ヲ配付ス

一配付ヲ受ケタル電信機械室許入室證及電報原書査閲章ハ嚴ニ之ヲ監守シ所屬員ニ交付シ又ハ之ヲ返付セシムル場合ハ其記入ノ番號ニ依リ受授ヲ明ニシ紛失等ノ場合ハ直ニ報告スルヲ要ス

第二章 電力

○電氣事業法 明治四十四年三月二十九日 法律第五五號

第一條 本法ニ於テ電氣事業ト稱スルハ左ニ揭クルモノヲ謂フ

一 一般ノ需用ニ應シ電氣ヲ供給スル事業

二 一般運送ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道ノ動力ニ電氣ヲ使用スル事業

第二條 本法ニ於テ電氣工作物ト稱スルハ電氣ノ供給又ハ使用ノ爲施設スル水路、貯水池、器具機械、電線路及其ノ他ノ工作物ニシテ電氣事業ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

前項ニ於テ電線路ト稱スルハ電氣ノ傳送ニ用キル電氣導體及之ヲ支持シ又ハ保藏スル工作物ヲ謂フ

第三條 電氣事業ヲ營マムトスル者ハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 電氣事業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケタル後ニ非サレハ工事ニ著手シ又ハ電氣工作物ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第五條 電氣事業者ハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ其ノ事業ヲ開始スヘシ

主務大臣ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限リ前項期間ノ伸長ヲ許可スルコトヲ得

電氣事業者指定ノ期間内ニ事業ヲ開始セサルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第六條 主務大臣ハ公益上必要ナリト認メタルトキハ電氣事業者ニ對シ料金ノ制限其ノ他電氣供給ノ條件ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七條 電氣事業者ハ電氣工作物ノ施設ニ關スル測量又ハ工事ノ爲必要アルトキハ他人ノ土地ニ立入ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ行政官廳ノ許可ヲ受ケ且少クトモ五日前ニ市町村長ニ通知シ市町村長ハ之ヲ告示シ又ハ其ノ旨土地ノ占有者ニ通知スヘシ

電氣事業者ハ電氣工作物ノ修理又ハ巡視ノ爲必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ工作物ヲ施設セル他人ノ土地又ハ建造物ニ立入ルコトヲ得但シ日沒ヨリ日出迄ノ間ニ於テハ危險急迫ノ場合ニ非サレハ占有

者ノ意ニ反シテ邸宅其ノ他建造物ニ立入ルコトヲ得ス

第八條　電氣事業者ハ電線路ノ施設及保守ニ障害ヲ及スヘキ竹木其ノ他ノ植物ヲ伐除又ハ移植スルノ必要アル場合ニ於テ其ノ所有者ト協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ之ヲ伐除シ又ハ移植スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ豫メ其ノ旨所有者ニ通知スヘシ

危險急迫ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ前項ノ規定ニ拘ラス直ニ竹木其ノ他ノ植物ヲ伐除又ハ移植スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ遲滯ナク其ノ旨行政官廳ニ屆出テ且其ノ所有者ニ之ヲ通知スヘシ

第九條　電氣事業者ハ河川、橋梁、溝渠、道路、堤防其ノ他公共ノ用ニ供セラレタル土地ノ地上又ハ地中ニ電線路ヲ施設スル必要アルトキハ其ノ效用ヲ妨ケサル限度ニ於テ管理者ノ許可ヲ受ケテ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ管理者ノ定ムル所ニ依リ使用料ヲ納ムヘシ

管理者タル地方行政廳ニ於テ正當ノ事由ナクシテ第一項ノ許可ヲ拒ミタルトキ又ハ管理者ノ定メタル使用料ノ額ヲ不相當ナリトスルトキハ主務大臣ハ電氣事業者ノ申請ニ依リ使用ヲ許可シ又ハ使用料ノ額ヲ定ムルコトヲ得

第十條　電氣事業者ハ必要アルトキハ現在ノ使用方法ヲ妨ケサル限度ニ於テ他人ノ土地ノ地上ノ空間若ハ地中ニ電線路ヲ施設シ又ハ建造物ノ存在セサル他人ノ土地ニ電線ノ支持物ヲ建設スルコトヲ得

電氣事業者前項ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用セムトスル場合ニ於テ其ノ所有者及占有者ト協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ使用ノ範圍ヲ定メ豫メ地方長官ノ許可ヲ受ケテ其ノ工事ニ著手スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ少クトモ五日前ニ其ノ旨土地ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第十一條　電線路ヲ施設シタル土地ノ近接地又ハ前條ニ依リ電線路ヲ施設シタル土地ノ所有者又ハ占有者ハ土地ノ使用方法ヲ變更スル爲必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ電氣事業者ニ對シ障害ノ豫防又ハ除却ニ必要ナル方法ヲ施スコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ工事ニ要スル費用ハ電氣事業者ノ負擔トス但シ其ノ工事ヲ爲シタル後正當ノ事由ナクシテ豫定ノ變更ヲ爲サヽルトキハ請求者ノ負擔トス

第十二條　第七條、第八條及第十條ノ場合ニ於テ現ニ生シタル損失ハ電氣事業者之ヲ補償スヘシ

前項ノ補償金額ハ許可ヲ爲シタル行政官廳ニ於テ之ヲ裁定ス裁定ニ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月內ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

行政官廳ハ必要ト認ムルトキハ電氣事業者ヲシテ損失ノ補償ニ充ツヘキ金額ヲ供託セシムルコトヲ得

第十三條　電氣事業者ハ地中電氣工作物ヲ施設スル場合ニ於テ他人ニ屬スル地中電氣工作物ノ位置ヲ變更スル必要アルトキハ當該工作物ノ效用ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ位置ヲ變更シ又ハ其ノ工作物ノ所有者ヲシテ其ノ變更ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條　主務大臣ハ工事上已ムヲ得スト認メタル箇所ニ限リ電氣事業者ニ對シ電線路ノ共用ヲ命スルコトヲ得

第十五條　電氣工作物相互間及電氣工作物ト其ノ他ノ工作物トノ間ニ於ケル障害ヲ防止スル爲必要ナル施設ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　前三條ニ依ル工事ニ關スル費用ノ負擔其ノ他ノ條件ハ命令ヲ以テ定ムルモノノ外當事者間ノ協議ニ依ル協議調ハサルトキハ主務大臣之ヲ裁定ス

第十七條　第一條ニ揭クルモノノ外電氣ヲ供給又ハ使用スル事業ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第十八條　電氣工作物ヲ損壞シ之ニ物品ヲ接觸シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ電氣ノ供給又ハ使用ヲ妨害シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十九條　電氣事業者ノ承諾ヲ得スシテ濫ニ電氣工作物ノ施設ヲ變更シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケテ爲スヘキ行爲ヲ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ爲シタル者又ハ第六條ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 電氣事業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十二條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ電氣事業ヲ營ム者又ハ本法施行前ニ於テ電氣事業經營ノ許可ヲ受ケタル者ハ第三條ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

○電氣事業法施行期日ノ件 明治四十四年八月二十九日勅令第二三五號

電氣事業法ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○電氣事業法施行規則 明治四十四年九月五日遞信省令第二五號

電氣事業法施行規則左ノ通定ム

電氣事業法施行規則

目 次

第一章 事業ノ創設及變更
第二章 工事施行
第三章 土地立入、植物ノ伐除移植、土地使用、地中電氣工作物位置變更竝裁定
第四章 主任技術者
第五章 檢査
第六章 業務
第七章 監査
第八章 罰則
附 則

電氣事業法施行規則

第一章 事業ノ創設及變更

第一條 電氣事業經營ノ許可申請ニハ左ノ書類ヲ具備スヘシ

一 起業目論見書
二 工事設計書
三 工事費概算書（第一號樣式ニ依リ調製スヘシ）
四 事業上ノ收支概算書（第二號樣式ニ依リ調製スヘシ）

電氣供給事業ニ在リテハ別ニ供給區域內各市區町村別ノ需用見込高ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 水力ヲ原動力ニ使用セムトスルモノハ發電水力ノ使用ニ關スル當該官廳ノ許可書竝命令書ノ謄本、未タ其ノ許可ヲ得サルモノハ其ノ願書ヲ當該官廳ニ提出シタルコトヲ證明セル書面
二 他ヨリ供給セラルル電力ニ依リ電氣事業ヲ經營セムトスルモノハ其ノ供給者トノ契約書（供給地點、送電ノ責任分界、供給電力、供給時間、契約期間其ノ他供給上ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス）ノ謄本
三 會社ヲ設立セムトスルモノニ在リテハ定款ノ謄本、組合事業ニ在リテハ其ノ契約書ノ謄本
四 既設會社ノ事業ニ在リテハ現ニ電氣事業ノ經營ヲ目的トスルモノヲ除クノ外其ノ會社登記簿ノ謄本及定款竝株主總會若ハ社員ノ電氣事業經營ニ關スル議事及決議錄ノ謄本
五 公共團體ノ事業ニ在リテハ其ノ團體ノ電氣事業經營ニ關スル決議書ノ謄本

六 電氣鐵道（電氣事業法第一條第二號ノ鐵道及軌道ヲ謂フ以下之ニ同シ）事業ニ在リテハ私設鐵道假免許狀ノ謄本、輕便鐵道免許狀ノ謄本、軌道敷設特許及營業許可狀ノ謄本但シ命令書アルモノハ各其ノ謄本、未タ其ノ免許又ハ特許ヲ得サルモノハ其ノ願書ヲ當該官廳ニ提出シタルコトヲ證明セル書面

第二條 電氣供給事業ノ起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 商號又ハ名稱及主タル事務所ノ設置地

二 目的電燈又ハ電力供給ノ區別

三 電氣供給事業以外ノ事業ヲ兼營セムトスルモノハ其ノ事業ノ種類ヲ附記スヘシ

四 供給區域特殊ノ事由アル場合ヲ除クノ外市區町村ノ行政區劃ニ依リ之ヲ設定スヘシ

平面圖供給區域ノ境界、郡市區町村又ハ大字界及其ノ名稱、主要ナル市街、村落、道路、鐵道、軌道、山川、港灣竝要塞地帶ヲ記載スヘシヲ添附スヘシ

四 事業資金ノ總額及其ノ出資ノ方法電氣供給事業以外ノ事業ヲ兼營セムトスルモノハ各其ノ資金ヲ區分シテ記載スヘシ

第三條 電氣鐵道事業ノ起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 商號又ハ名稱及主タル事務所ノ設置地

二 電氣鐵道ノ種類私設鐵道、輕便鐵道、軌道等ノ區別ヲ記載スヘシ

電氣鐵道以外ノ事業ヲ兼營セムトスルモノハ其ノ事業ノ種類ヲ附記スヘシ

三 電氣鐵道線路ノ起點及終點竝其ノ亘長

平面圖縮尺凡二万分ノ一（市街地ノ部分ハ別ニ縮尺凡二千分ノ一ノモノヲ添附スヘシ）トシ電氣鐵道ノ位置（單軌道、複軌道ノ別）其ノ經過スル道府縣郡市區町村ノ境界及名稱、地勢、停車場ノ位置、名稱、主要ナル市街、村落、電氣鐵道ノ位置ヨリ凡二町以内ニ在ル他ノ鐵道又ハ軌道ノ位置、電氣鐵道ノ位置ヨリ凡一町以内ニ在ル架空弱電流電線路ノ位置、單線式其ノ他電路ノ一部トシテ大地ヲ使用スル方式ノ電氣鐵道ニ在リテハ電氣鐵道ノ位置ヨリ凡九町以内ニ在ル水道管、瓦斯管、地中電線其ノ他地中施設金屬管ノ位置竝電氣鐵道ノ距離ヲ半哩毎ニ記載スヘシヲ添附スヘシ

四 事業資金ノ總額及其ノ出資ノ方法電氣鐵道事業以外ノ事業ヲ兼營セムトスルモノハ各其ノ資金ヲ區分シテ記載スヘシ

第四條 工事設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 發電所、變電所、蓄電所ノ名稱及位置

他ヨリ供給セラルル電力ニ依リ電氣事業ヲ經營セムトスルモノニ在リテハ其ノ供給者名及供給ヲ受クル地點

二 發電所、變電所、蓄電所相互間ヲ連絡スル送電線路竝發電所、變電所、蓄電所ヨリ供給區域又ハ電氣鐵道線路ニ達スル電線路ノ經過地名道府縣郡市區町村名ヲ記載スヘシ

平面圖縮尺五万分ノ一以上トシ發電所、變電所、蓄電所ノ位置及電線路ノ中心線竝其ノ經過スル道府縣郡市區町村ノ境界及名稱、地勢、主要ナル市街、鐵道、軌道ノ關係竝電線路ノ距離ヲ記載スヘシヲ添附スヘシ

三 發電所、變電所、蓄電所相互間ノ送電系統

四 電氣方式各發電所、變電所、蓄電所及送電線路毎ニ區別シ特別高壓、高壓、低壓、直流、交流、相、二線式、三線式其ノ他ノ方式ヲ記載スヘシ及送電線（送電線ナキ場合ニハ配電線）ノ最大電壓

五 「キロワット」數常用及豫備ノ別、各發電所、變電所、蓄電所ノ出力（蓄電池ヲ使用スル場合ニ在リテハ其ノ放電容量、放電時間及箇數）ヲ記載シ又他ヨリ供給セラルル電力ニ依リ電氣事業ヲ經營セムトスルモノニ在リテハ其ノ契約セル供給電力、供給時間ヲ記載スヘシ

六 電線路ノ種類架空線、地中線ノ別ヲ記載スヘシ

七 電氣鐵道事業ニ在リテハ電氣鐵道方式直流、交流、相、電車線ノ電壓、架空單線式、架空複線式、暗渠單線式、暗渠複線式、第三軌條式、表面接觸式其ノ他方式ノ區別ヲ記載スヘシ

八 原動力汽力、瓦斯力、電動力、其ノ他原動力ノ別及其ノ馬力數、水力ニ在リテハ河川名、使用水量、有效落差、理論馬力數ヲ記載スヘシ

第五條 電氣事業經營許可申請書ハ之ヲ遞信大臣ニ提出シ同時ニ其ノ副本ヲ事業地ヲ管轄スル地方長官及遞信管理局長ニ提出スヘシ但シ事業地カ二以上ノ管内ニ跨ル場合ニハ副本ニ添附スヘキ圖面ハ各管内ノ關係部分ノミヲ具シテ提出スルコトヲ得

第六條 電氣事業經營ノ許可ヲ得タル後起業目論見書又ハ工事設計書中左ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ關係ノ書類圖面ヲ具シ遞信大臣ニ許可ヲ申請スヘシ

一 目的

二　供給區域
三　電氣鐵道ノ起點、終點及經過地市街地ニ在リテハ布設道路其ノ他ノ地ニ在リテハ道府縣郡市區町村
四　發電所、變電所、蓄電所ノ位置、供給ヲ受クル地點及其ノ供給者
五　電線路經過地及送電系統
六　第四條第四號乃至第八號ノ事項
第十二條ニ依リ工事施行ノ認可ヲ得タル後ニ於テ第四條第四號乃至第七號ノ事項ノミヲ變更セムトスル場合ハ第十八條ノ規定ニ依ル
第七條　電氣事業者起業目論見書又ハ工事設計書中前條第一項ニ掲クル以外ノ事項ヲ變更シタルトキ又ハ第一條第一項第三號第四號若ハ同條第二項ニ掲ケタル書類ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク遞信大臣ニ届出ツヘシ
第八條　電氣事業者其ノ事業ヲ讓リ渡サムトスルトキハ左ノ書類ヲ具シ當事者ヨリ遞信大臣ニ認可ヲ申請スヘシ
一　讓渡契約書ノ謄本
二　讓渡人又ハ讓受人カ會社ナルトキハ讓受渡ニ關スル株主總會又ハ社員ノ議事及決議錄謄本
三　讓受人カ會社發起人又ハ電氣事業者ニ非ラサル會社ナルトキハ定款及會社登記簿謄本
第九條　前條ノ讓渡ヲ終了シタルトキハ遲滯ナク當事者ヨリ遞信大臣ニ届出ツヘシ
電氣事業ヲ相續シタル者ハ戸籍謄本ヲ添ヘ前項ノ規定ニ準シ届出ツヘシ
第十條　電氣事業者タル會社カ合併セムトスルトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス
第十一條　第六條乃至第十條ニ依ル申請及届出ニ關シテハ第五條ノ規定ヲ準用ス

第二章　工事施行

第十二條　電氣事業經營ノ許可ヲ得タル者ハ指定ノ期間内ニ遞信大臣ニ工事施行ノ認可ヲ申請スヘシ
前項ノ申請書ハ電氣事業經營許可申請書ト同時ニ之ヲ提出スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第六條第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス
本條ノ申請ハ工事施行地ヲ管轄スル遞信管理局長ヲ經由スヘシ
第十三條　工事施行認可申請ニハ左ノ書類及圖面ヲ具備スヘシ
一　工事設計明細書
二　實測圖
三　工事落成期限書工事ヲ數部ニ區分スル場合ニハ各部ノ工事毎ニ落成期限ヲ記載スヘシ
四　工費豫算書第三號樣式ニ依リ調製スヘシ
第十四條　電氣供給事業ノ工事設計明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一　發電所内設備發電所ノ名稱及位置ヲ掲ケ一發電所毎ニ記載スヘシ
(イ)發電所ノ出力
(ロ)發電機直流交流ノ別「キロワツト」數又ハ「キロヴオルトアムペア」數(交流ニ在リテハ力率ヲ記載スヘシ)、電壓、相、周波數、廻轉數、結線法、勵磁法、箇數(常用ト豫備トノ別)
(ハ)變壓器「キロヴオルトアムペア」數、一次電壓、二次電壓、相、周波數、結線法、冷却法、箇數(常用ト豫備トノ別)
(ニ)電動發電機、廻轉變流機、周波數變換機種類、直流交流ノ別、「キロワツト」數、電壓(交流ニ在リテハ電流ヲモ)廻轉數、箇數(常用ト豫備トノ別)
(ホ)蓄電池種類、放電時間、放電容量、箇數
(ヘ)保安裝置種類、構造ノ大要(發電機、母線、變壓器、送電線等ノ保安裝置)
機械器具ノ裝置及電線ノ接續ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ
二　送電線路一電線路毎ニ記載スヘシ
(イ)電氣方式直流、交流、相、線式　及最大電壓
(ロ)架空電線路ノ構造

電線線條數、太サ、電線及被覆絶縁物ノ種類、電線地表上ノ平均ノ高サ、電線相互ノ間隔、燃架ノ方法
支持物平均柱間距離、最大柱間距離、木柱（木材ノ種類別）、鐵柱及鐵塔ノ概數竝其ノ構造ノ大要
碍子種類、大サ、試驗電壓及試驗時間
其ノ他構造ノ大要柱間距離ノ大ナル箇所又ハ他ノ工作物トノ關係上施設スヘキ工事ノ構造等
電線路ノ亘長ヲ附記スヘシ
（ハ）地中電線路ノ構造
電線線條數、種類及構造、被覆絶縁物ノ種類、心線ノ種類、數及太サ
布設方法暗渠、線渠、直接埋設等ノ別ニ依ル布設方法ノ大要
其ノ他構造ノ大要地中函、接續函等ノ構造竝他ノ工作物トノ關係上施設スヘキ工事ノ構造等
電線路ノ亘長ヲ附記スヘシ
（ニ）保安裝置地線、避雷器等ノ構造大要、保安上必要ナル電話設備（施設箇所、電線及被覆絶縁物ノ種類、太サ、回線數、燃架ノ方法）
送電線路ノ構造ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

三　變電所内設備變電所ノ名稱及位置ヲ掲ケ一變電所毎ニ記載スヘシ
（イ）變電所ノ出力
（ロ）變壓器發電所設備ノ（ハ）ニ準ス
（ハ）電動發電機、迴轉變流機、周波數變換機發電所設備ノ（ニ）ニ準ス
（ニ）蓄電池發電所設備ノ（ホ）ニ準ス
（ホ）保安裝置種類及構造ノ大要
機械器具ノ裝置及電線ノ接續ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

四　蓄電所内設備蓄電所ノ名稱及位置ヲ掲ケ一蓄電所毎ニ記載スヘシ
（イ）蓄電池發電所内設備ノ（ホ）ニ準ス
（ロ）昇壓機「キロワット」數、電壓、迴轉數、箇數及其ノ附屬機器
（ハ）保安裝置種類及構造ノ大要
機械器具ノ裝置及電線ノ接續ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

五　他ヨリ供給セラルル電力ニ依リ電氣事業ヲ經營セムトスルモノニ在リテハ受電設備電力ノ供給ヲ受クル地點ノ名稱及位置ヲ掲ケ一地點毎ニ記載スヘシ若其ノ地點カ發電所、變電所又ハ蓄電所内ナルトキハ發電所内設備、變電所内設備又ハ蓄電所内設備ノ項ニ併記スヘシ
（イ）供給電力
（ロ）送電上ノ責任ノ分界トナルヘキ開閉器又ハ其ノ他ノ設備
（ハ）保安裝置種類及構造ノ大要
電線ノ接續及責任ノ分界ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

六　配電設備
（イ）電氣方式直流、交流、相、線式及電壓
（ロ）架空電線路ノ構造
電線電線及被覆絶縁物ノ種類（高壓及低壓別）
支持物平均柱間距離、木柱（木材ノ種類別）鐵柱及鐵塔ノ概數
其ノ他構造ノ大要
電線路ノ亘長ヲ高壓低壓ニ區別シテ附記スヘシ
（ハ）地中電線路ノ構造
電線種類、心線及被覆絶縁物ノ種類（高壓及低壓別）

布設方法暗渠、線渠、直接埋設等ノ別ニ依ル布設方法ノ大要

其ノ他構造ノ大要變壓函、配電函、接續函及其ノ他地中函ノ構造

(ニ)變壓器一次電壓、二次電壓、相

(ホ)保安裝置種類及構造ノ大要

工事設計明細書ニハ原動力ノ種類ニ從ヒ左記各號ノ一ニ該當スル事項ヲ記載セル原動力設計書ヲ添附スヘシ

一　水力設計

(イ)使用河川(又ハ湖沼)名

(ロ)流水量使用河川(又ハ湖沼)ノ渇水量、實際ニ使用セムトスル水量　落差及馬力數取入口及放水路間ノ高低差、落差ノ損失、有效落差、理論馬力數

(ハ)引水法取入口ヨリ放水口ニ至ル引水方法ノ概要

(ニ)水路工作物堰堤、取入口及制水門、隧道、開渠、木樋、水路橋、水路管等、水槽、放水路、水壓管(保安裝置、水壓母管、吸出管等ヲモ記載スヘシ)、沈砂池、土砂吐、餘水路其ノ他雜工事等ノ構造、材料及施工方法但シ簡單ナル工事ニシテ圖面ノミヲ以テ説明シ得ルモノハ適宜之ヲ省略スルコトヲ得、計算式ヲ以テ計算シタルモノハ之ヲ附記スヘシ

(ホ)貯水池容量、堰堤ノ構造、材料及施工方法、地形、地質等

(ヘ)水車種類、馬力數、廻轉數、箇數(常用ト豫備トノ別)　及調速機種類

水路及貯水池ニ關シテハ別ニ實測平面圖縮尺凡六千分ノ一以上實測縱斷面圖長サ凡六千分ノ一以上高サ三百分ノ一以上　實測橫斷面圖及

局部構造圖面縮尺凡百分ノ一以上ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

二　汽力設計

(イ)汽罐種類、汽壓、蒸發量(一時間ニ付)、火爐面積、加熱面積、箇數(常用ト豫備トノ別)

(ロ)汽機種類、馬力數、廻轉數、箇數(常用ト豫備トノ別)、調速機ノ種類

(ハ)給水設備喞筒ノ種類、給水量、箇數(常用ト豫備トノ別)、原動機ノ種類、馬力數及箇數

(ニ)凝汽器種類、箇數及其ノ附屬機器ノ種類、箇數、馬力數

(ホ)附屬機器溫水器、節炭器、通風器等ノ種類、箇數、大サ又ハ馬力數

(ヘ)煙突構造、材料、口徑、高サ

機械器具ノ裝置ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

三　瓦斯力設計石油其ノ他之ニ類スルモノヲ使用スル場合ハ之ニ準ス

(イ)瓦斯發生器種類、燃料ノ種類、馬力數、箇數(常用ト豫備トノ別)

(ロ)洗滌器種類、箇數　及瓦斯溜ノ大サ

(ハ)機關種類、馬力數、廻轉數、箇數(常用ト豫備トノ別)、點火裝置ノ種類、調速機ノ種類

(ニ)附屬機器種類、箇數

機械器具ノ裝置ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

第十五條　電氣鐵道事業ノ工事設計明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　發電所内設備前條第一項第一號ニ準ス

二　送電線路前條第一項第二號ニ準ス

三　變電所内設備前條第一項第三號ニ準ス

四　蓄電所内設備前條第一項第四號ニ準ス

五　他ヨリ供給セラルル電力ノ受電設備前條第一項第五號ニ準ス

六　饋電線路

（イ）電氣方式直流、交流相、線式及電壓

（ロ）架空饋電線路ノ構造

電線電線及被覆絕緣物ノ種類（高壓及低壓別）

支持物平均柱間距離、木柱（木材ノ種類別）、鐵柱、鐵塔ノ槪數

其ノ他構造ノ大要

（ハ）地中饋電線路ノ構造

電線種類、心線及被覆絕緣物ノ種類（高壓及低壓別）

布設方法暗渠、線渠、直接埋設等ノ別ニ係ル布設方法ノ大要

其ノ他構造ノ大要變壓函、配電函、接續函及其ノ他地中函ノ構造

饋電線路ノ構造ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

七　電車線路及軌道

（イ）電氣鐵道方式第四條第七號ニ準ス

（ロ）電車線路及軌道ノ構造

電車線（架空式ノ場合）種類、形狀、太サ、亘長、延長、線間距離、電線吊架法、區劃法

支持物（架空式ノ場合）平均柱間距離、木柱（木材ノ種類別）、鐵柱等ノ槪數（側柱、中央柱ノ別）

軌道亘長（單複軌道ノ別）、延長、軌間、最大勾配、最小半徑、軌條ノ重量、形狀、接續法、「ボンド」及補助線ノ種類、太サ、施設方法

第三軌條式、暗渠式、表面接觸式ニ在リテハ其ノ施設方法

電氣信號裝置（弱電流ニ依ルモノヲ除ク）

電車線路竝軌道ノ構造ハ別ニ局部圖面及縱斷面圖ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

工事設計明細書ニハ原動力ノ種類ニ從ヒ前條第二項ニ準シ調製セル原動力設計書竝左ノ事項ヲ記載セル車輛設計書ヲ添附スヘシ

一　電氣機關車重量、電動機ノ馬力數及箇數、制動機ノ種類、車臺數

二　電車

（イ）客車重量、乘車人員、電動機ノ馬力數及箇數、制動機及救難器ノ種類、車臺數（「ボギー」車、四輪車等ノ別）

（ロ）貨車重量、積載量電動機ノ馬力數及箇數、制動機及救難器ノ種類、車臺數

三　附隨車重量、乘車人員（貨車ナレハ積載量）車臺數

車輛內電線ノ接續及車輛ノ構造ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

電氣鐵道ノ直接附帶設備トシテ發電所、變電所、蓄電所、開閉所及車庫構內、軌道ニ沿ヒ建設スル電柱又ハ軌道ニ沿ヒ設置スル保線、運輸係員詰所內等ニ於テ電燈又ハ電力ヲ使用セムトスルモノニ在リテハ使用區域及「ワット」數ヲ記載シタル書面ヲ添附シ前各項ニ揭クル書類中ノ各事項ニ其ノ旨ヲ明記スヘシ

第十六條　實測圖ハ左ノ區別ニ依リテ調製スヘシ

一　送電線路實測平面圖縮尺凡二千分ノ一トシ發電所、變電所、蓄電所、開閉所ノ位置及電線路ノ中心線竝其ノ經過スル道府縣郡市區町村及附近町村ノ境界及名稱、地勢、電柱地表上一倍以內ニ於ケル他ノ電線路及鐵道、軌道、道路、要塞地トノ關係竝電線路ノ距離ヲ一里毎ニ記載スヘシ

二　配電線路實測平面圖（各供給區域毎ニ記載スヘシ）縮尺凡二千分ノ一トシ發電所、變電所、蓄電所、開閉所ノ位置、電線路ノ中心線及其ノ經過スル郡市區町村及附近町村ノ境界、名稱、供給區域ト近接郡市區町村トノ境界、區域內郡市區町村ノ境界及名稱、鐵道、軌道、道路其ノ他ノ地勢、他ノ電線路竝要塞地トノ關係ヲ記載スヘシ」

三　饋電線路、電車線路及軌道實測平面圖縮尺凡二萬分ノ一トシ（市街地ノ部分ハ別ニ二千分ノ一ノモノヲ添附スヘシ）、饋電線、電車線及電氣鐵道ノ位置（單軌道、複軌道ニ區別シ待避線ヲモ記入スヘシ）、亘長、軌道ノ近傍竝其ノ經過スル道府縣郡市區町村ノ境界及名稱、地勢、停車場ノ位置、名稱、道路ノ幅員、他ノ鐵道若ハ軌道ト交叉スル所アレハ其ノ位置及電氣鐵道ノ位置ヨリ二町以內ニ在ル他ノ鐵道又ハ軌道ノ位置、電氣鐵道ノ位置ヨリ凡一町以內ニ在ル架空弱電流電線路ノ位置、單線式其ノ他電路ノ一部トシテ大地ヲ使用スル方式ノ電氣鐵道ニ在リテハ電氣鐵道ノ位置ヨリ凡九町以內ニ在ル水道管、瓦斯管、地中電線其ノ他地中施設金屬管ノ位置、發電機變壓器又ハ廻轉變流機ノ一極ヲ接地シタル點ノ位置ヲ詳細ニ記載シ且電氣鐵道ノ距離ヲ半哩毎ニ記載スヘシ

四 軌道實測縱斷面圖（縮尺長サ平面圖ト同一ニシテ高サハ凡千分ノ一トシ中心線、地面ノ高低、築堤、切取、隧道、橋梁ノ位置、道路他ノ鐵道若ハ軌道ト交叉スル場合ニ在リテハ其ノ位置、軌道ノ勾配及經過地名等ヲ記載スヘシ）

前條第四項ノ場合ニ在リテハ關係電線路ノ位置及使用區域ヲ前項第一號及第三號ノ圖面中ニ記載スヘシ

第十七條　許可ヲ得タル事業ノ全部ニ對シ其ノ工事施行ノ認可ヲ一時ニ申請シ得サルトキハ理由ヲ具シ分割シテ認可ヲ申請スルコトヲ得

第十八條　電氣事業者第十二條ニ依リ工事施行ノ認可ヲ得タル後工事設計明細書中左ニ掲クル事項ヲ變更セムトスルトキハ關係書類圖面ヲ具シ工事施行地ヲ管轄スル遞信管理局長ヲ經由シテ遞信大臣ニ認可ヲ申請スヘシ工事落成期限ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一 發電所內設備
(イ)發電所ノ出力
(ロ)發電機「キロワット」數又ハ「キロヴォルトアムペア」數（交流ニ在リテハ力率ヲ記載スヘシ）、箇數（常用ト豫備トノ別）、直流交流ノ別、電壓（二割以上ノ變更ヲ爲ス場合ニ限ル）、相及周波數
(ハ)變壓器「キロヴォルトアムペア」數、箇數（常用ト豫備トノ別）、結線法、相、一次電壓、二次電壓（二割以上ノ變更ヲ爲ス場合ニ限ル）
(ニ)電動發電機、廻轉變流機及周波數變換機（種類、直流交流ノ別、電壓（二割以上ノ變更ヲ爲ス場合ニ限ル）、「キロワット」數及箇數）
(ホ)蓄電池（放電時間、放電容量及箇數）
(ヘ)保安裝置（種類及構造ノ大要）

二 送電線路
(イ)電氣方式（相及線式）及最大電壓
(ロ)架空電線路、地中電線路ノ別及其ノ構造

三 變電所內設備
(イ)變電所ノ出力
(ロ)變壓器（發電所內設備ノ(ハ)ニ準ス）

(ハ)電動發電機、廻轉變流機及周波數變換機（發電所內設備ノ(ニ)ニ準ス）
(ニ)蓄電池（發電所內設備ノ(ホ)ニ準ス）
(ホ)保安裝置（發電所內設備ノ(ヘ)ニ準ス）

四 蓄電所內設備
(イ)蓄電池（發電所內設備ノ(ホ)ニ準ス）
(ロ)保安裝置（發電所內設備ノ(ヘ)ニ準ス）

五 他ヨリ供給セラルル電力ノ受電設備
(イ)供給電力
(ロ)送電上ノ責任ノ分界トナルヘキ開閉器又ハ其ノ他ノ設備
(ハ)保安裝置（發電所內設備ノ(ヘ)ニ準ス）

六 配電設備
(イ)電氣方式（相及線式）及電壓（二割以上ノ變更ヲ爲ス場合ニ限ル）
(ロ)架空電線路、地中電線路ノ別及其ノ構造
(ハ)保安裝置（發電所內設備ノ(ヘ)ニ準ス）

七 電氣鐵道用饋電線路
(イ)電氣方式（直流交流ノ別）及電壓（二割以上ノ變更ヲ爲ス場合ニ限ル）
(ロ)架空電線路、地中電線路ノ別及其ノ構造

八 電車線路及軌道
(イ)電氣鐵道方式
(ロ)構造

第十五條第四項ニ規定セル電氣鐵道直接附帶設備ノ電灯電力使用區域又ハ「ワット」數ヲ變更セムトスルトキハ前項ニ準シ遞信大臣ニ認可ヲ申請スヘシ

第十九條　電氣事業者第十二條ニ依リ工事施行ノ認可ヲ得タル後電線路又ハ軌道ヲ延長、增設若ハ短縮シ又ハ其ノ位置ヲ變更セムトスルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス但シ事業ヲ開始セル地域內ニ於ケル高壓若ハ低壓電線路ニ關スル場合ニシテ前條ニ揭クル事項ヲ變更セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ工事施行前左ノ書類圖面ヲ具シ工事施行地ヲ管轄スル遞信管理局長ニ屆出ツヘシ之ヲ變更スル場合亦同シ

一　實測圖（第十六條ニ準ス）

二　落成期限書（第十三條ニ準ス）

架空引込線、架空連接引込線、地中引込線、需用者構內、發電所、變電所、蓄電所及開閉所構內ニ施設スル電線路ニ關シテハ本條ニ依ル認可ヲ受ケ又ハ屆出ヲ爲スコトヲ要セス

第二十條　認可ヲ得テ施設シタル電氣工作物ヲ滅失又ハ損壞シタルトキハ其ノ復舊工事ハ認可ヲ得スシテ著手スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ發電所、變電所又ハ蓄電所內ニ於ケル復舊工事ニ關スルトキハ第十八條ニ揭クル事項ヲ變更スル場合ト雖認可ヲ得スシテ其ノ工事ニ著手スルコトヲ得

復舊工事ニ著手シタルトキハ遲滯ナク第一項ノ場合ハ所轄遞信管理局長ニ第二項ノ場合ハ所轄遞信管理局長ヲ經由シテ遞信大臣ニ屆出ツヘシ

第二十一條　電氣事業者第十二條、第十八條第一項及第十九條第一項ニ依リ認可ヲ得タル工事ニ著手シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨所轄遞信管理局長ヲ經由シテ遞信大臣ニ屆出ツヘシ

第二十二條　工事落成期限カ工事著手ノ日ヨリ一年以上ニ亘ルモノナルトキハ電氣事業者ハ工事著手ノ日ヨリ六月每ニ工程表（第四號様式ニ依ル）ヲ調製シ前條ニ準シ屆出ツヘシ

第三章　土地立入、植物ノ伐除移植、土地使用、地中電氣工作物位置變更竝裁定

第二十三條　電氣事業法第七條第一項及第八條ニ規定シタル行政官廳ノ職權ハ市區ニ在リテハ地方長官其ノ他ノ地ニ在リテハ郡長、支廳長又ハ島司之ヲ行フ

市町村長ノ職務ハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ市町村長ニ準スヘキ吏員之ヲ行フ

第二十四條　電氣事業法第七條第一項ニ依リ電氣工作物ノ施設ニ關シ測量又ハ工事ノ爲土地立入ノ許可ヲ受ケムトスル電氣事業者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ

一　立入ノ目的

二　電氣事業及電氣工作物ノ種類

三　立入ルヘキ土地ノ區域、地目及番號

四　立入ルヘキ豫定時期及期間

許可ヲ得タル電氣事業者ハ左ノ事項ヲ市町村長ニ書面ヲ以テ通知スヘシ

一　前項各號ノ事項

二　許可ヲ與ヘタル行政官廳名及許可ノ年月日

第二十五條　電氣事業法第七條第一項ニ依ル市町村長ノ告示ハ左ノ事項ヲ具備スルコトヲ要ス

一　電氣事業者名

二　前條第一項各號ノ事項

三　許可ヲ與ヘタル行政官廳名竝許可年月日

告示ハ市町村役場ノ揭示場ニ揭示シ又ハ其ノ地ニ於テ發行スル新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

土地ノ占有者ニ通知スル場合ニハ第一項ノ規定ヲ準用ス其ノ通知ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十六條　電氣事業法第八條第一項ニ依リ竹木其ノ他ノ植物ヲ伐除又ハ移植スルカ爲許可ヲ受ケムトスル電氣事業者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ

一　電氣事業ノ種類

二　關係電線路ノ種類及電壓

三 障害ノ原因及程度、障害除却ノ方法及其ノ範圍竝其ノ實行ノ時期
四 植物ノ存在地及其ノ所有者ノ氏名竝住所
五 損失補償ノ見積金額及内譯
六 所有者ト協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサル事由
前項ノ申請書ニハ植物ノ存在地及附近ノ概況等ヲ記載シタル圖面ヲ添附スヘシ
電氣事業者ヨリ所有者ニ對スル通知ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
一 第一項第三號及第五號ノ事項
二 許可ヲ與ヘタル行政官廳名及其ノ許可年月日

第二十七條 電氣事業法第八條第二項ニ依リ提出スル竹木其ノ他ノ植物ノ伐除又ハ移植ニ關スル屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 前條第一項第一號乃至第五號ノ事項
二 危險急迫ノ事實
電氣事業者ヨリ所有者ニ對スル通知ニハ前項ノ規定ヲ準用ス

第二十八條 電氣事業法第七條、第八條又ハ第十條ニ依リ土地又ハ建造物ニ立入リ又ハ竹木其ノ他ノ植物ヲ伐除若ハ移植セムトスル者ハ電氣事業者タル證票ヲ携帶スヘシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受クヘキモノナルトキハ其ノ許可書ノ謄本ヲモ携帶スヘシ
前項ニ依リ携帶スル證票ハ土地若ハ建造物又ハ植物ノ管理者ニ對シ之ヲ呈示スヘシ其ノ管理者ヨリ許可書謄本ノ呈示ヲ請求セラレタルトキ亦同シ
電氣事業者ハ第一項ニ依リ携帶スヘキ證票ノ見本ヲ作業ノ日ヨリ少クトモ二日前ニ作業地所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第二十九條 電氣事業法第十條第二項ニ依リ土地使用ニ關スル許可ヲ受ケムトスル電氣事業者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ

一 電氣事業ノ種類、電線路ノ構造大要及電壓
二 電線路施設ノ爲當該地點ノ選定ヲ必要トスル事由
三 使用ノ範圍及土地ノ地目、番號
四 使用ノ期間
五 工事ノ著手及落成期限
六 現在ノ土地使用方法
七 損失補償ノ見積金額及内譯
八 所有者若ハ占有者ト協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサル事由
九 土地所有者及占有者ノ氏名竝住所
前項ノ申請書ニハ圖面（電線路ノ中心線、電柱其ノ他ノ支持物、家屋其ノ他ノ建造物、圍障、庭園、池沼、田畑、森林、野地其ノ他ノ狀況ヲ詳記シ且縮尺ヲ掲クヘシ）ヲ添附スヘシ

第三十條 電氣事業法第十條第二項ニ依リ電氣事業者ヨリ土地ノ所有者及占有者ニ對スル通知ハ地方長官ノ許可書ノ謄本ヲ添ヘ前條第一項第一號乃至第五號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三十一條 電氣事業法第十一條第一項ニ依リ電氣事業者ニ對シ障害ノ豫防又ハ除却ニ關スル請求ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
一 請求ノ目的
二 變更スヘキ土地使用方法（現存電線路ノ工事著手ノ際及現在ニ於ケル使用方法ヲ附記スヘシ）
三 土地使用方法變更ノ結果カ電氣工事規程ニ牴觸スル事由（障害ヲ受クヘキ物竝障害ノ種類及程度其ノ他ノ關係狀態竝電氣工事規程中牴觸スヘキ關係條項ヲ詳記シ且電線路ノ位置ト使用方法ヲ變更スヘキ土地トノ關係ヲ表示セル圖面ヲ添附スヘシ）
四 土地使用方法變更ノ豫定期限

第三十二條 電氣事業者前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ相當期間內ニ其ノ請求ニ應スルヤ否ヤヲ請求者ニ通知スヘシ
電氣事業者前條ノ請求ニ應スル場合ニ於テハ電氣事業法第十一條第二項但書ニ依リ請求者ノ負擔スヘキ費

用ノ擔保トシテ工事費見積額ニ相當スル金額ヲ其ノ工事著手前ニ供託スルコトヲ請求スルコトヲ得

第三十三條　電氣事業者電氣事業法第十一條第一項ニ依リ請求セラレタル障害ノ豫防又ハ除却工事ニ著手シタルトキ及之ヲ竣成シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨請求者ニ書面ヲ以テ通知スヘシ

電氣事業法第十一條第一項ニ依リ請求シタル者其ノ土地使用方法ノ變更ニ著手シタルトキ及之ヲ終了シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨電氣事業者ニ書面ヲ以テ通知スヘシ

第三十四條　電氣事業法第十二條ニ依リ裁定ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル正副二通ノ申請書ヲ作成シ當該行政官廳ニ提出スヘシ

一　申請人及相手方ノ氏名又ハ商號及住所

二　裁定事件ノ表示

三　申請ノ目的及理由

前項ノ申請書ヲ受理シタル行政官廳ハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ一定ノ期間内ニ答辯書ヲ差出サシムヘシ

必要ト認ムルトキハ申請人又ハ相手方ヨリ更ニ辯駁書、答辯書ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

指定ノ期間内ニ答辯書ヲ差出サヽルトキハ行政官廳ハ申請書ノミニ依リテ裁定スルコトヲ得副本ノ交付ヲ爲スコト能ハサルトキ亦同シ

第三十五條　裁定ヲ爲シタル行政官廳ハ理由ヲ付シタル書面ヲ以テ當事者雙方ニ之ヲ通知スヘシ

第三十六條　電氣事業法第十三條ニ依リ他人ニ屬スル地中電氣工作物ノ位置變更ニ關シ許可ヲ受ケムトスル電氣事業者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ電氣工作物施設地ヲ管轄スル遞信管理局長ヲ經由シテ遞信大臣ニ提出スヘシ

一　變更ヲ必要トスル事由

二　現存工作物ノ施設場所、種類及構造竝所屬電氣事業者名

三　施設セムトスル工作物ノ施設場所、種類及構造

四　工作物相互ノ位置竝其ノ附近ニ於ケル他ノ地中工作物トノ關係狀態

五　現存工作物ノ變更方法

六　變更工事ノ著手及落成期限

七　變更工事費見積金額及内譯

前項ノ申請書ニハ圖面ヲ添附スヘシ

電氣事業者前項ノ許可ヲ得タルトキハ許可書ノ謄本ヲ添ヘ第一項各號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ相手方ニ通知スヘシ

第三十七條　電氣事業法第十六條ニ依ル裁定ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル正副二通ノ申請書ヲ作成シ電氣工作物施設地ヲ管轄スル遞信管理局長ヲ經由シテ遞信大臣ニ提出スヘシ

一　申請人ノ商號又ハ氏名及住所

二　裁定事件ノ表示

三　申請ノ目的及理由

四　協議調ハサル顚末

裁定ニ關シテハ第三十四條ノ規定ヲ準用ス

第四章　主任技術者

第三十八條　電氣事業者ハ工事著手前ニ主任技術者ヲ選任シ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムヘシ

主任技術者ノ缺位ヲ生シタルトキハ電氣事業者ハ遲滯ナク其ノ後任者ヲ選任スヘシ

第三十九條　主任技術者ハ別ニ定ムル所ニ依リ相當ノ資格ヲ有スル者ナルコトヲ要ス

第四十條　電氣事業者主任技術者ヲ選任シタルトキハ履歴書ヲ添ヘ遞信大臣ニ屆出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

本條ノ屆書ハ所轄遞信管理局長ヲ經由スヘシ

主任技術者ニ缺位ヲ生シタルトキハ其ノ旨遞信大臣ニ屆出ツヘシ

第四十一條　遞信大臣ハ主任技術者カ其ノ職務ヲ怠リ又ハ其ノ職務ヲ行フニ不適當ナル行爲アリト認ムルト

キハ其ノ解任ヲ命スルコトアルヘシ

第四十二條　主任技術者疾病、旅行其ノ他ノ事由ニ因リ一月以上ニ亘リ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ電氣事業者ハ其ノ代務者ヲ選任シ履歴書ヲ添ヘ其ノ旨所轄遞信管理局長ニ屆出ツヘシ

第四十三條　本令ニ依リ官廳ニ提出スル書類圖面中技術ニ關スルモノハ主任技術者又ハ其ノ代務者之ニ署名捺印スヘシ但シ第三十八條ニ依ル主任技術者ノ選任前ニ在リテハ其ノ設計ヲ擔當シタル技術者之ニ署名捺印スヘシ

第五章　檢査

第四十四條　電氣事業者第十二條第十八條第一項又ハ第十九條第一項ニ依リ認可ヲ得タル工事落成シタルトキハ遲滯ナク遞信大臣ニ屆出テ同時ニ其ノ副本ヲ工作物施設地ヲ管轄スル遞信管理局長ニ提出スヘシ

第二十條ノ場合ニ於ケル工事落成シタルトキハ同條第三項ニ準シ屆出ツヘシ

前各項ノ屆出ハ電報、電話又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

電氣工事規程ニ依リ認可ヲ得テ施設スヘキ工事落成シタルトキハ遲滯ナク其ノ認可ヲ與ヘタル官廳ニ其ノ旨屆出ツヘシ但シ遞信大臣ニ屆出ツヘキ場合ニ於テハ同時ニ其ノ副本ヲ所轄遞信管理局長ニ提出スヘシ

第四十五條　電氣事業者ハ火藥其ノ他爆發性ノ物質ヲ製造又ハ藏置スル場所ニ電氣工作物ヲ施設シタルトキハ遲滯ナク工事方法ヲ具シ工作物施設地ヲ管轄スル遞信管理局長ニ屆出ツヘシ

第十九條第二項ニ依リ屆出ヲ爲シタル工事落成シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨工作物施設地ヲ管轄スル遞信管理局長ニ屆出ツヘシ

第四十六條　第四十四條第一項、第二項又ハ前條第一項ニ依ル屆出アリタルトキハ當該官廳ハ檢査吏員ヲ派遣シ其ノ落成シタル電氣工作物ヲ檢査セシメタル上使用認可證ヲ交付スヘシ但シ特ニ檢査ノ必要ナシト認ムルトキハ直ニ使用認可證ヲ交付スルコトアルヘシ

檢査ノ結果改修ヲ命シタル場合ニ於テ其ノ改修工事落成シタルトキハ前二條ニ準シ屆出ツヘシ

第四十七條　檢査吏員ニ於テ危險ナシト認メタルトキハ直ニ假使用認可證ヲ交付スルコトアルヘシ

假使用認可證ノ有效期間ハ六十日トス

第四十八條　第二十條ノ復舊工事落成シタルトキハ第十八條ニ揭クル事項ニ變更ヲ生セサル場合ニ限リ使用認可證ヲ受ケスシテ其ノ落成電氣工作物ヲ使用スルコトヲ得

第四十九條　第十二條ニ依リ認可ヲ得タル工事落成シタルトキハ電氣事業者ハ電氣工作物竣工明細書（別記第五號樣式）ヲ調製シ該工作物檢査ノ爲派遣セラレタル檢査吏員ヲ經由シテ遞信大臣ニ屆出ツヘシ但シ檢査ヲ受ケスシテ使用認可證ヲ交付セラレタルトキハ直ニ遞信大臣ニ屆出ツヘシ

增設又ハ變更工事ノ落成ニ因リ電氣工作物竣工明細書中ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ但シ其ノ落成電氣工作物カ使用認可證ヲ受ケスシテ使用シ得ルモノナルトキハ直ニ遞信大臣ニ屆出ツヘシ

電氣事業者ハ前二項ニ依ル明細書ノ副本ヲ所轄遞信管理局長ニ提出スヘシ

第六章　業務

第五十條　電氣供給事業者ハ需用者ニ對シ正當ノ理由ナクシテ電氣ノ供給ヲ拒絶スルコトヲ得ス

第五十一條　電氣事業者ハ供給點ニ於テ保持スヘキ一定電壓又ハ一定電流ヲシテ百分ノ四以上ノ變動ヲ起サシメサルコトヲ要ス且電燈供給ノ場合ニ在リテハ技術上已ムヲ得サルモノヲ除クノ外光力ニ不定ヲ生セシメサルコトヲ要ス但シ特殊ノ事由アル場合ニ於テ遞信大臣ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條　電燈ノ光力ヲ表示スルニハ燭光ヲ以テ單位トス

一燭光ハ氣壓七百六十「ミリメートル」ノ時一立方「メートル」ニ付八「リットル」ノ水蒸氣ヲ含有スル空氣中ニ於テ燃燒スル「ハーコート」氏十燭光「ペンテーン」燈ノ光力ノ十分ノ一トス

第五十三條　光力ヲ以テ契約スル電燈供給ニ使用スル白熱電燈球ニハ燭光及電壓ヲ指示スヘシ

前項ノ指示燭光數ハ平均水平燭光ヲ以テ表示シ其ノ誤差ハ百分ノ十ヲ超過セサルコトヲ要ス

第五十四條　電氣事業者カ白熱電燈球ヲ提供シテ電燈ヲ供給スル場合ニ於テ其ノ光力取附後ノ使用ニ依リ指示電壓ニ於テ指示燭光數ノ百分ノ八十以下ニ減少シ且需用者ノ請求アルトキハ電氣事業者ハ新ナル電燈球ト取換ヲ爲スヘシ

第五十五條　電氣供給事業者ハ事業開始前ニ於テ電氣供給規程ヲ定メ遞信大臣ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

前項ノ規程ニハ左ノ事項ヲ規定スルコトヲ要ス

一　供給時間（晝夜間竝電燈、電力等ニ區別スヘシ）

二　供給料金（晝夜間、電燈、電力、從量、定額等ニ區別スヘシ）

三　電氣計器其ノ他需用者ノ使用ニ供スル器具費ノ負擔又ハ其ノ賃貸料若ハ賣渡代金

四　需用場所ニ於ケル器具電線ノ取附、撤去其ノ他ノ工事費ノ負擔

五　前各號ノ外電氣供給上ノ條件

本條ノ届書ハ同時ニ其ノ副本ヲ供給區域ヲ管轄スル地方長官及遞信管理局長ニ提出スヘシ

第五十六條　電路ハ常ニ之ヲ檢査シ安全ト認ムルニ非サレハ之ニ送電スルコトヲ得ス

第五十七條　電氣供給事業者ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ全部又ハ一部ノ事業ヲ休止スルコトヲ得ス

第五十八條　修繕其ノ他ノ原因ニ因リ送電ヲ中止スルトキハ急遽ノ場合ヲ除クノ外其ノ旨ヲ關係需用者ニ豫告スヘシ

第五十九條　地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ニ於テ保安上必要アリト認ムルトキハ電氣事業者ニ對シ電線路ノ要所ニ技術員ノ散宿所ヲ設置セシメ常時其ノ在勤ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ散宿所ニハ公衆ノ睹易キ所ニ其ノ標札ヲ掲クヘシ

第六十條　電氣事業者ハ保線係員ヲシテ常時電線路ヲ巡視セシムヘシ

第六十一條　電氣事業者ハ送電中出火、暴風其ノ他非常ノ場合ニ際シ危險ナリト認ムル區域内ノ架空電線ニ對シ速ニ其ノ送電ヲ遮斷スヘシ

前項ニ依リ送電ヲ中止シタル區域内電路ノ各要所ニ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ掲クヘシ

第六十二條　電氣事業者ハ送電中ノ架空電線ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ現場ニ技術員ヲ派遣シ危險豫防ノ手續ヲ施シ其ノ旨出張ノ警察官ニ届出シムヘシ其ノ技術員ハ警察官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ退場スルコトヲ得ス

出火ノ場所ニ派遣ノ技術員ニハ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ携帶セシムヘシ

第六十三條　前二條ニ依リ使用スヘキ標旗及標燈ノ樣式ハ別ニ之ヲ告示ス

第六十四條　電氣事業者ハ毎事業決算期ニ於テ別ニ定ムル所ニ依リ電氣事業報告書ヲ作成シ決算期後一月内ニ遞信大臣ニ届出ツヘシ但シ決算期ノ定メナキモノハ一年毎ニ届出ツヘシ

第六十五條　電氣事業者ハ別ニ定ムル所ニ依リ電氣工作物ノ故障及其ノ運轉使用ニ關スル事故ノ届出ヲ爲スヘシ

第六十六條　左ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ遲滯ナク遞信大臣ニ届出テ同時ニ其ノ副本ヲ所轄地方長官及遞信管理局長ニ提出スヘシ

一　會社成立シタルトキ

二　會社ノ取締役、監査役ヲ選任若ハ改任シタルトキ、總社員ノ同意ヲ以テ代表社員ヲ定メタルトキ又ハ其ノ氏名ヲ變更シタルトキ

三　營業所又ハ事務所ヲ設置シ若ハ變更シタルトキ

四　事業ヲ開始シ又ハ休止若ハ廢止シタルトキ

第六十七條　電氣事業者カ電氣事業ノ爲ニ社債ヲ發行シタルトキ若ハ借入金ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ遞信大臣ニ届出テ同時ニ其ノ副本ヲ所轄地方長官ニ提出スヘシ

一　社債ノ發行又ハ借入金ヲ爲ス事由

二　社債又ハ借入金ノ總額

第七章　監査

第六十八條　遞信大臣ハ吏員ヲ派遣シ電氣工作物若ハ其ノ工事中ノ狀況又ハ事業經營ノ實況ヲ監査セシムルコトアルヘシ

遞信大臣ハ必要ト認ムルトキハ電氣事業者ニ命シ現ニ使用シ若ハ使用セムトスル機械器具其ノ他物品ノ見本ヲ差出サシメ其ノ試驗ヲ爲スコトアルヘシ

見本ノ運搬ニ要スル費用並試驗ニ因テ生スル損害ハ電氣事業者ノ負擔トス

第六十九條　遞信大臣ハ既設若ハ工事中ノ電氣工作物カ他ニ障害ヲ及ホシ若ハ危險ナリト認ムルトキハ改修、撤去若ハ使用ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ

第七十條　遞信大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ電氣事業者ニ對シ事業經營上必要ナル設備ノ變更又ハ增設ヲ命スルコトアルヘシ

第七十一條　電氣供給事業者カ供給區域内ノ一部分ニ於ケル事業ヲ開始シタル後久シキニ亘リ其ノ殘餘部分ニ對シ正當ノ理由ナクシテ電線路其ノ他供給上必要ナル設備ヲ爲サヾルトキハ遞信大臣ハ許可ノ一部ヲ取消スコトアルヘシ

第七十二條　道路又ハ他人ノ土地ニ施設シタル電線路ニシテ其ノ使用ヲ廢止シタルモノハ電氣事業者之ヲ撤去スヘシ

需用場所ニ施設シタル電氣工作物ニシテ電氣事業者ニ屬スルモノハ需用者ヨリ撤去ノ請求アリタルトキ亦前項ニ同シ

電氣事業者電氣工作物ヲ施設シタル後久シキニ亘リ之カ使用ヲ爲サヾルトキハ遞信大臣ハ其ノ撤去ヲ命スルコトアルヘシ

第八章　罰　則

第七十三條　本令ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シ又ハ故ナク監査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十四條　本令ノ規定ニ依ル屆出又ハ通知ヲ怠リタル者ハ科料ニ處ス

第七十五條　第二十八條ノ規定ニ依リ證票及許可書ノ謄本ヲ携帶セス又ハ證票ヲ呈示セスシテ土地又ハ建造物ニ立入リ又ハ植物ヲ伐除若ハ移植シタル者ハ科料ニ處ス

管理者ヨリ請求ヲ受ケタルニ拘ラス許可書ノ謄本ヲ呈示セサル者亦同シ

附　則

第七十六條　本令ハ電氣事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

電氣事業取締規則ハ之ヲ廢止ス

第七十七條　本令ニ依リ遞信管理局長ヲ經由スヘキ書類圖面ニシテ訂正ニ係ルモノハ遞信大臣ニ於テ指示シタル場合ニ限リ直接ニ之ヲ提出スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ訂正ニ係ル書類圖面ノ副本ヲ當該遞信管理局長ニ提出スヘシ

第七十八條　電氣事業法施行ノ際現ニ電氣事業ヲ營ム者又ハ同法施行前ニ於テ電氣事業經營ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ本令施行前ニ於テ爲シタル處分ハ本令ノ規定ニ牴觸スルモノヲ除クノ外本令施行後ト雖猶其ノ效力ヲ有ス

第七十九條　本令施行前ニ於テ電氣事業取締規則ニ依リ提出シタル許可又ハ認可ノ申請ニシテ本令施行ノ際マテニ處分ヲ受ケサルモノハ本令施行後ニ於テハ本令ニ依リ提出シタルモノト看做ス但シ本令ノ規定ニ依リ提出ヲ要スル書類圖面ハ更ニ之ヲ補充セシムルコトアルヘシ

第八十條　本令施行前ニ於テ許可ヲ得タル電氣鐵道事業者ハ軌道條例ニ依ルモノヲ除クノ外第三條ノ起業目論見書第四條ノ工事設計書（第四號乃至第八號ノ事項ヲ除ク）第十五條ノ工事設計明細書第十六條ノ實測圖及第一條第二項中ノ關係書類ヲ調製シ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ之ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

（別記）

（第一號樣式）

工事費概算書

項目	單位	單價	數量	金額	小計	備考
		圓		圓	圓	
創立費						
水力工事費（各發電所毎ニ記載スルコト）	一キロワット					（水路ノ長サヲ記入スルコト）
發電所費（同上）	〃					
建設費	〃					（用地建物基礎等）
原動機費	〃					
電氣機械器具費	〃					
運搬据附其ノ他	〃					
變電所又ハ蓄電所費（各變電所各蓄電所毎ニ記載スルコト）	〃					
建設費	〃					（用地建物基礎等）
電氣機械器具費	〃					
運搬据附其ノ他	〃					
送電線路費	一哩					
發電所變電所間架空電線路	〃					
〃 〃 地中電線路	〃					
配電線路費	〃					
架空配電線路	〃					
地中配電線路	〃					
需用者屋內工事費						
電燈	一燈					
電力	一キロワット					
軌道工事費	一哩					
電車線路及饋電線路費	〃					
車輛費	一臺					
修繕工場費						
豫備費						
合計						

年　月　日　　主任技術者（擔當技術者）

氏　名　㊞

（第二號樣式）

事業上ノ收支概算書

收入ノ部

項目	單位	單位ニ對スル金額	數量	金額	小計	備考
		圓	十燭光換算灯數	圓	圓	
電燈料 定額	十燭光一箇月一灯					（電燈球種類記入ノコト從量燈ニ在リテハ一燈一箇月平均使用「キロワット」時ヲ記入スルコト）
電燈料 從量	一キロワット時					
電力料 定額	一箇月一馬力					（從量ニ依ル場合ニハ一馬力一箇月平均使用「キロワット」時ヲ記入スルコト）
電力料 從量	一キロワット時					
電燈器具損料	一箇月一灯					
電氣計器損料	一箇月一箇					電氣計器ノワット數ヲ記入スルコト
電動機損料	一箇月一キロワット					
器具賣上益金						
電氣工事ヨリ生スル益金						
客車收入	人、哩					客車一日ノ平均走行哩及一日平均運轉車輛數ヲ記入スルコト
貨車收入	噸、哩					貨車一日ノ平均走行哩及一日平均運轉車輛數ヲ記入スルコト
雜收入						利息掃除料其ノ他
合計						

支出ノ部

(1)

項目	單位	單位ニ對スル金額	數量	金額	小計	備考
		圓		圓	圓	
水路維持費						(水路亘長ヲ記入スルコト)
給料手當	人					
修繕費						(水路工事費トノ割合ヲ記入スルコト)
其ノ他						
發電所運轉及維持費(各發電所毎ニ記載スルコト)						(出力ヲ記入スルコト)
給料手當	人					
燃料	斤					
油及襤褸						
修繕費						(變電所工事費トノ割合ヲ記入スルコト)
其ノ他						
變電所又ハ蓄電所維持費(各變電所又ハ各蓄電所毎ニ記載スルコト)						(出力ヲ記入スルコト)
給料手當	人					
油及襤褸						
修繕費						(發電所又ハ蓄電所工事費トノ割合ヲ記入スルコト)
其ノ他						
送電線路維持費						(亘長ヲ記入スルコト)
給料手當	人					
修繕費						(送電線路工事費トノ割合ヲ記入スルコト)
其ノ他						
配電線路維持費						(亘長ヲ記入スルコト)
給料手當	人					
修繕費						(配電線路工事費トノ割合ヲ記入スルコト)
其ノ他						
需用者工作物維持費						(電燈、電動機其ノ他ノ電力裝置箇數ヲ記入スルコト)
給料手當	人					
修繕費						
其ノ他						

(2)

項目	單位	單位ニ對スル金額	數量	金額	小計	備考
		圓		圓	圓	
軌道維持費						(亘長ヲ記入スルコト)
給料手當	人					
修繕費						(軌道工事費トノ割合ヲ記入スルコト)
其ノ他						
電車線路及饋電線路維持費						(亘長ヲ記入スルコト)
給料手當	人					
修繕費						(電車線路及饋電線路工事費トノ割合ヲ記入スルコト)
其ノ他						
車輛運轉及維持費						(電氣機關車、客車貨車及附隨車ノ總數ヲ記入スルコト)
給料手當	人					
油及襤褸						
修繕費						(車輛費トノ割合ヲ記入スルコト)
其ノ他						
電力料						(他ヨリ供給セラルル電力ニ依リ營業スルモノ)
本社費						(事務所出張所ヲ含ム)
給料及諸給	人					
旅費						
通信費						
税金						
消耗品費						
雜費						(修繕費等ヲ含ム)
其ノ他						
合計						
差引純益金						

純益金内譯
- 法定積立金
- 賞與金
- 減損積立金(水路、發電所、變電所、蓄電所、送電線路、配電線路、需用者工作物、軌道、車輛、電車線路ノ各項ニ付其ノ工事費ニ對スル割合ヲ計載スルコト)
- 利益金

利益金ノ資本ニ對スル割合

備考
1. 電灯料金及電力料金並電灯球ノ種類及賣價又ハ賃貸料等ヲ附記説明スヘシ
2. 電氣供給又ハ電氣鐵道事業以外ノ事業ヲ兼營スルモノニ在リテハ其ノ兼營事業ノ收支及計算ノ大要ヲ附記説明スヘシ

（第三號樣式）

工費豫算書

(1)

項目	單位	單位ニ對スル金額	數量	金額	小計	備考
		圓		圓	圓	
準備費						
設計費						
測量費						
工事監督費						
總掛費						
水力工事費（各發電所毎ニ記載スルコト）						
用地	坪					
堰堤						
取入口						
水路（開渠、木樋、隧道、水路管等ニ區分シ記載スルコト）	間					
水槽						
放水路						
水壓管	尺					
貯水池　用地	坪					
貯水池　工事費						
雜工事（餘水吐、沈砂池、土砂吐等ニ區分シ記載スルコト）						
發電所費（各發電所毎ニ記載スルコト）						
建設費						
用地	坪					
基礎工事	立坪					
建物	坪					
雜工事費						地均シ、井戸、附屬建物、起重機及其ノ他ノ設備ヲ含ム
原動機費（水力）						
水車	箇					
調速機						
附屬器						鐵管ヲ含ム
其ノ他						

(2)

項目	單位	單位ニ對スル金額	數量	金額	小計	備考
		圓		圓	圓	
原動機費（蒸汽力）						
汽罐	箇					
給炭器	ク					
給水喞筒	ク					
汽機	ク					
凝汽器	ク					
温水器	ク					
節炭器	組					
烟突						
烟道						
鐵管						
其ノ他						
原動機費（石油及瓦斯力）						
瓦斯發生裝置	組					（冷却器、洗滌器等ヲ含ム）
發動機	箇					
附屬機械						（起動裝置及喞筒類ヲ含ム）
其ノ他						
電氣機器費						
發電機						
勵磁機						
變壓器						
蓄電池						
配電盤一式						
其ノ他						（取附用電線等ヲ含ム）
運搬費						
据附費						
雜費						
變電所、蓄電所又ハ開閉所費（各變電所、蓄電所又ハ開閉所毎ニ記載スルコト）						
建設費						
用地	坪					

項目	單位	單位ニ對スル金額	數量	金額	小計	備考
		圓		圓	圓	
基礎工事	立坪					
建物	坪					
雜工事費						(發電所雜工事費ニ準ス)
電氣機器費						
變壓器	箇					
電動發電機其他	ク					
配電盤一式						
蓄電池	箇					
其ノ他						(取付用電線等ヲ含ム)
運搬費						
据附費						
雜費						
送電線路費						
發電所及變電所間架空電線路	哩					(電線路亘長ヲ記入スルコト)
電線	封度					
碍子	箇					
電柱(木柱鐵柱又ハ鐵塔)	本 箇					
其ノ他ノ材料						(腕木、ボルト、綁縛線、根枷、鐵線等ヲ含ム)
建設費						(運搬費ヲ含ム)
交渉、踏荒、伐木其ノ他損害賠償						
其ノ他						
發電所變電所間地中電線路	哩					(電線路亘長記入スルコト)
電纜	尺					
線渠	ク					
地中函	箇					
布設材料	電線一尺					
布設費	ク					
損害賠償						(地中工作物移轉費ヲ含ム)
其ノ他						

項目	單位	單位ニ對スル金額	數量	金額	小計	備考
		圓		圓	圓	
配電線路費						
架空配電線路費	哩					(亘長記入スルコト)
電線	封度					
電柱	本					
腕木碍子其ノ他ノ材料						
柱上變壓器	キロワット					
建設費						(開閉器保安裝置等ヲ含ム)
其ノ他						
地中配電線路費	哩					(亘長記入ノコト)
電纜	尺					
線渠	ク					
接續函	箇					
地中函 變壓函	タ					
地中函 配電函	ク					
變壓器	キロワット					
布設材料	電纜一尺					
布設費	ク					
損害賠償						(地中工作物移轉費ヲ含ム)
其ノ他						
屋內工事費						
電動機	キロワット					
電動機取附工事費						
電燈工事費						
其ノ他						(電氣計器ヲ含ム)
軌道工事費	哩					
用地費						
用地						
移轉費						(地中埋設物ヲ含ム)
其ノ他						

(5)

項目	單位	單位ニ對スル金額	數量	金額	小計	備考
		圓		圓	圓	
土工費						
切取	立坪					
築堤	ク					
土留	平坪					
其ノ他						
橋梁費	延長尺					
隧道費	ク					
軌道費						
軌條及附屬品	哩					
枕木	本					
轉轍器及轍叉	組					
砂利費	立坪					
敷設費	哩					
其ノ他						
ボンド	箇					(ボンド)又ハ軌條ノ電氣的接合費
補助線	封度					
雜工事費						(溝渠、伏樋、踏切等ヲ含ム)
電車線及饋電線路費	哩					(電車線ノ亘長ヲ記入スルコト)
電車線	封度					
饋電線	ク					
電柱 木柱	本					
電柱 鐵柱	ク					
架線材料一式						
建設費						
車庫費						
用地	坪					
建物	ク					
其ノ他						
車輛費						
電氣機關車	臺					
客車 ボギー車	臺					
客車 四輪車	臺					

(6)

項目	單位	單位ニ對スル金額	數量	金額	小計	備考
		圓		圓	圓	
貨車 ボギー車	臺					
貨車 四輪車	臺					
其ノ他						
修繕工場費						
用地	坪					
建物	坪					
設備一切						
其ノ他設備費(本社事務所建物、停車場、電話、信號、點燈等ニ區分シ記入スルコト)						
豫備費						
總計						

年　月　日　　主任技術者(擔當技術者)

氏名 ㊞

（第四號樣式）

工程表

一　材料及土地使用ノ準備

二　水力工事水路、貯水池、水管施設其ノ他水力土工

三　軌道建築工事道路取擴、隧道開鑿、築堤、掘鑿橋梁軌道地形、軌條ノ敷設、軌條ノ電氣的接續等

四　發電所、變電所、蓄電所及開閉所建築工事

五　機械器具ノ裝置工事機械類ノ地形、原動機、發電機其ノ他機械器具等ノ据付若ハ設置

六　電線路施設工事電柱建設、架空線架渉、地中線敷設其ノ他電線路ノ土工

七　需用者屋內電氣工事電灯又ハ電動機ノ取附箇數

（第五號樣式）

電氣工作物竣工明細書

一　送電關係一覽圖全事業ニ就テ發電所ヨリ需用家又ハ電車線ニ亙ル送電關係ヲ已設及新設ニ區別シ記入スヘシ

二　發電工事一發電所毎ニ記載スヘシ

（一）發電所ノ位置及名稱

（二）發電所ノ出力

（三）原動力工事

（甲）水力工事

（イ）使用河川（又ハ湖沼）名

（ロ）使用流水量許可流水量及各水車一臺ノ所要水量

（ハ）落差取入口放水路間ノ高低落差及有效落差

（ニ）水路堰堤、取入口、制水門、隧道、開渠、蓋渠、水樋、水路橋、水路管、水槽、放水路、沈砂池、土砂吐、餘水路、雜工事等ノ別ニ從ヒ各部ノ構造、材料

說明圖ヲ添附スヘシ

（ホ）貯水池容量、堰堤ノ構造、材料、地形、地質

說明圖ヲ添附スヘシ

（ヘ）水壓管構造、條數、亘長、保安裝置製造者名（水壓鐵管及吸出管ヲ含ム）

說明圖ヲ添附スヘシ

（ト）水車種類、馬力數、廻轉數、箇數（常用ト豫備トノ別）、製造者名

（チ）調速機種類、製造者名

（乙）汽力工事

（イ）汽罐種類汽壓、蒸發量（一時間ニ付）、火爐面積、加熱面積、箇數（常用ト豫備トノ別）製造者名、

（ロ）汽機種類、馬力數、廻轉數、衝程、汽筒ノ徑、汽壓、調速機ノ種類、箇數（常用ト豫備トノ別）、製造者名

（ハ）給水設備喞筒ノ種類、給水量、製造者名、箇數（常用ト豫備トノ別）、原動機ノ種類、馬力數及箇數

（ニ）凝汽器種類、箇數、製造者名、空氣喞筒ノ種類、箇數、循環喞筒ノ種類、箇數、原動機ノ種類、箇數及馬力數

（ホ）溫水器種類、大サ、箇數、製造者名

（ヘ）節炭器種類、大サ、箇數、製造者名

（ト）通風器種類、箇數、原動機ノ種類及馬力數、製造者名

（チ）煙突構造、材料、口徑、高サ、製造者名

（リ）其ノ他ノ設備

（丙）瓦斯力工事